

塚原古墳群

— 2 次 調 査 —

福岡県春日市塚原台所在遺跡の調査

春日市文化財調査報告書 第80集

2019

春日市教育委員会

塚原古墳群

— 2 次 調 査 —

福岡県春日市塚原台所在遺跡の調査

春日市文化財調査報告書 第80集

序

春日市は福岡都市圏の中央部に位置し、昭和40年代以降、福岡都心部に近い地理的条件と高い交通の利便性のもとで、福岡都市圏における住宅都市として成長してきました。そして、将来都市像として「住みよき発見 市民都市かすが」と定め、誰もが住みよいまちの実現に向けてまちづくりを推進しています。

本市が位置する福岡平野は、古くから中国大陸や朝鮮半島との交流の玄関口として栄えてきました。特別史跡「水城跡」や国指定史跡「須玖岡本遺跡」「日拝塚古墳」をはじめ、多くの遺跡があります。

本書は平成9年度に発掘調査を実施した塚原古墳群2次調査の調査報告書です。塚原古墳群は大野城市に隣接し、周辺の遺跡には同時代の古墳群や集落、須恵器窯跡など、古墳時代後期以降の遺跡が多く所在しています。この中で、塚原古墳群は古墳時代から奈良時代まで長く営まれていたことがわかりました。この地域では、牛頭須恵器窯跡群が操業された時期でもあり、当時の暮らしを考える上で貴重な歴史遺産であるといえます。

本書が文化財への理解を深めるため広く活用され、また、市民の皆様が地域の歴史を知る一助となれば幸いです。

最後になりましたが、地権者の皆様をはじめ、発掘調査に際し御理解御協力をいただきました皆様に深く謝意を申し上げます。

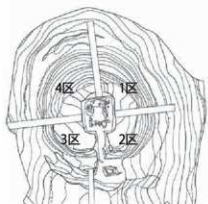
平成31年3月31日

春日市教育委員会

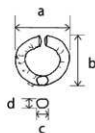
教育長 山本直俊

例 言

- 1 本書は1997年4月10日から同年8月18日にかけて春日市教育委員会が実施した塚原古墳群2次調査の報告書である。
- 2 遺構の実測は丸山康晴、平田定幸、森井千賀子、境靖紀が行い、製図は水上愛子、柏木千恵、堤りかが行った。
- 3 遺物の実測、製図は川村博、足立崇徳、井上剛、久家春美、竹田祐子、森井が行った。
- 4 掲載した写真のうち、遺構については平田、森井、境が撮影し、空中写真を(有)空中写真企画に委託、遺物については西村新二((株)タクト)に委託した。
- 5 本書に使用した2万5千分の1の地形図は、国土地理院発行の『福岡南部』である。
- 6 本書の遺構実測図に用いた方位は磁北である。
- 7 出土土器の色調の記載については、小山正志・竹原秀雄編『新版標準土色帳』1996年後期版 農林水産省農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所色票監修を用いた。
- 8 本書の執筆、編集は森井が行った。



凡例1 古墳(墳丘、周溝)部位名称



凡例2 耳環計測箇所

本文目次

I	はじめに	1
1	調査の経緯	1
2	調査の組織	1
II	位置と環境	2
III	調査の内容	5
1	調査の概要	5
2	古墳の調査	5
(1)	1号墳	5
①	位置と現況	5
②	墳丘	5
③	主体部	5
④	出土遺物	6
(2)	2号墳	25
①	位置と現況	25
②	墳丘	25
③	主体部	25
④	出土遺物	26
(3)	3号墳	30
①	位置と現況	30
②	墳丘	30
③	主体部	30
④	出土遺物	36
(4)	4号墳	52
①	位置と現況	52
(5)	5号墳	52
①	位置と現況	52
②	墳丘	52
③	主体部	52
④	出土遺物	52
3	その他の遺構と遺物	68
(1)	堅穴遺物跡	68
IV	総括	68

図 版 目 次

- 図版 1 (1) 調査区全景 (北東から) 図版 18 3号墳出土土器①
(2) 調査区全景 (上が南) 図版 19 3号墳出土土器②
- 図版 2 (1) 1号墳全景 (上が北東) 図版 20 3号墳出土土器③
(2) 1号墳石室掘方 (上が北東) 図版 21 3号墳出土土器④
- 図版 3 (1) 1号墳周溝土器出土状況 (南西から) 図版 22 3号墳出土土器⑤
(2) 1号墳周溝土器出土状況 (南東から) 図版 23 3号墳出土土器⑥、石器、5号墳出土
(3) 1号墳周溝出土土器 A 群 (南西から) 土器①
(4) 1号墳周溝出土土器 B 群 (南西から) 図版 24 5号墳出土土器②
- 図版 4 (1) 2号墳全景 (上が東) 図版 25 5号墳出土土器③
(2) 2号墳石室掘方全景 (上が東) 図版 26 5号墳出土土器④
- 図版 5 (1) 3号墳全景 (上が南東) 図版 27 5号墳出土鉄器
(2) 3号墳石室掘方全景 (上が南東) 図版 28 5号墳出土土製品、耳環、石器、1・2
号竪穴建物跡出土土器
- 図版 6 (1) 3号墳周溝土器出土状況 (南西から) 図版 29 出土須恵器のへら記号、当具直
(2) 3号墳周溝土器出土状況 (南東から)
(3) 3号墳周溝土器出土状況 (南西から)
- 図版 7 (1) 4号墳全景 (上が西)
(2) 5号墳全景 (上が東)
- 図版 8 (1) 5号墳石室全景 (上が東)
(2) 5号墳玄室遺物出土状況 (東から)
- 図版 9 (1) 5号墳墓道検出状況 (南から)
(2) 5号墳墓道土層断面 (南から)
(3) 1号竪穴建物跡 (北東から)
(4) 2号竪穴建物跡 (南東から)
- 図版 10 1号墳出土土器①
- 図版 11 1号墳出土土器②
- 図版 12 1号墳出土土器③
- 図版 13 1号墳出土土器④
- 図版 14 1号墳出土土器⑤、石器、玉類
- 図版 15 2号墳出土土器①
- 図版 16 2号墳出土土器②
- 図版 17 2号墳出土土器③、鉄器、石製品、耳環、
石器

挿 図 目 次

第 1 図	塚原古墳群周辺遺跡分布図 (1/25,000).....	3
第 2 図	塚原古墳群調査地点位置図 (1/2,500)	4
第 3 図	塚原古墳群 2 次調査地点地形測畧図 (1/200)	7・8
第 4 図	塚原古墳群 2 次調査遺構配置図 (1/200)	9・10
第 5 図	1 号墳石室実測図 (1/60).....	11
第 6 図	須恵器出土状況実測図 (1/20).....	12
第 7 図	墓道土層断面実測図 (1/60).....	12
第 8 図	1 号墳墳丘及び 1・2 号墳間土層断面実測図 (1/60).....	13・14
第 9 図	1 号墳出土土器実測図① (1/3)	15
第 10 図	1 号墳出土土器実測図② (1/3)	16
第 11 図	1 号墳出土土器実測図③ (1/3、33 は 1/6)	17
第 12 図	1 号墳出土土器実測図④ (1/3)	18
第 13 図	1 号墳出土土器実測図⑤ (1/3)	19
第 14 図	1 号墳出土土器実測図⑥ (1/3)	20
第 15 図	1 号墳出土土器実測図⑦ (1/3、98・106 は 1/6).....	21
第 16 図	1 号墳出土土器実測図⑧ (1/3)	22
第 17 図	1 号墳出土土器実測図⑨ (1/3、138 は 1/6).....	23
第 18 図	1 号墳出土土器実測図⑩ (1/3、144 は 1/6).....	24
第 19 図	1 号墳出土玉類・石器 (1/2)	25
第 20 図	2 号墳石室実測図 (1/60).....	27・28
第 21 図	2 号墳墳丘土層断面実測図 (1/60).....	29
第 22 図	2 号墳墓道土層断面実測図 (1/60) 及び墓道土器出土地点	30
第 23 図	2 号墳出土土器実測図① (1/3)	31
第 24 図	2 号墳出土土器実測図② (1/3)	32
第 25 図	2 号墳出土土器実測図③ (1/3)	33
第 26 図	2 号墳出土土器実測図④ (1/3)	34
第 27 図	2 号墳出土土器実測図⑤ (1/3)	35
第 28 図	2 号墳出土土器実測図⑥ (1/3)	36
第 29 図	2 号墳出土鉄器・装身具・石製品・石器実測図 (1/2)	37
第 30 図	3 号墳石室・墓道土層断面実測図 (1/60).....	38
第 31 図	2・3 号墳間及び 3・4 号墳墳丘土層断面実測図 (1/60).....	39・40
第 32 図	3 号墳周溝土器出土地点 (1/200)	41

第33図	3号墳出土土器実測図① (1/3)	42
第34図	3号墳出土土器実測図② (1/3)	43
第35図	3号墳出土土器実測図③ (1/3、37・38・40は1/6)	44
第36図	3号墳出土土器実測図④ (1/3)	45
第37図	3号墳出土土器実測図⑤ (1/3)	46
第38図	3号墳出土土器実測図⑥ (1/3)	47
第39図	3号墳出土土器実測図⑦ (1/3)	48
第40図	3号墳出土土器実測図⑧ (1/3)	49
第41図	3号墳出土土器実測図⑨ (1/3)	50
第42図	3号墳出土土器実測図⑩ (1/3、158は1/6)	51
第43図	3号墳出土玉類・石器実測図 (1/2)	51
第44図	5号墳石室・墓道土層断面実測図 (1/60)	53・54
第45図	5号墳墳丘土層断面実測図 (1/60)	55
第46図	5号墳石室遺物出土状況実測図 (1/20)	56
第47図	5号墳周溝実測図 (1/60)	56
第48図	5号墳出土土器実測図① (1/3)	58
第49図	5号墳出土土器実測図② (1/3、23は1/6)	59
第50図	5号墳出土土器実測図③ (1/3、27・36は1/6)	60
第51図	5号墳出土土器実測図④ (1/3、45は1/6)	61
第52図	5号墳出土土器実測図⑤ (1/3、56は1/6)	62
第53図	5号墳出土土器実測図⑥ (1/3)	63
第54図	5号墳出土土器実測図⑦ (1/3)	64
第55図	5号墳出土土器実測図⑧ (1/3、96・97は1/6)	65
第56図	5号墳出土鉄器実測図 (1/2)	66
第57図	5号墳出土装身具・土製品・石器実測図 (1/2)	67
第58図	1・2号竪穴建物跡実測図 (1/30・1/60)	69
第59図	1・2号竪穴建物跡出土土器実測図 (1/3)	70

I はじめに

1 調査の経緯

塚原古墳群は倉庫建設に伴う緊急発掘調査である。開発計画では古墳が所在する小丘陵を北側道路面の高さまで切土するため、平成8年度は小丘陵の東裾部を塚原遺跡（塚原古墳群1次調査）、平成9年度は丘陵部を塚原古墳群（同2次調査）として本調査を実施した。

対象地は発掘調査以前に、福岡県教育委員会による踏査で、尾根上の北側先端に全長約37mの前方後円墳1基、直径約20mの円墳2基とされていたが、前方後円墳ではなく円墳4基との見解もあった。

発掘調査は平成9年4月10日から開始し、北側先端にある1号墳から現況測量を行ったところ、尾根上の古墳は前方後円墳ではなく円墳4基と、東側斜面に円墳1基があることがわかった。尾根上の古墳4基のうち、最も南側にある4号墳は宅地造成により墳丘の約3/4が削平されていた。1～3、5号墳とも盗掘を受けており、墳頂が陥没していた。現況測量後、重機で表土剥ぎを行い、盗掘坑を掘削、石室の掘方を検出し、掘方のプランを確認して主軸を設定した。調査中の5月29日には、遺構を保護していたシートが剥がされ、検出中であった1号墳周溝、2号墳墓道、5号墳玄室の出土遺物が荒らされ、出土遺物のいくつかは盗難にあった。古墳の図面、写真撮影等記録作成後、同年8月18日に調査を終了した。

2 調査の組織

発掘調査を行った平成9年度、報告書刊行の最終的作業を行った平成30年度の調査の組織は以下のとおりである。

発掘調査（平成9年度）		報告書作成（平成30年度）	
教育長	河鍋 好一	教育長	山本 直俊
社会教育部長	柴田 利行	教育部長	神田 芳樹
文化財課長	井上 武美	文化財課長	神埼 由美
管理係 課長補佐	桑野 浩行	整備活用担当 課長補佐	小林 達朗
主査	田中 和彦	主査	森井千賀子
主査	増永 睦司	主査	大原佳瑞江
主査	北島 公則	主査	飛永 宗俊（7月～）
嘱託	清水久仁子	主任	佐伯 廣宣（～6月）
文化財係 係長	丸山 康晴	嘱託	矢越 敏治
技術主査	平田 定幸	嘱託	種生 優美
技術主任	中村 昇平	調査保存担当 課長補佐	中村 昇平
技術主任	吉田 佳広	主査	吉田 佳広
技術主任	古川千賀子	主査	井上 義也
技師	境 靖紀	主任	山崎悠郁子
嘱託	清原 史代	主事	熊埜御堂早和子
		嘱託	川村 博
		嘱託	尾方 禎利

II 位置と環境

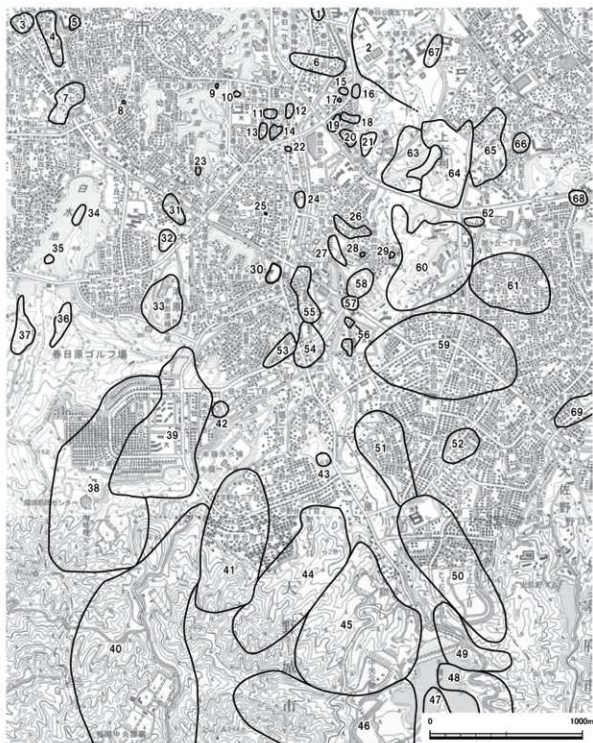
塚原古墳群は春日市塚原台3丁目110番に所在する。調査地点は牛頭山から派生する春日丘陵の南部で、北東方向に舌状に延びる小丘陵上に所在する。牛頭川の西側に位置し、小丘陵の尾根上は標高53.5m前後を測る。

牛頭川を挟んだ東西の丘陵上には弥生時代から奈良時代にかけての遺跡が所在する。弥生時代の遺跡では、牛頭川左岸の丘陵上には惣利東遺跡、惣利西遺跡があり、前期の竪穴建物跡と貯蔵穴が検出されている。一方、牛頭川右岸の丘陵上には向谷北遺跡、向谷西遺跡、向谷遺跡、向谷南遺跡等があり、向谷北遺跡では中期から後期の甕棺墓や後期の土坑墓、石蓋土坑墓が検出されており、石蓋土坑墓の多くは墓坑内に赤色顔料がみられた。向谷遺跡では前期の貯蔵穴と考えられる竪穴4基が確認されている。向谷南遺跡は中期の甕棺60基と木棺墓、土坑墓27基、後期の竪穴建物跡などが検出された。

古墳時代の集落には円入遺跡、春日平田遺跡、春日市平田西遺跡などがある。円入遺跡は牛頭川左岸の平地にあり、5世紀以降の竪穴建物跡が7軒調査されている。牛頭川右岸の丘陵上にある春日平田遺跡は6世紀以降の竪穴建物跡が46軒、春日平田西遺跡では竪穴建物跡が25軒、調査されている。牛頭川左岸で、塚原古墳群の東から南東には日ノ浦遺跡、牛頭塚原遺跡群がある。牛頭日ノ浦遺跡は縄文時代から奈良時代にかけての集落で、主に6世紀中頃以降の竪穴建物跡が21軒、8～9世紀前半の土坑20基等が確認されている。塚原遺跡群は縄文時代から平安時代にかけての遺跡で、古墳時代の遺構では竪穴建物跡33軒が検出されている。

牛頭山北側山裾にはイグ谷古墳群、後田古墳群、小田浦古墳群、塚原古墳群等の群集墳が多く所在する。塚原古墳群に近接する群集墳として、東200mに位置する牛頭日ノ浦Ⅱ遺跡に直径27m程度の円墳(日ノ浦1号墳)がある。ここから南に500mの地点にある牛頭塚原遺跡では古墳30基が検出されており、古墳の多くは遺跡群の南東から南部で牛頭川側に群集している。

この他、古墳時代の遺跡として窯跡群があげられる。牛頭窯跡群は須恵器生産の大規模な窯跡群であり、これまで300基以上の窯跡が発掘調査されている。牛頭窯跡群は6世紀中頃から9世紀前半まで操業しており、地形から、春日、上大利、佐野、牛頭川、平野川グループの5つの支群に分けられている。上大利支群の山裾に近い平野部から操業が始まり、次第に春日支群、佐野支群へと広がり、牛頭川、平野川支群に至り最盛期を迎える。塚原古墳群は春日支群の南部に位置し、地理的環境から、同古墳群の被葬者は須恵器生産との関わりも想定される。



1 前ノ原遺跡	15 向谷北遺跡	29 春日平田東遺跡	43 城山宮跡	57 華無尾遺跡
2 九州大学・御供田遺跡	16 向谷遺跡	30 塚原古墳群	44 原田宮跡群	58 華無尾宮跡
3 一の谷B遺跡	17 向谷西遺跡	31 楠ノ木遺跡	45 井平宮跡群	59 平田宮跡群
4 原田C遺跡	18 向谷古墳群	32 座頭谷古墳群	46 足洗川宮跡群	60 野館遺跡群
5 原田A遺跡	19 向谷南遺跡	33 雨ノ原宮跡群	47 後原宮跡群	61 大浦宮跡群
6 春日水城跡	20 春日平田北遺跡	34 白水池古墳群	48 長者原宮跡群	62 上大利小水城
7 大上居水城跡	21 春日平田北B遺跡	35 イグ谷遺跡	49 道ノ下宮跡群	63 梅頭遺跡
8 紅葉ヶ丘遺跡	22 惣利東B遺跡	36 イグ谷古墳群	50 ハセムシ宮跡群	64 本堂遺跡
9 大牟田池宮跡	23 大牟田遺跡	37 西浦遺跡	51 中浦遺跡群 (宮跡群)	65 上園遺跡
10 惣利1号宮跡	24 円入遺跡	38 後田遺跡群 (宮跡群)	52 上平田遺跡	66 出口遺跡
11 惣利遺跡	25 惣利古墳	39 小田南遺跡群 (宮跡群)	53 畑坂遺跡	67 池田・池の上遺跡
12 惣利北遺跡	26 春日平田遺跡	40 石坂宮跡群	54 塚原遺跡	68 神ノ前遺跡
13 惣利西遺跡	27 春日平田西遺跡	41 大谷宮跡群	55 日ノ浦遺跡	69 宮ノ木遺跡
14 惣利東遺跡	28 春日平田南遺跡	42 月ノ浦宮跡	56 厚風田遺跡	

第1図 塚原古墳群周辺遺跡分布図 (1/25,000)



第2図 塚原古墳群調査地点位置図 (1/2,500)

Ⅲ 調査の内容

1 調査の概要

塚原古墳群は牛頭山から派生する小丘陵に営まれた群集墳である。これまで3次調査まで発掘調査が実施された。

1次調査は丘陵東裾部の平坦面部分の調査で、大溝1条、溝1条、竪穴建物跡1基等が検出された。大溝は小丘陵を巡るようにはぼ南北方向に延びる。最大幅約6m、深さ約1m、検出した長さは約110mである。大溝の時期は出土須恵器から8世紀後半から9世紀で、水路として機能していたと考えられる。

2次調査は丘陵部の調査である。小丘陵尾根上に円墳4基とその斜面に円墳1基、竪穴建物跡2軒を検出した。円墳は周溝を含めた大きさが直径約14～19mで、盗掘を受け、尾根上の3基は石室の腰石まで抜かれていた。石室は腰石の抜き跡や掘方の大きさから、単室の横穴式石室で、南から南東方向に開口している。出土遺物の大半は須恵器で、その時期は主に6世紀後半～7世紀である。

3次調査は、2次調査の4号墳の南側にあたる。当初、4号墳の一部が検出されると想定したが、すでに宅地造成により土地が改変されており、墳丘や墓道は確認されていない。

2 古墳の調査

(1) 1号墳

①位置と現況(第3図)

1号墳は北東方向に延びる尾根上の先端に位置する円墳である。標高50～52m付近にある。盗掘により墳丘の中央部が陥没した状態であった。

②墳丘(図版2(1)、第8図)

墳丘の規模は直径約15mで、周溝は前面のみで一周しない。3方向にトレンチを入れ土層観察したところ、標高52.1m前後で地山整形し、1.6m以上盛土を行っている。1号墳の周溝は少なくとも2回掘られている。古墳築造時の周溝では墓道の西側から墓前祭祀に使用したと思われる須恵器が多数出土した。新たに掘られた周溝は古墳築造時の周溝の約1m外側にあり、出土した須恵器から追葬時に掘られたと考えられる。

③主体部(図版2(2)、第5図)

主体部は横穴石室で盗掘を受けており、石室は腰石まで抜かれていた。石室は掘方や腰石の抜き跡から単室の横穴式石室である。主軸はおおよそN-31°-Eで、南西方向に開口する。玄室は奥行約2m、幅約1.5mと推定される。羨道部にあたる位置に石材の抜き跡はなく、柩石の抜き跡と思われる部分から西側の延長線上に床面から高さ40cmの位置に石材があり、羨道の一部と思われる。また、石室掘方は地山整形をした面から掘削されており、主軸長約4.7m、幅約4.2m、深さ0.8mである。石

室の裏込めの土が西側トレンチでは幅約 40 cm、東側トレンチでは幅約 30 cm みられた。

④出土遺物

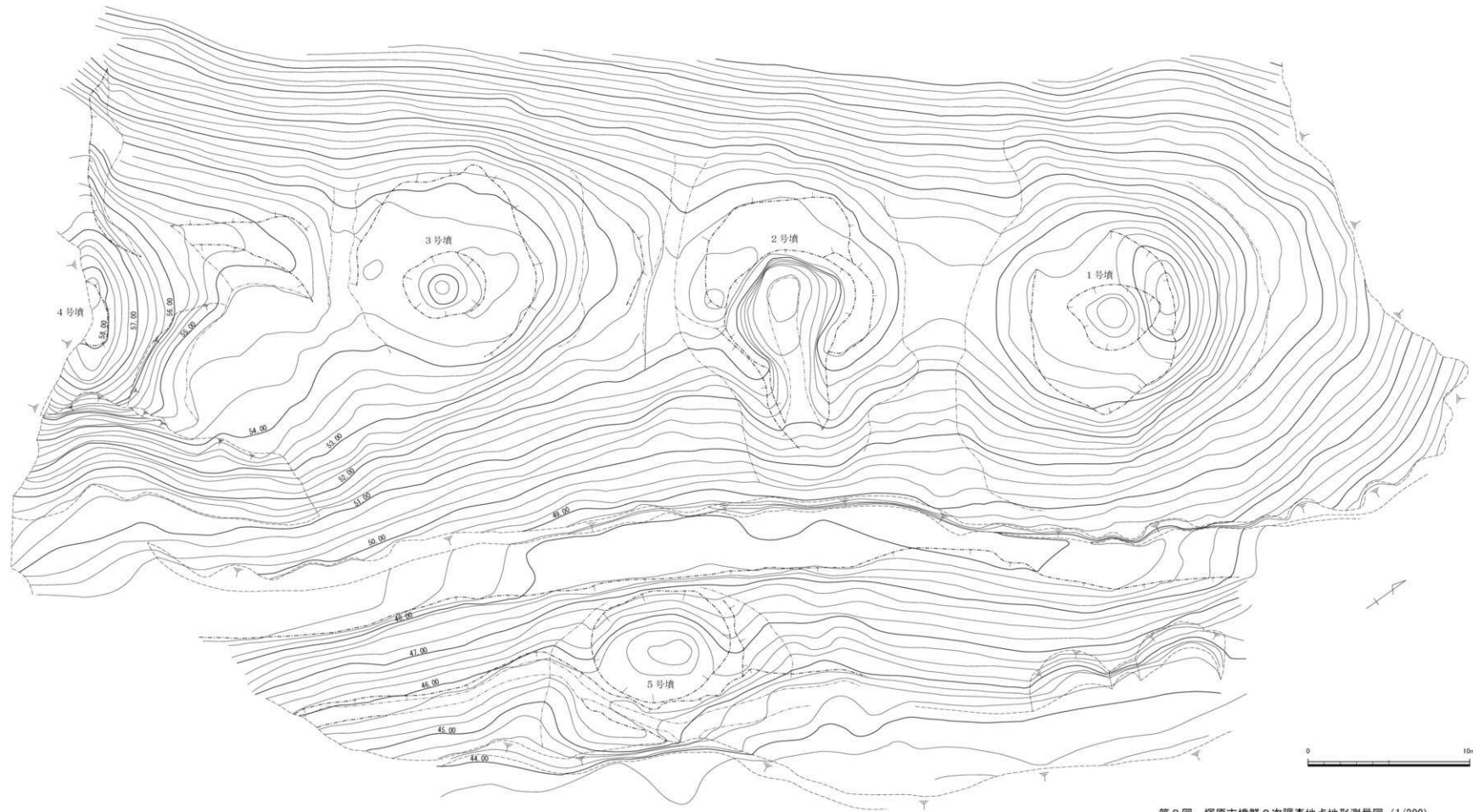
1 号墳は須恵器、土師器、鉄器（鉄鏃）、玉類（ガラス小玉、切子玉）、石器（砥石）が出土した。玉類と砥石、鉄器は盗掘孔からの出土で、玄室からの出土遺物はほとんどない。出土遺物の大半は須恵器で、その多くは周溝、墓道からである。特に墓道から西側に位置する周溝からは墓前祭祀に使用したと考えられる須恵器が多数出土した。これらの須恵器は一对の杯蓋と杯身が高杯の上に重なった状態のものが 3 点、杯身が高杯の上に重なったものが 1 点、杯蓋と杯身が 1 点、有蓋高杯 1 点、提瓶 1 点がまとめて出土した（第 6 図 A 群）。一对の杯の一つには二枚貝が入っていた。これらの一群から約 1 m 西側には杯蓋 4 点、杯身 3 点、壺 1 点がまとめて出土した（第 6 図 B 群）。蓋がかぶさった状態ではなかったが杯蓋と杯身はセットになると思われる。

須恵器・土師器（図版 10～14、第 9～18 図）

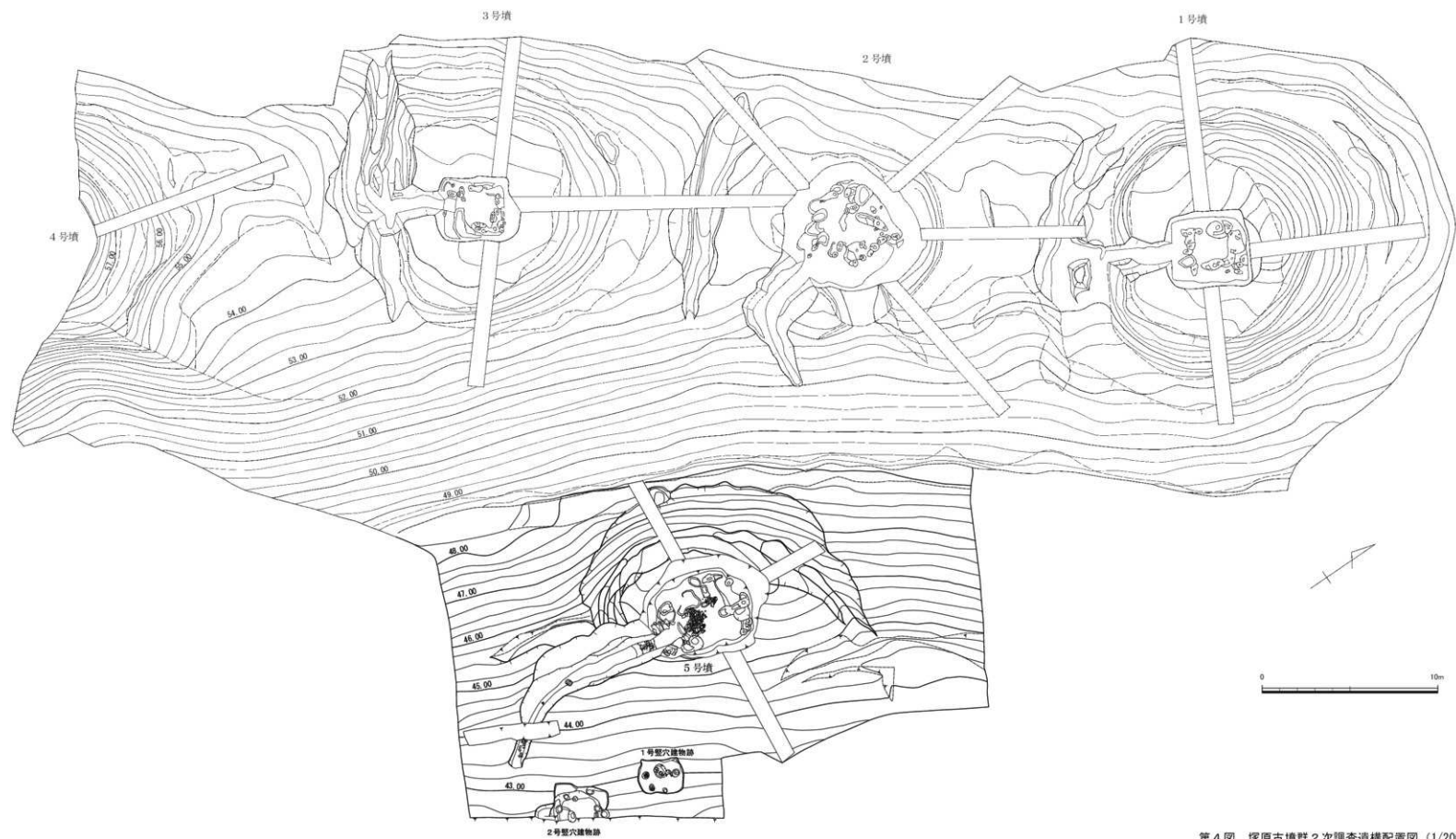
1～16 は周溝の A 群出土である。杯蓋と杯身は 1 と 2、3 と 4、5 と 6、7 と 8 は一对で、1 と 2 は 14 の高杯、3 と 4 は 15 の高杯、5 と 6 は 13 の高杯の上に重なった状態で出土した。9 は天地逆の状態の 10 の高杯の上に重ねられていた。7 と 8 は二枚貝が杯の中に入っていた。これらは墓道西側の周溝内で 2 列に並んで出土した。杯蓋は体部と口縁部の境に沈線があり、杯身は底部が丸みを帯びるが、9 の底部は直線的である。杯蓋、杯身の内面には外面のヘラ削り調整を行う際に固定した時の当て具痕がみられる。11 の高杯は A 群の北西隅にあり、A 群の中で唯一、高杯の上に杯が重ねられていない。12 の高杯は A 群から南に 25 cm 離れた位置で出土した。高杯の脚部は直線的に延びるものと、甕の口頸部のように外側に屈曲して延びるものがある。16 の提瓶は把手部分が退化し環状にならず、鍵状を呈する。外面の平坦な方にはカキ目、丸みを帯びた方には二重に刺突文を施している。平坦な方を下にして丸く整形し、上部を直径約 3 cm の円板で蓋をして胴部を作成し、胴部の横に切り込んで口頸部を付けている。

17～24 は周溝の B 群出土である。杯蓋（17～20）、杯身（21～23）、短頸壺（24）がある。これらの出土状況は 20 のつまみ付きの杯蓋以外は内面が上を向いて出土した。18、19 の杯蓋は口縁部内面に段を有する。20 の杯蓋と 22 の杯身の内面には当て具痕がある。24 の短頸壺は口縁部が直線的に立ち上がり、胴部の中央付近がとがり気味に広がる。

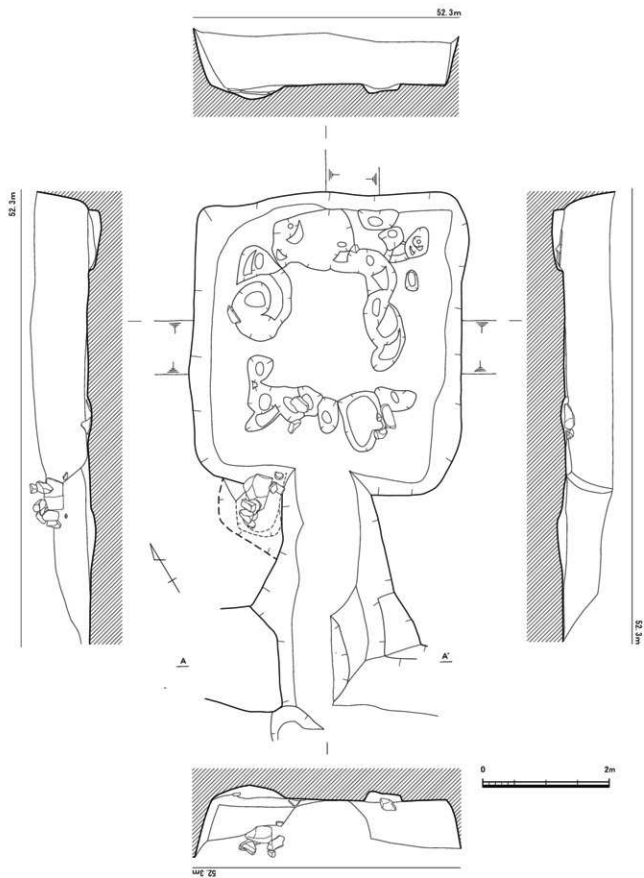
25～36 は 3 区周溝で比較的まとめて出土した一群である。杯蓋（25、26）、杯身（27）、高杯（28）、小甕（29）、短頸壺（30）、甕（31）、平瓶（32）、大甕（33）、甕（34、35）、提瓶（36）と器種は多様である。33 の大甕は破片が 1 号墳の墓道の他に 2 号墳の盗掘坑や 5 号墳の墳丘から出土したものと接合した。大甕の底部から胴部内面は同心円タタキ目で、胴部下半から底部にかけては同心円の弧が平行線に近く、胴部中央から上辺にかけては同心円に中心のタタキ目である。そして頸部に近くなると同心円からやや外側の弧状のタタキ目となる。胴部外面の平行タタキ目の角度も内部の同心円タタキ目の変化に連動する。34 の甕の内面のタタキ目は胴部下半から底部にかけて平行線に近いが、35 の甕は同心円のタタキ目である。頸部外面にヘラ記号あり。37 の小壺は 3 区周溝から出土した土器



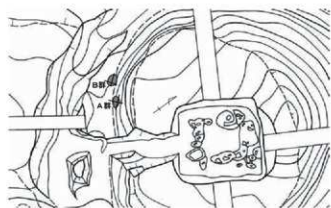
第3图 塚原古墳群2次調査地点地形測量図(1/200)



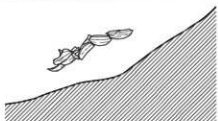
第4図 塚原古墳群2次調査選構配置図 (1/200)



第5图 1号填石室实测图 (1/60)



53.9m



1号墳周溝B群

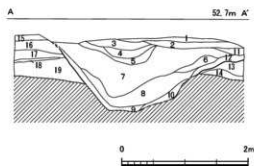


52.0m



1号墳周溝A群

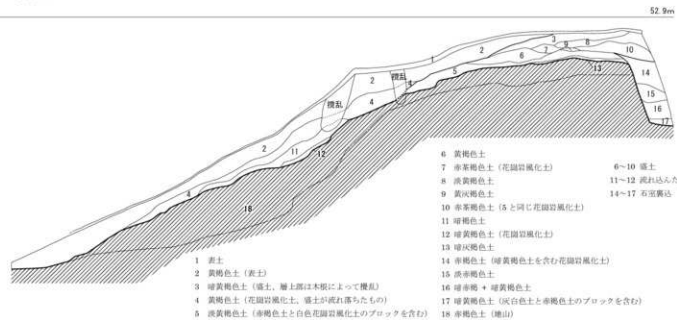
第6图 須惠器出土状況実測图 (1/20)



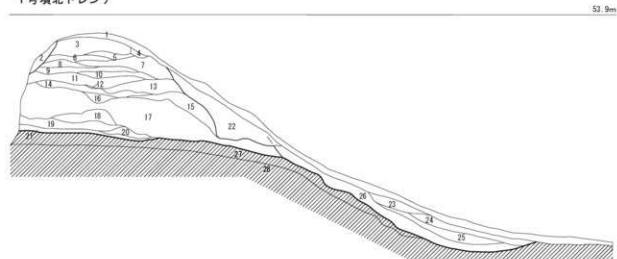
- | | | |
|---------|----------|-------------|
| 1 淡黄褐色土 | 7 黄褐色土 | 13 11に同じ |
| 2 茶褐色土 | 8 暗茶黄色土 | 14 12に同じ |
| 3 淡灰黑色土 | 9 暗黄褐色土 | 15 赤土 (腐植土) |
| 4 灰黑色土 | 10 暗黄灰色土 | 16 明黄褐色土 |
| 5 暗黄灰色土 | 11 暗黄色土 | 17 赤褐色土 |
| 6 茶黄色土 | 12 洗赤褐色土 | 18 暗黄褐色土 |
| | | 19 洗赤褐色土 |

第7图 墓道土層断面実測图 (1/60)

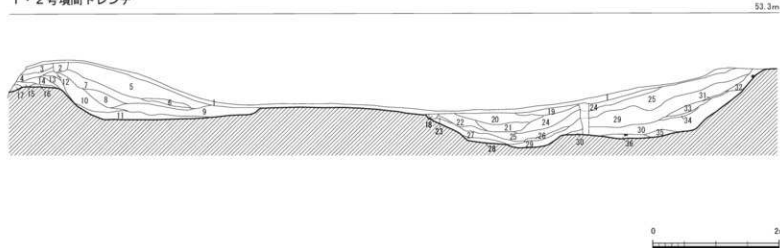
1号墳西トレンチ



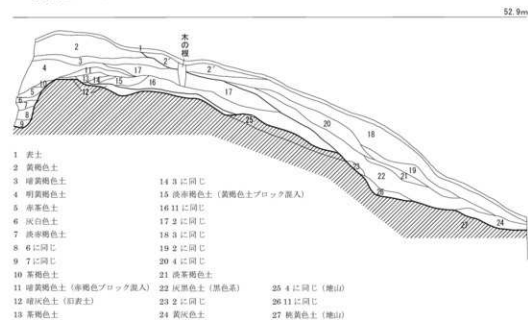
1号墳北トレンチ



1・2号墳間トレンチ

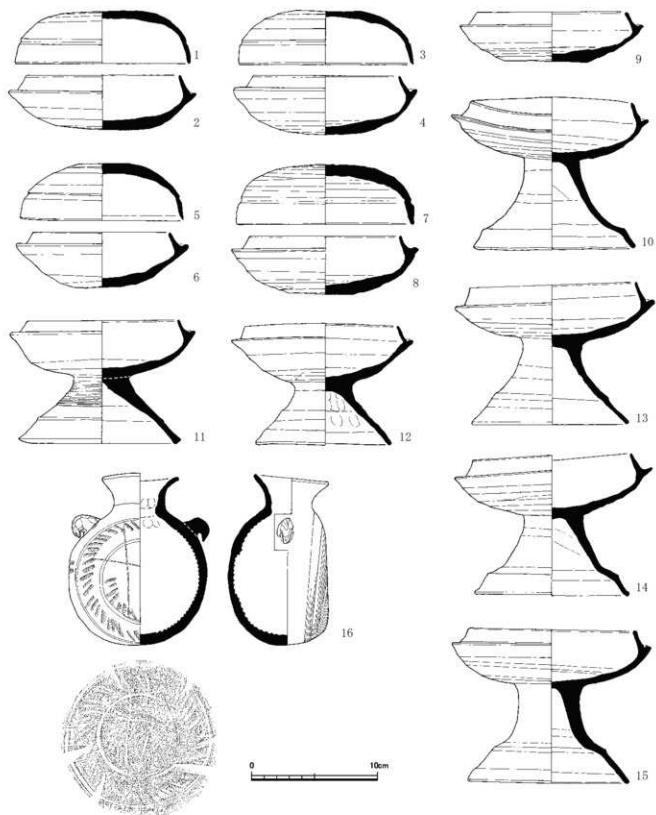


1号墳東トレンチ



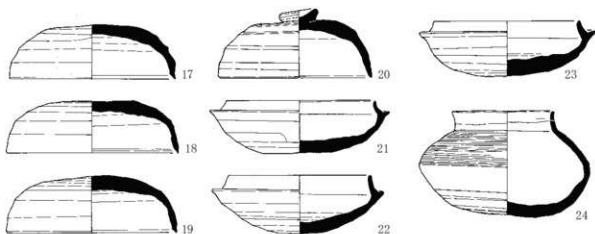
第8図 1号墳丘及び1・2号墳間土層断面実測図 (1/60)

周溝A群

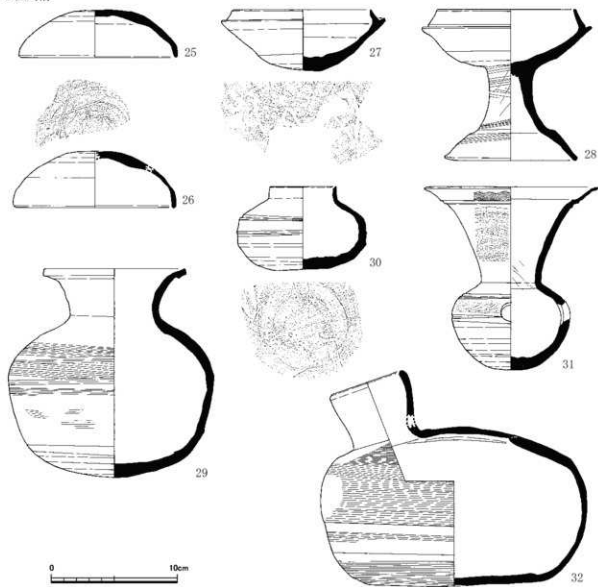


第9图 1号墳出土土器実測図① (1/3)

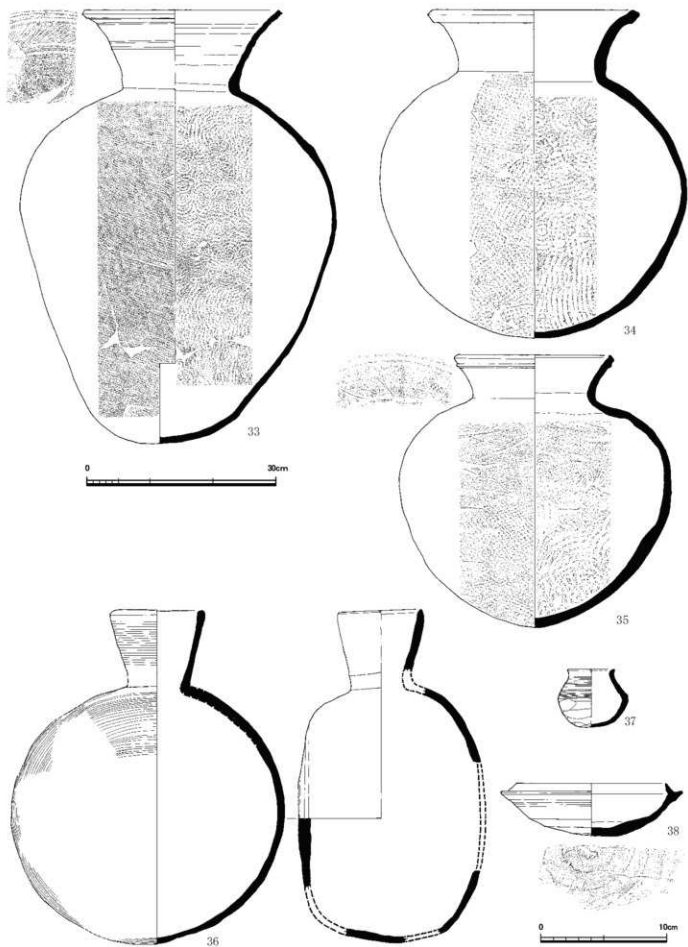
周溝B群



3区周溝

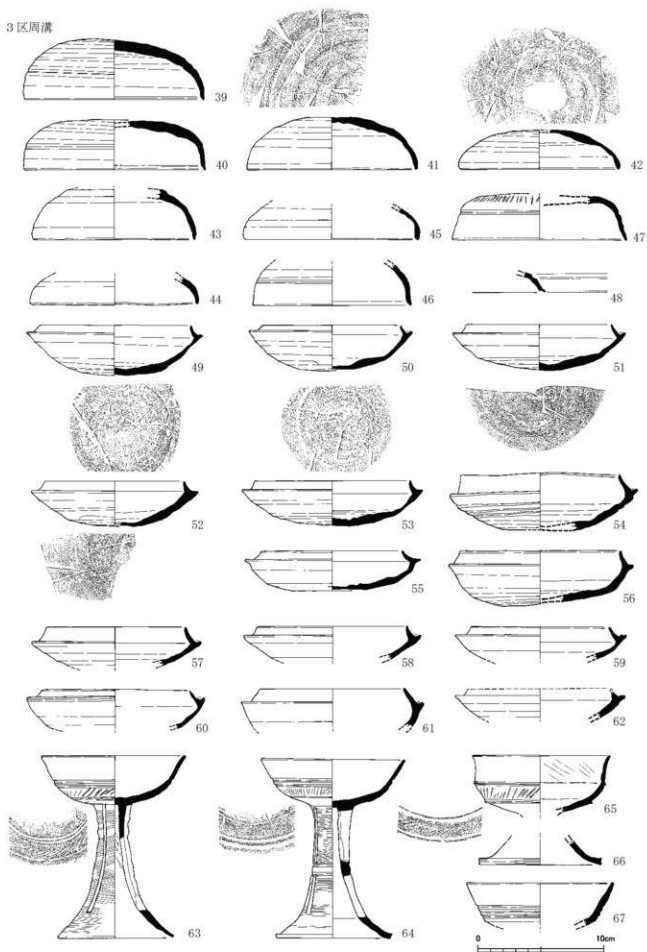


第10图 1号填出土器实测图② (1/3)



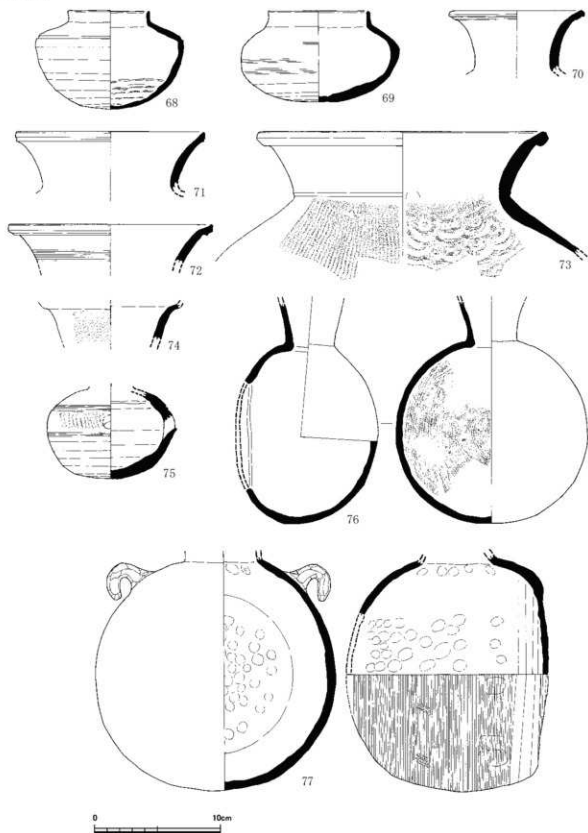
第11图 1号墳出土須恵器実測図③ (1/3、33は1/6)

3区周溝

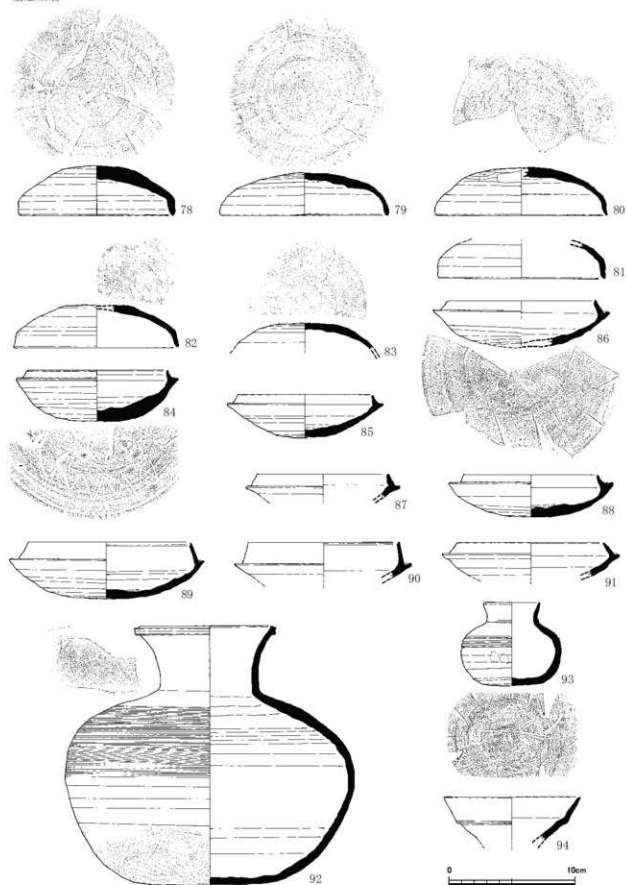


第12图 1号坑出土须惠器夹测图④ (1/3)

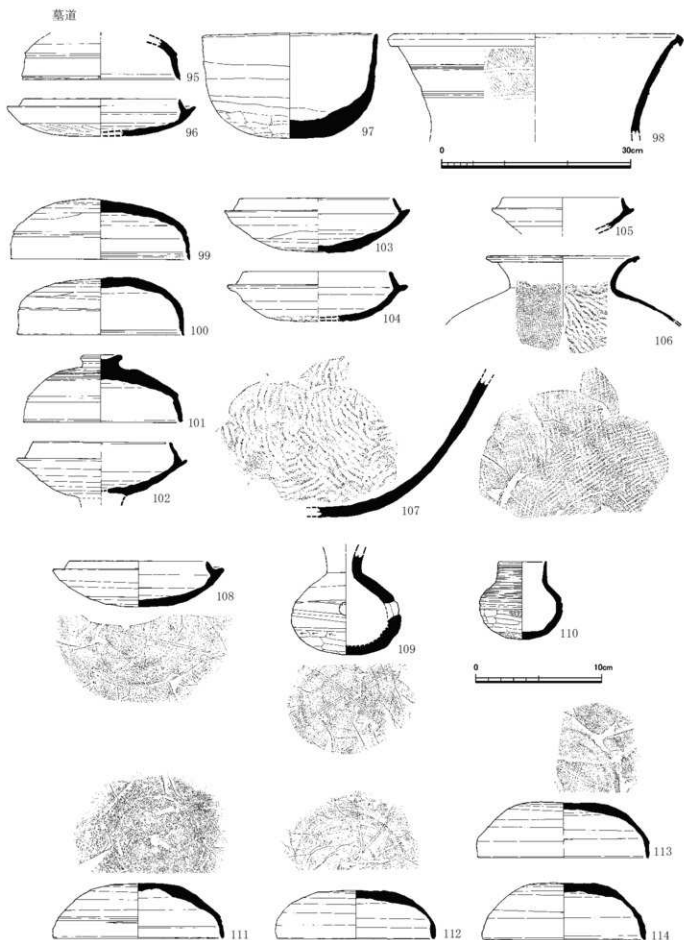
3区周溝



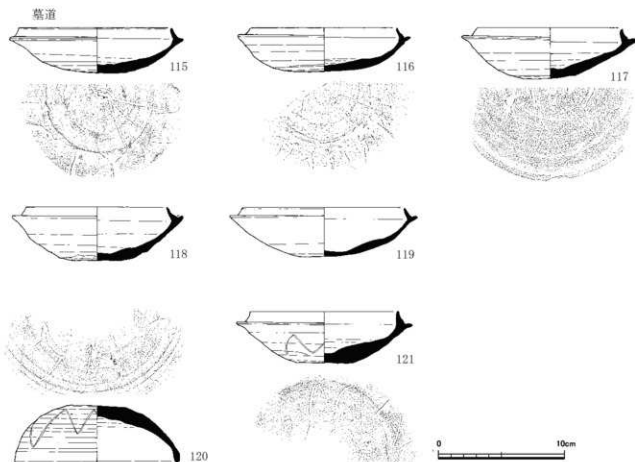
第 13 图 1号填出土须惠器实测图⑤ (1/3)



第14图 1号墳出土須惠器実測図⑥ (1/3)



第15图 2号墳出土須恵器実測図⑦ (1/3、98・106は1/6)



第16図 1号墳出土須恵器実測図⑤(1/3)

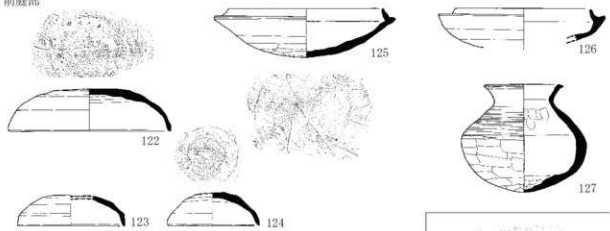
群で最も西側から出土した。38～77も3区周溝内出土で、杯蓋(39～48)、杯身(38、49～62)、高杯(63～67)、短頸壺(68、69)、壺(70)、甕(71～73)、甕(74、75)、提瓶(76、77)がある。77の提瓶は把手の先端が体部に付かない。体部の丸みをおびる方にカキ目を施している。内面は指頭痕が多くみられる。破片が広範囲に散らばり前庭部や墓道出土の破片と接合した。

78～121は墓道から出土した。墓道の上層から出土したものは、杯蓋(78～83)、杯身(84～91)、壺(92)、小壺(93)、甕(94)である。95～98は埋土中からの出土で、杯蓋(95)、杯身(96)、碗(97)、大甕(98)である。99～107は周溝とつながる部分からの出土で、杯蓋(99～101)、高杯(102)、杯身(103～105)、甕(106、107)がある。108～110は第7図の5層からの出土で、杯身(108)、甕(109)、短頸壺(110)がある。111～121は第7図の7層からの出土である。杯蓋(111～114、120)、杯身(115～119、121)で、杯蓋、杯身ともヘラ記号がみられる。

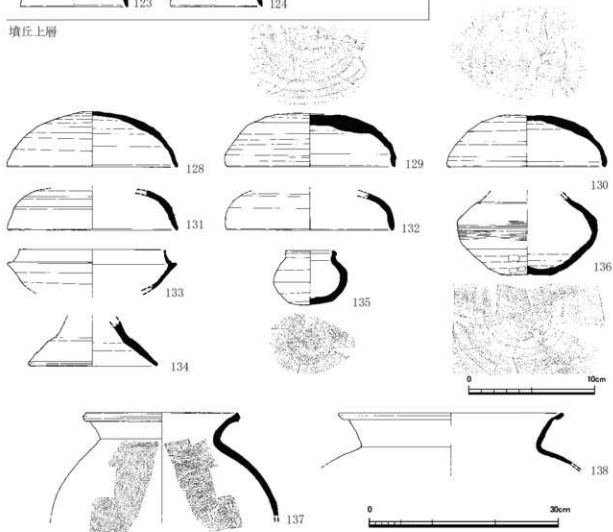
122～127は前庭部から出土で、杯蓋(122)、蓋(123、124)、杯身(125、126)、壺(127)がある。壺は体部のほぼ中央に胴部最大径があり、外面の下半分に静止ヘラ削りをして整形している。口縁部は外側に向かって直線的に開く。

128～138は墳丘の表土下で、墓道にあたる部分から出土した。杯蓋(128～132)、杯身(133)、高杯(134)、小壺(135)、壺(136)、甕(137)、大甕(138)がある。136の壺は底部が平らであるが、体部から頸部の形が127の壺と似る。

前庭部

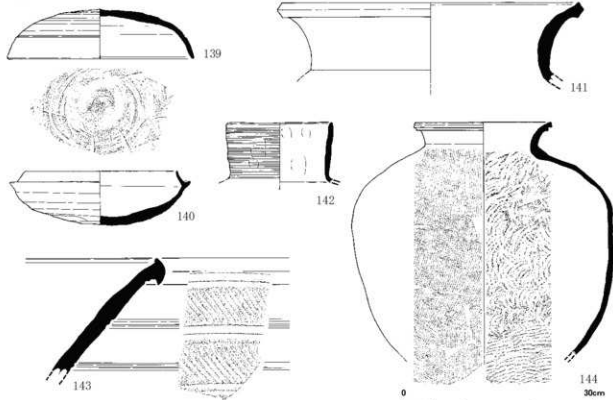


墳丘上層

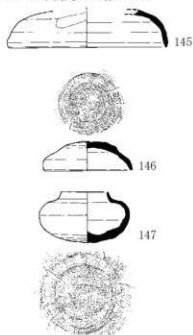


第17図 1号墳出土土器実測図⑨ (1/3、138は1/6)

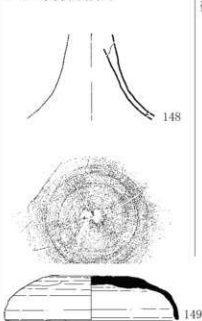
墳堀



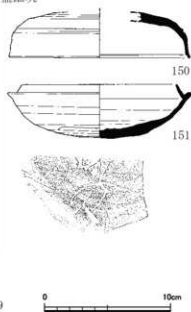
1・2号墳間の土層ベルト



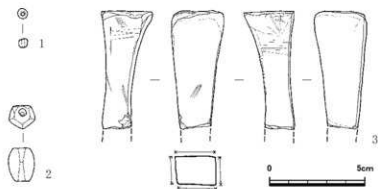
1・2号墳東側斜面



盗掘坑



第18図 1号墳出土土器実測図⑩(1/3、144は1/6)



第19図 1号墳出土玉類・石器 (1/2)

139～144は墳裾から出土した。杯蓋(139)、杯身(140)、直口壺(142)、甕(141)大甕(143、144)である。墳裾出土の須恵器は周溝、前底部、墓道出土の破片と接合した。

145～147は1・2号墳間の土層ベルトからの出土である。杯蓋(145)、蓋(146)、小壺(147)がある。146と147は大きさが合うこととヘラ記号が同じであることから一対になると思われる。148は土師器の高杯で、1・2号墳間の東側斜面から出土した。149の杯蓋は周溝～墓道付近の出土である。

150の杯蓋と151の杯身は盗掘坑からの出土である。

装身具 (図版14 第19図1、2)

1はガラス製の小玉で、直径約5mm、長さ4.4～4.5mmで、色調はスカイブルーである。2は赤瑪瑙製の切子玉である。最大幅14mm、長さ17mmの大きさで、穿孔は両側りである。

石器 (図版14 第19図3)

砥石で、盗掘坑から出土した。長辺は四面とも使用されている。残存長6.25cm、最大幅2.75cm、厚さ1.55～2.7cmである。

(2) 2号墳

①位置と現況 (第3図)

2号墳は1号墳と同様に尾根線上に位置し、標高は約52m前後を測る。1号墳の南西に隣接する円墳で、2号墳も盗掘により、墳丘中央から東側斜面に向かって深さ2m程陥没していた。

②墳丘 (図版4 (1)、第21図)

墳丘の規模は直径約11mで、周溝は3号墳との間の尾根を分断するように幅2～2.5mで掘られており一周しない。2号墳も盗掘され石室の石材はすべて抜かれていた。2号墳は標高52.1m前後で地山整形し、石室の掘方は地山を2m以上掘り込んでいる。

③主体部 (図版4 (2)、第20図)

石室は掘方や腰石の抜き跡から単室の横穴式石室である。主軸はおよそN-5°-Wで、南方向に開口する。玄室は奥行2m前後、幅2m前後、羨道は長さ1.5m前後と推定される。墓道は石室の開口部から南に向かってL字形に屈曲している。掘方と埋土の状況から少なくとも2回掘られている。

墓道の埋土上層からは石室の閉塞に使われたと思われる石材や敷石が須恵器や鉄器、耳環とともに乱雑に出土していることから、盗掘を受けた際に墓道に捨てられたと思われる。

④出土遺物

2号墳は須恵器、土師器、鉄器（鉄刀、鉄斧、鉄鏃、鉄滓か）、装身具（耳環）、石製品（紡錘車）、石器（石鏃）が出土した。出土遺物の大半は墓道、盗掘坑からの出土で、遺物の大半は須恵器である。

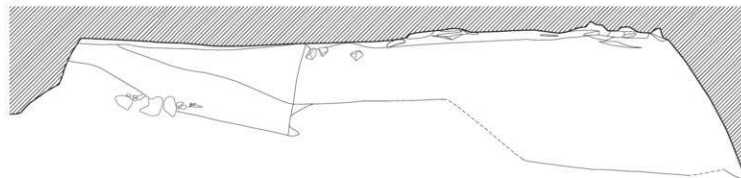
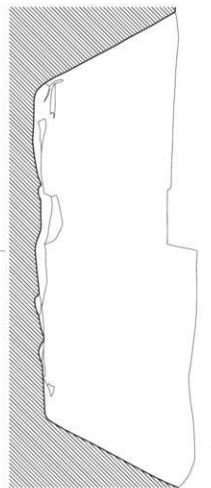
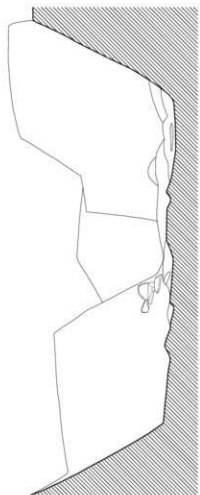
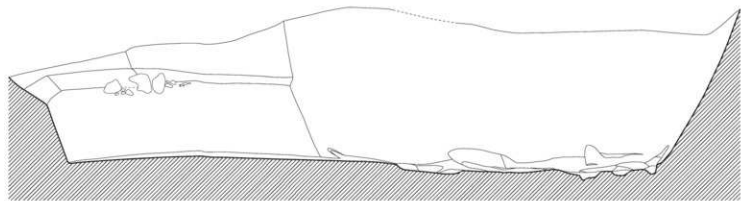
須恵器・土師器（図版15～17、第23～28図）

1は杯蓋で、玄室から出土した。2は脚付の椀で、周溝から出土した。口縁部は復元した口径が細片であるため胴部径と同じではないが、図上で復元した。3～64は墓道からの出土である。およそ同じ地点から出土したものをA～D群として取り上げた。3はA群、4～9はB群、10～27はC群、28～42はD群、43、44は墓道上層、45～62は墓道中層、63、64は墓道からの出土である。A・B群は杯蓋（3～6）、高杯（7）、杯身（8）、平瓶（9）がある。3と6は内面にかえりがある蓋で、6はつまみが付く。4、5は天井部にヘラ記号を施す。C群は杯蓋（10～15）、杯身（16～21）、大甕（22）、高杯（23、24）、甕（25、26）、土師器の甕（27）がある。21はかえりのない丸みある杯身である。22は大甕の口頸部で、頸部の中央に二条の沈線及び沈線から上部に連続斜線文を施す。23、24は無蓋の高杯で脚部の内面にヘラ記号を施す。D群は杯蓋（28～35）、杯身（36～39）、長頸壺（40、41）、甕（42）がある。32～35は内面にかえりがあり、33～35はつまみを有し、2本線のヘラ記号を施す。36と37は33～35と同じ形のヘラ記号が底部外面にみられる。40の長頸壺は口頸部が直線的で、体部上半に刺突文あり。41は口頸部の破片で、頸部が外湾しながら立ち上がり口縁端部を上方につまみ上げている。42は甕の口縁部と思われる。墓道上層は杯蓋（43）、杯身（44）が出土した。墓道中層からは杯蓋（45～54）、杯身（55～59）が出土した。60、61は無蓋の高杯で61は杯部外面にヘラ記号あり。62は高杯の脚部か。この他、墓道からつまみ付きの杯蓋（63）、杯身（64）が出土した。65～78は墳丘からの出土である。65～67は墓道の西側上層からの出土で、高台付杯（65）、甕（66）、長頸壺（67）がある。65の高台付杯は底部外面にヘラ記号あり。66は復元口径18.9cmの甕である。67の長頸壺は胴部に沈線が2条あり、その間に刺突文を施す。68～73は石室開口部の東側にあたる墳丘から出土した。杯蓋（68、69）、杯身（70～72）、高杯（73）がある。74～78は石室開口部の西側にあたる墳丘から出土した。杯蓋（74、75、77、78）、甕（76）がある。75、78の杯蓋は内面にかえりを持つ。79～85は盗掘坑から出土した。杯蓋（79）、杯身（80～82）、高杯（83）、甕（85）、土師器の椀（84）がある。83は無蓋高杯の杯部、85は甕の胴部上半の破片。86～88は2号墳と3号墳の間の周溝からの出土で、杯蓋（86、88）、杯身（87）がある。

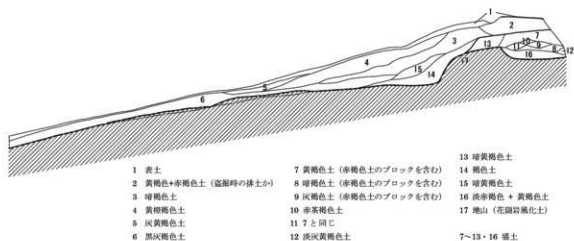
鉄器（図版17、第29図1～3）

1は刀である。錆膨れが著しく、途中で湾曲しているが、人為的なものかどうかはわからない。2も細片のため断定できないが刀子もしくは刀の関部と思われる。3は袋状鉄斧である。1～3とも墳丘からの出土である。

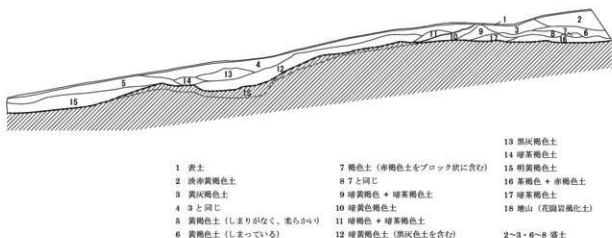
耳環（図版17、第29図4～7）



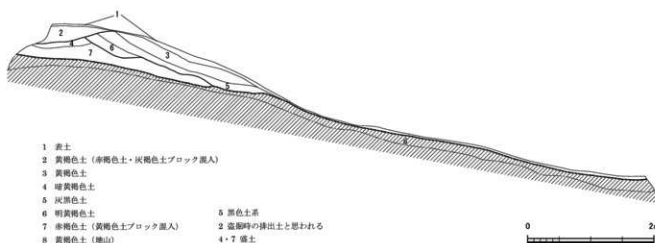
第 20 图 2 号填石室实测图 (1/60)



2号墳西トレンチ

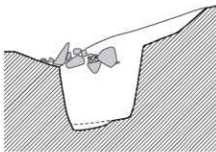


2号墳東トレンチ



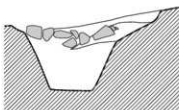
第21図 2号墳填丘土層断面実測図 (1/60)

A' 52.3m A



2号墳墓道断面A

B' 51.3m B

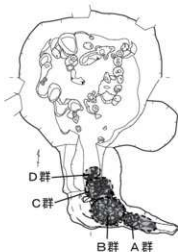


2号墳墓道断面B

C 51.3m C



2号墳墓道断面C



第22図 2号墳墓道土層断面実測図
(1/60) 及び墓道土器出土地点

4は墓道中層からの出土である。耳環の内側は緑青があり、外側は錆が剥離している。芯は酸化のためか黒色を呈する。金銅製か。5、6は墳丘からの出土である。5は表面層の残りは比較的良好、銀色を呈する。6は表面層の鍍金が内側に残る。鍍金は赤みがかった金色を呈する。金銅製。7は盗掘時の排出土内からの出土である。7も表面層の鍍金が内側に残る。金銅製か。

石製品 (図版17、第29図8)

8は滑石製紡錘車である。断面は台形を呈し、表面には加工痕跡あり。丁寧に作られている。墓道A群の須恵器と共に出土した。

石器 (図版17、第29図9、10)

9、10は黒曜石製の石鏃である。9は無袂で尖頭部先端を欠損する。現存長1.65cm、幅1.1cm、厚さ0.4cmである。10は基部に袂りがある石鏃で、長さ2.5cm、現存幅1.9cm、厚さ0.35cmである。古墳に伴うものではないが、9は墓道A群から、10は墳丘から出土した。

(3) 3号墳

①位置と現況 (第3図)

3号墳も1、2号墳と同様に尾根上にあり2号墳の南西に隣接する円墳である。標高52～54m付近にある。盗掘により墳頂部が陥没していた。

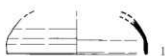
②墳丘 (図版5(1)、第31図)

墳丘の規模は直径12～14mで、周溝は石室開口部の前面にあり、4号墳との間の尾根を分断するよう直線的に掘られており一周しない。3号墳も盗掘され石室の石材はすべて抜かれていた。標高54.1m前後で地山整形し、石室の掘方は地山を0.9m程掘り込んでいる。

③主体部 (図版5(2)、第30図)

主体部は掘方や腰石の抜き跡から単室の横式石室である。主軸はおおよそN-36°-Eで、南西方向に開口する。玄室は奥行、幅とも1.5m前後、羨道は長さ1m前後と推定される。羨道部分は、玄室床面が墓道床面より約0.7m

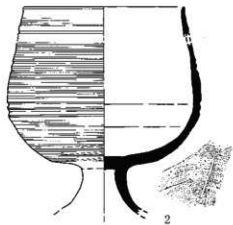
玄室



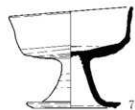
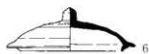
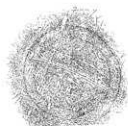
墓道A群



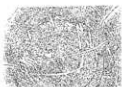
3区周溝



墓道B群

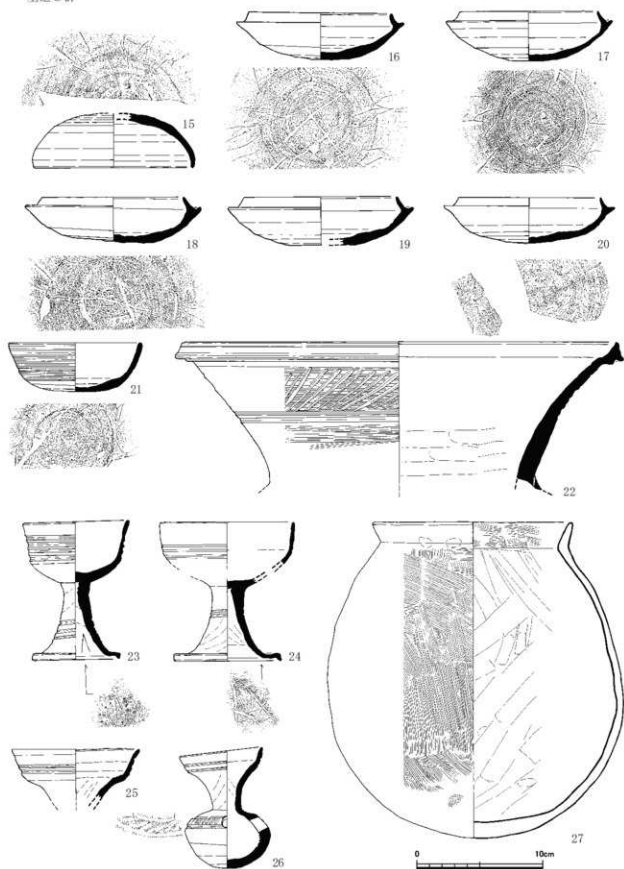


墓道C群



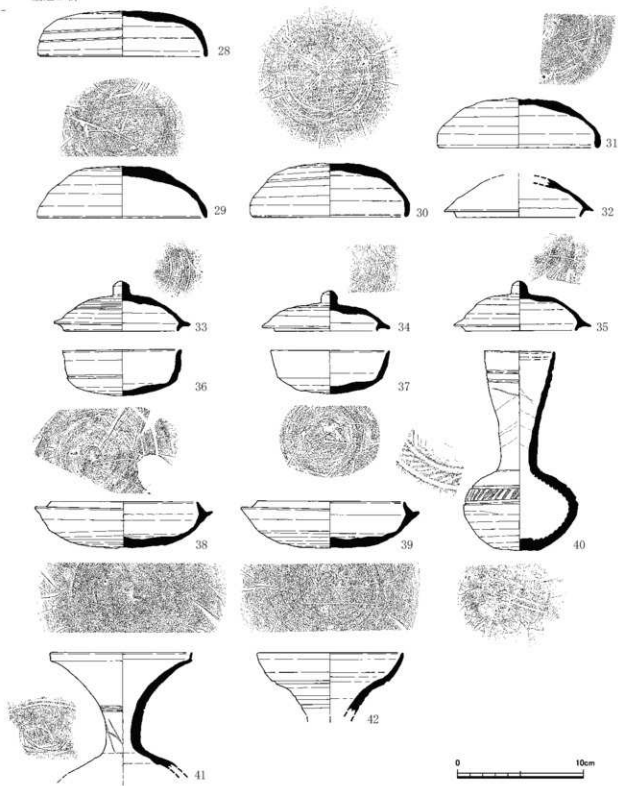
第23图 2号填出土器实测图①(1/3)

墓道C群



第 24 图 2 号填出土器实测图② (1/3)

蔡道D群

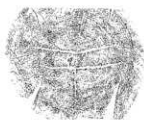


第 25 图 2 号填出土土器实测图③ (1/3)

墓道上层

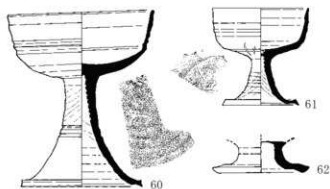


墓道中层



第26图 2号填出土器实测图④ (1/3)

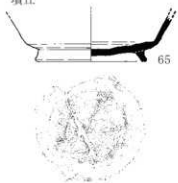
墓道中層



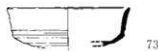
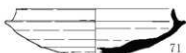
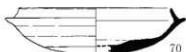
墓道



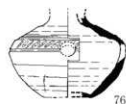
墳丘



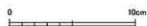
2区墳丘



3区墳丘

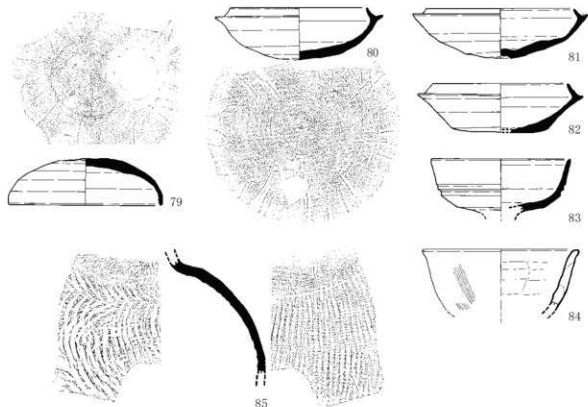


78

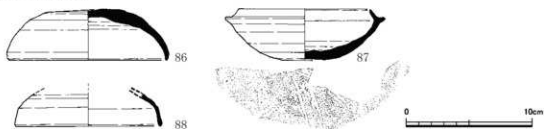


第27图 2号出土土器实测图⑤(1/3)

盗掘坑



周溝（2・3号墳間）



第28図 2号墳出土土器実測図⑥（1/3）

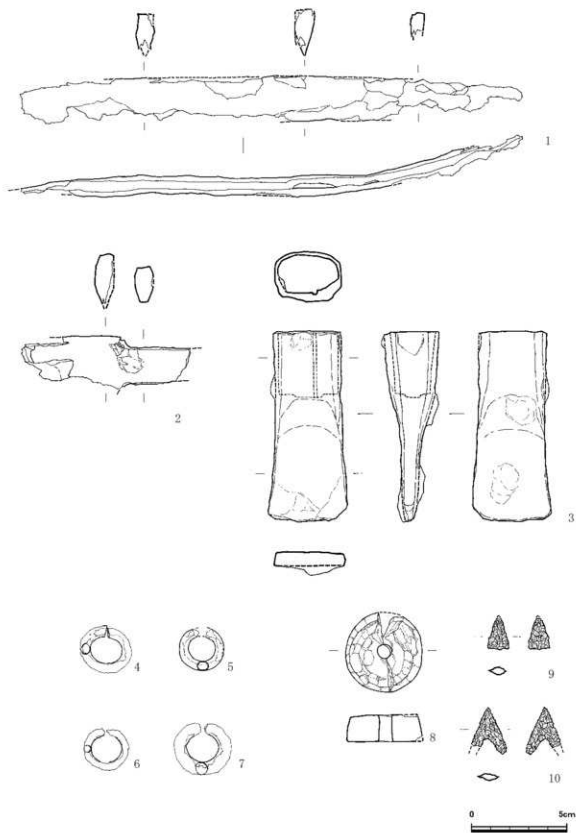
低く傾斜している。墓道は石室の開口部から南西に向かって伸び、周溝につながる。周溝には切り合いがあり、墓道から続く周溝を、南西側約1m外側に掘られ西方向に延びる周溝が切る。

④出土遺物

3号墳は須恵器、土師器、鉄器（鉄鏃、鉄滓）、装身具（ガラス製小玉、丸玉）、石器（石鏃、石匙、石斧）が出土した。出土遺物の大半は周溝及び墓道からの出土で、その大半は須恵器である。

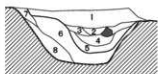
須恵器・土師器（図版18～23 第33～42図）

1～8は2区周溝から出土した。杯蓋（1、3）、杯身（2）、高杯（4）、蓋（5）、甕（6）、平瓶または壺の破片（7、8）である。9～79は周溝からの出土で、土器のまともなり毎にA～C群として取り上げた。A群は杯蓋（9）と甕（10）である。B群は11～38で、杯蓋（11～20）、杯身（21～29）、高台付杯（30）、椀（31）、甕（32）、高杯（33、34）、大甕（37、38）、土師器の甕（35、36）である。C群は甕（39）と大甕（40）である。40の大甕は頸部が長く、頸部の上半に斜め方向の連



第29图 2号出土铁器·装身具·石製品·石器实测图 (1/2)

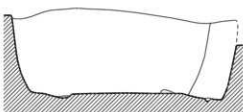
A 54.6m A'



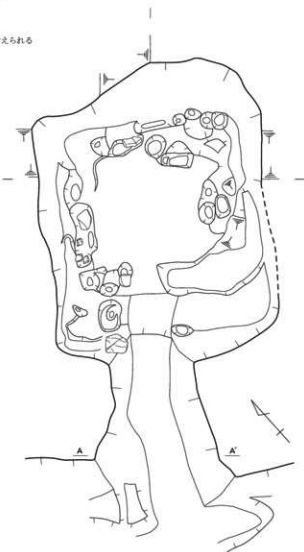
- | | |
|---------------------|---------|
| 1 茶褐色土 | 5 黄褐色土 |
| 2 茶黑色土 (わずかに炭化物を含む) | 6 暗赤褐色土 |
| 3 暗茶褐色土 | 7 黄褐色土 |
| 4 赤茶色土 | 8 赤褐色土 |

1~5 7世紀後半の遺跡あるいは祭祀時の盛り込みと考えられる

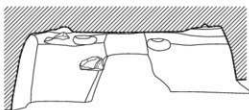
54.8m



54.6m



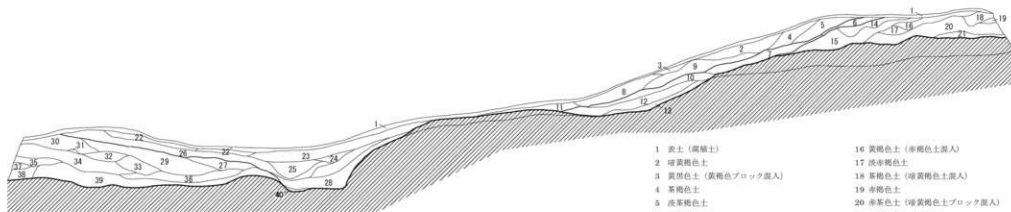
54.6m



54.8m

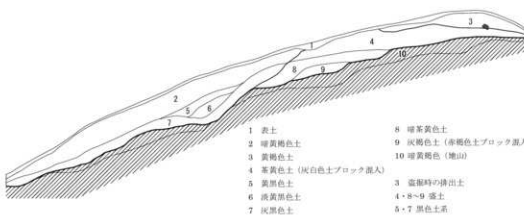


第30図 3号墳石室・墓道土層断面実測図 (1/60)



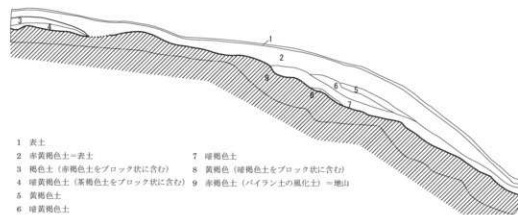
- | | | |
|----------------------|-----------------------|------------------------------|
| 1 表土 (腐植土) | 16 黄褐色土 (赤褐色土混入) | 31 淡茶褐色土 |
| 2 暗黄褐色土 | 17 淡赤褐色土 | 32 赤茶色土 (黄褐色土混入) |
| 3 黄褐色土 (黄褐色ブロック混入) | 18 茶褐色土 (暗黄褐色土混入) | 33 茶褐色土 (赤褐色土ブロック混入) |
| 4 茶褐色土 | 19 赤褐色土 | 34 暗茶褐色土 (赤褐色土ブロック混入) |
| 5 赤茶褐色土 | 20 赤茶色土 (暗黄褐色土ブロック混入) | 35 茶褐色土 |
| 6 暗黄褐色土 | 21 暗黄褐色土 (団粒土) | 36 黄赤色土 (赤褐色土ブロック混入) |
| 7 暗灰黒色土 (赤褐色土混入) | 22 淡黒色土 | 37 黄赤色土 (赤褐色土ブロック混入) |
| 8 黄赤褐色土 | 23 淡黒色土 | 38 淡赤茶色土 (暗黄褐色土ブロック混入) |
| 9 赤褐色土 (黄褐色ブロック混入) | 24 淡黄赤色土 (黄褐色土混入) | 39 茶褐色土・灰白色土・黄褐色土ブロックの混在土 |
| 10 黄赤褐色土 | 25 黒色土 (灰灰土混入) | 40 赤褐色土 |
| 11 淡灰黒色土 | 26 暗黄褐色土 | 6・7・10・12・24~26 黒色土系 |
| 12 暗灰黒色土 | 27 赤黒色土 | 2~5 盗掘時の排土 |
| 13 暗黄褐色土 (赤褐色土混入) | 28 27に同じ | 14~20 盛土 |
| 14 明黄褐色土 | 29 褐色土 (淡赤褐色土混入) | 22 盗掘戻りの排土であらう |
| 15 赤褐色土 (黄褐色土ブロック混入) | 30 暗赤褐色土 (黄褐色土混入) | 22・23 黒色土系ではあるが、しまりがなく盗掘時の排土 |

3号墳東トレンチ



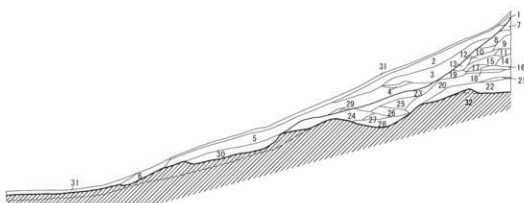
- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 表土 | 8 暗茶黄赤土 |
| 2 暗黄褐色土 | 9 灰褐色土 (赤褐色土ブロック混入) |
| 3 黄褐色土 | 10 暗黄褐色土 (堆山) |
| 4 茶黄赤土 (灰白色土ブロック混入) | |
| 5 赤黄赤土 | 3 盗掘時の排出土 |
| 6 黄赤褐色土 | 4・8~9 盛土 |
| 7 灰黒色土 | 5・7 黒色土系 |

3号墳西トレンチ



- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 表土 | 7 暗褐色土 |
| 2 赤黄褐色土+灰土 | |
| 3 褐色土 (黄褐色土をブロック状に含む) | 8 黄褐色土 (暗褐色土をブロック状に含む) |
| 4 暗黄褐色土 (黄褐色土をブロック状に含む) | 9 赤褐色土 (パイライトの風化土) → 堆山 |
| 5 黄褐色土 | |
| 6 暗黄褐色土 | |

4号墳東トレンチ

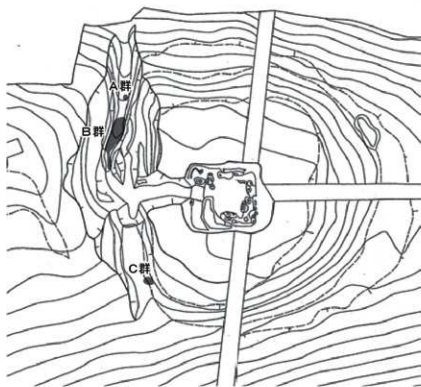


- | | | |
|---------------|------------------------|------------------------------|
| 1 暗黄褐色土 | 13 褐色土 + 暗赤褐色土 | 25 赤褐色土 + 黄褐色土 |
| 2 茶褐色土 | 14 黄褐色土 (赤褐色土ブロックを含む) | 26 暗黄褐色土 (白色の堆山ブロックを含む) |
| 3 暗褐色土 | 15 赤褐色土 (褐色土ブロックを含む) | 27 黄褐色土 |
| 4 暗褐色土 + 赤褐色土 | 16 明黄褐色土 | 28 29に同じ |
| 5 暗黄褐色土 (灰土) | 17 18に同じ | 29 暗茶褐色土 |
| 6 暗茶褐色土 (腐植土) | 18 黄褐色土 + 赤褐色土 | 30 暗灰褐色土 |
| 7 茶褐色土 | 19 褐色土 (赤褐色土ブロックを含む) | 31 表土 |
| 8 暗褐色土 + 茶褐色土 | 20 明赤褐色土 | 32 堆山 (灰山崩風化土) |
| 9 暗黄褐色土 | 21 18に同じ | |
| 10 暗黄褐色土 | 22 暗黄褐色土 (赤褐色土ブロックを含む) | 1~5 流土 |
| 11 暗黄赤褐色土 | 23 茶褐色土 | 8~15 盛土 |
| 12 暗赤褐色土 | 24 暗赤茶褐色土 | 16~28 盛土(盛土は黄褐色土+赤褐色土を交互に積む) |

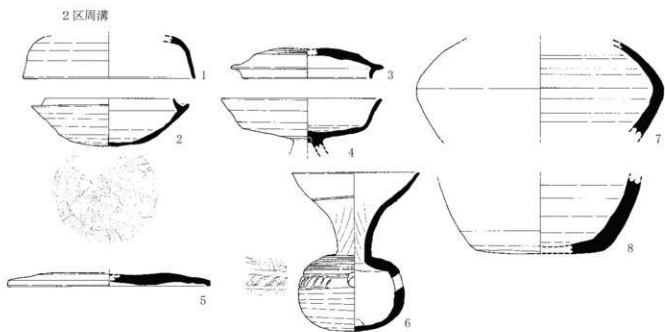


第31図 2・3号墳間及び3・4号墳墳丘土層断面実測図 (1/60)

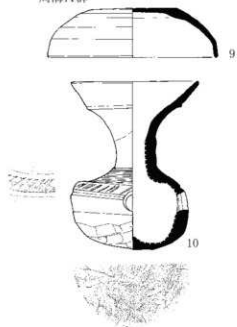
続文がある。41～57は3区南側周溝からの出土で、上層からは杯身(41～45)、高杯(46、47)、中層からは杯蓋(48～50)、杯身(51、52、56)、高台付杯(53～55)、中～下層からは角付椀(57)が出土した。角付椀は角(把手)の上下に三条の沈線があり、その上に波状文を施している。角は1ヶ所しか残存していないが、双角の可能性もある。58～79は同じく3区周溝からの出土であるが、細かい出土地点の明記がないもので、上層から杯身(58、59)、大甕(37)付近から杯蓋(60)、杯身(61)が出土した。その他、杯蓋(62～70)、杯身(71～73)、高杯(74)、高台付杯(75)、甕(76)、椀(77)、瓶(78)、長頸壺(79)がある。80～151は墓道から出土した。図化できなかった須恵器も含めると、墓道からの出土が多い。80～100は上層からの出土で、杯蓋(80～87)、つまみ付杯蓋(88)、杯身(89～97)、提瓶(98)、高杯(99)、鉢(100)がある。101～151は2次墓道からの出土で、杯蓋(101～107、111～113)、杯身(108～110、114)、つまみ付杯蓋(115～125)、高台付杯(126～134)、高杯(135～140)、甕(141)、台付椀(142)、平瓶(143)、甕(144)、小壺(145)、壺(146)、播鉢(147)、高杯(148)、皿(149)、蓋(150)、土師器の把手付鉢(151)がある。ここから出土したものの大半は3号墳の周溝や墓道上層、墳丘出土の破片と接合するものが多いことから、破損し原位置をかなり動いていると想定される。147の播鉢は播面が平坦で線刻や刺突等はない。152～158は墳丘からの出土である。3区墳丘から杯蓋(152)、杯身(153)、高杯(154)、2区の墳丘裾部から蓋(155)、平瓶(156)、4区の墳丘裾部から高杯(157)、大甕(158)が出土した。大甕は4区墳丘裾部の他、1・2区墳丘、2区墳丘裾部、盗掘坑などから出土した破片と接合した。盗掘坑からは杯蓋(159)、甕(160)



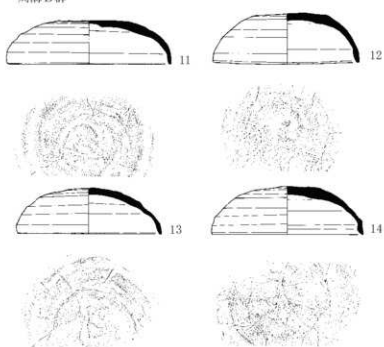
第32図 3号墳周溝土器出土地点(1/200)



周溝A群

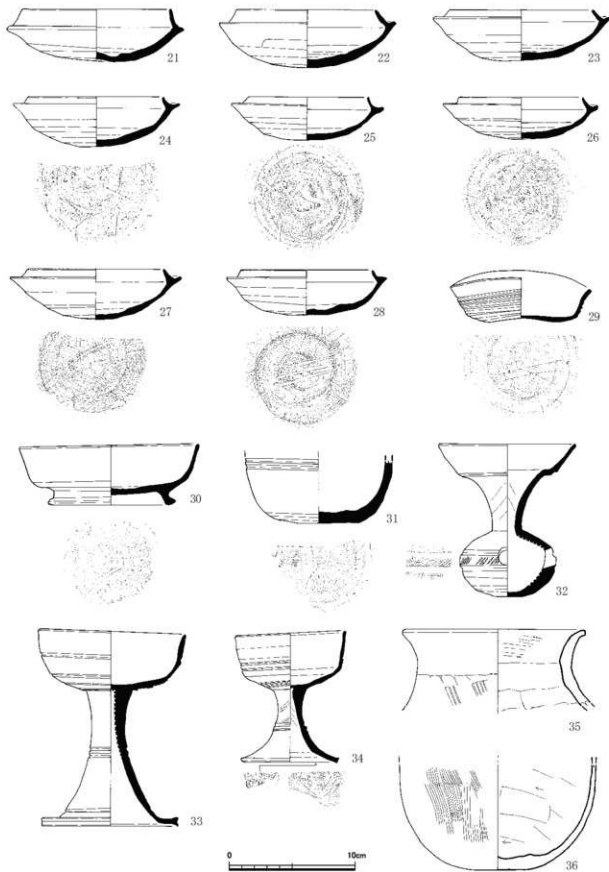


周溝B群

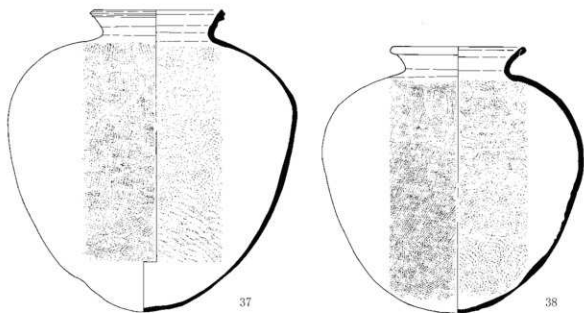


第33图 3号填出土器实测图① (1/3)

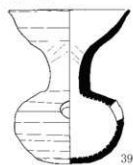
周漢B群



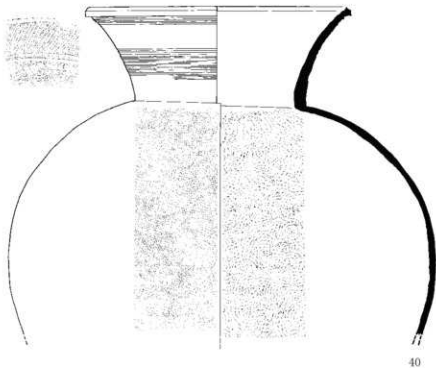
第34图 3号填出土器实测图② (1/3)



周溝C群



39

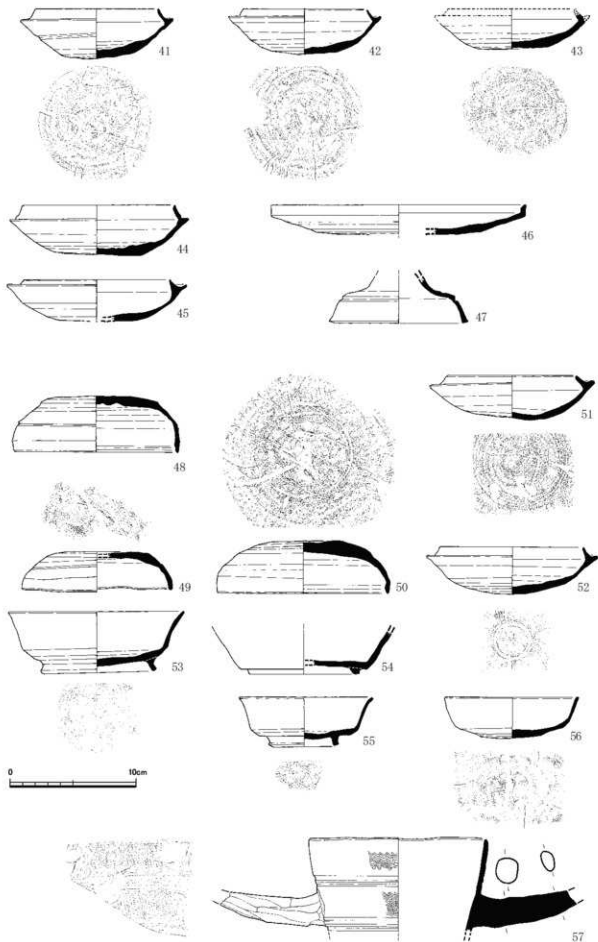


40



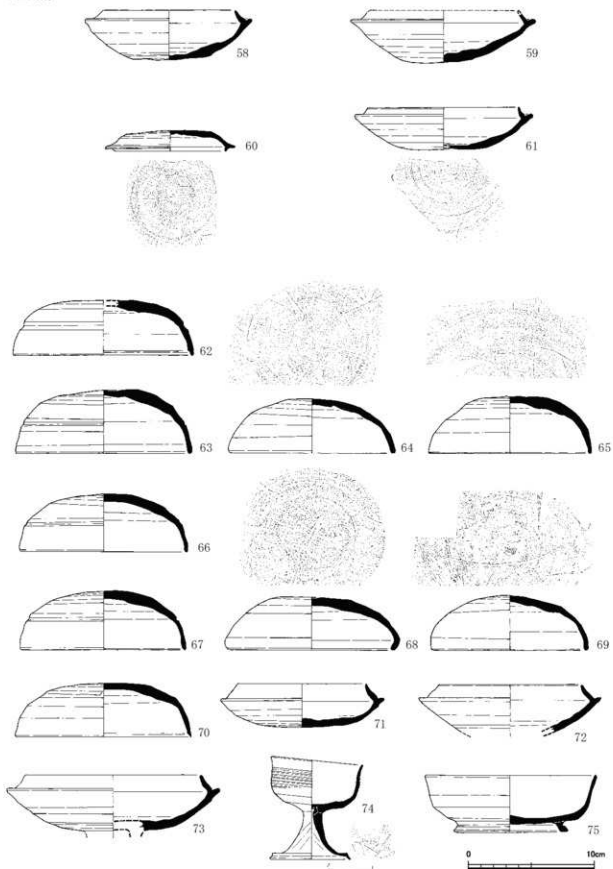
第35图 3号墳出土土器実測図③ (1/3、37・38・40は1/6)

3区南侧周溝



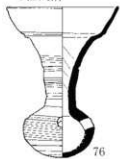
第36图 3号填出土土器实测图④ (1/3)

3区周溝

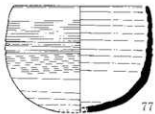


第 37 图 3号填出土土器实测图⑤ (1/3)

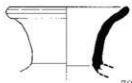
3区周溝



76



77



78



79

墓道上層



80



81



82



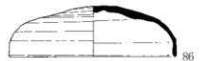
83



84



85



86



87



88



89



90



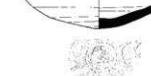
91



92



93



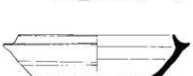
94



95



96

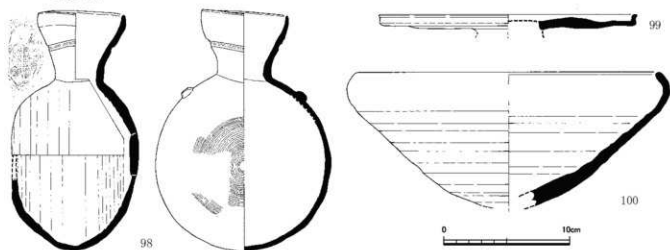


97

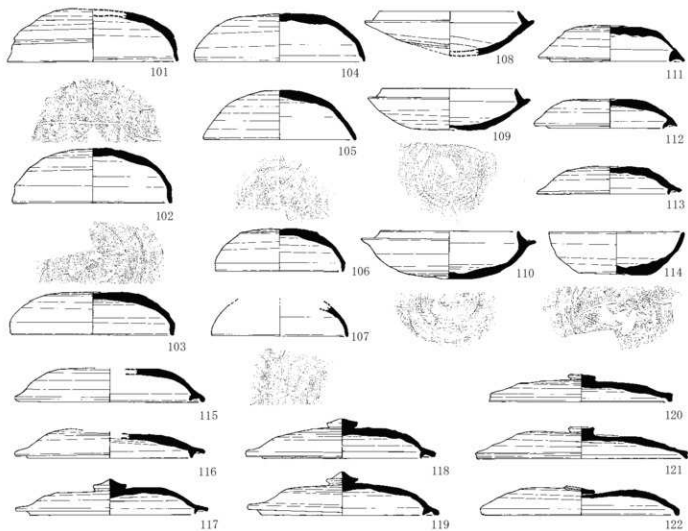


第 38 图 3 号填出土土器实测图⑥ (1/3)

墓道上層

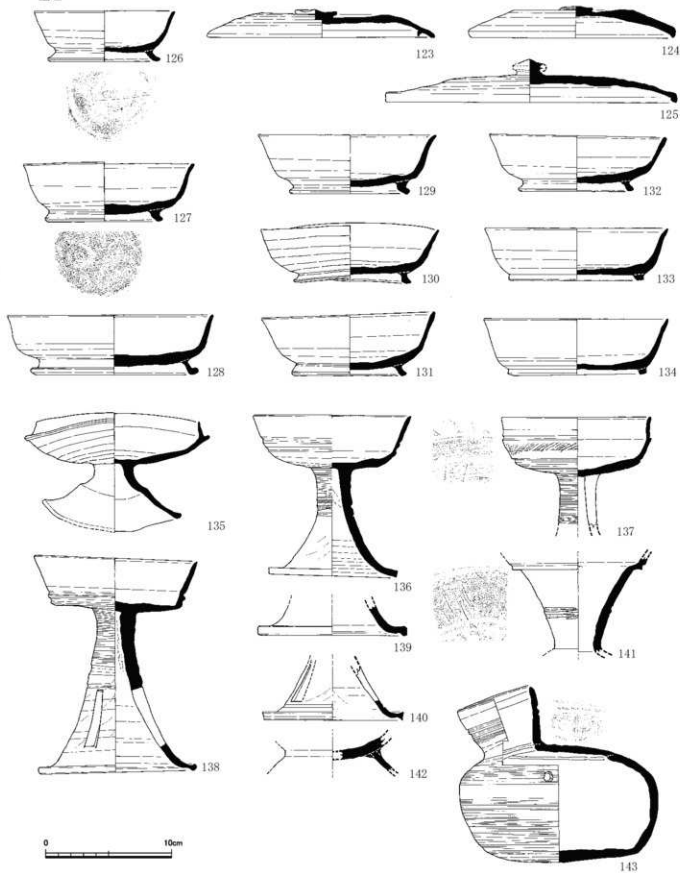


墓道



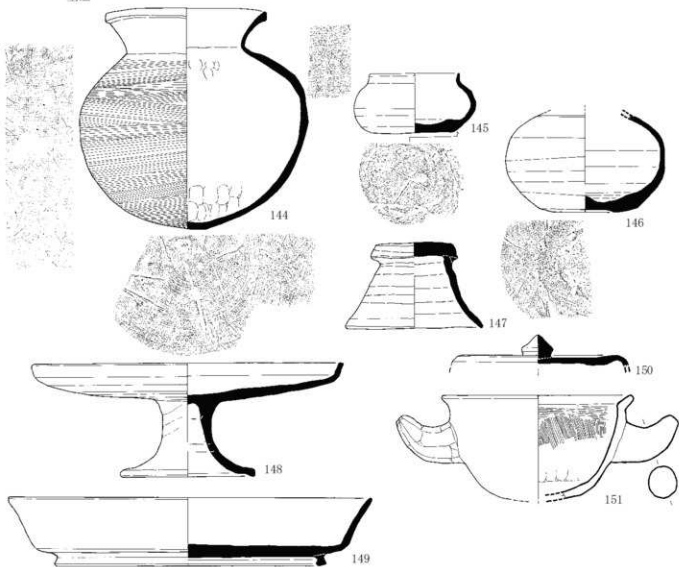
第 39 图 3 号填出土器实测图⑦ (1/3)

墓道

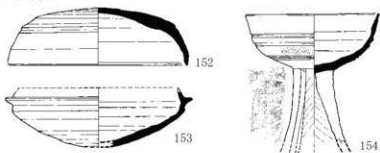


第40图 3号填出土器实测图⑧ (1/3)

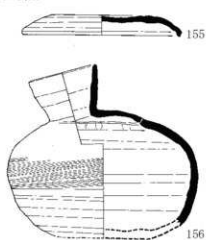
墓道



3区墳丘

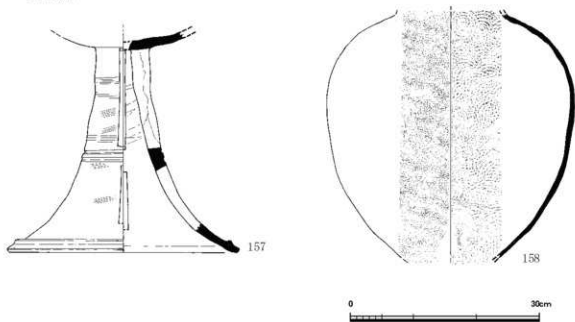


2区墳裾

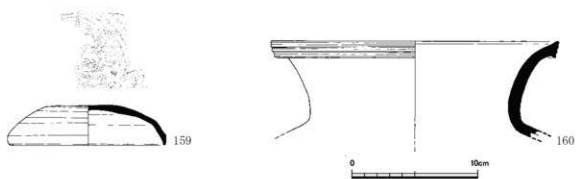


第41图 3号墳出土土器実測图⑨(1/3)

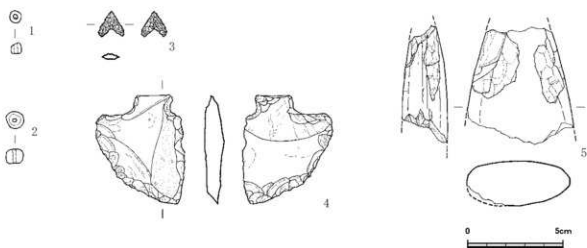
4区墳裾



盗掘坑



第42図 3号墳出土土器実測図⑩ (1/3、158は1/6)



第43図 3号墳出土玉類・石器実測図 (1/2)

が出土した。

装身具（第43図1、2）

ガラス小玉が2点出土している。1は盗掘坑、2は腰石の抜き跡から出土している。いずれもかく乱後に移動したものである。1の色調はスカイブルーで、内部に気泡がみられる。2の色調は紺色で、孔のある端部は平坦である。

石器（図版23 第43図3～5）

3は黒曜石製の石鏃で、長さ1.4cm、幅1.4cm、厚さ0.3cmである。4は石匙で、長さ5.7cm、幅4.7cm、厚さ1.0cmである。安山岩製。5は磨製石斧の基部から着柄部にかけての破片で、残存長5.6cm、幅5.6cm、厚さ2.35cmである。古墳に伴うものではないが、3、5は1区墳丘から、4は3区周溝から出土した。

（4）4号墳

①位置と現況（図版7（1）、第3図）

4号墳は尾根上の最南にあり、調査対象地より南側は宅地造成が行われ、墳丘は2/3以上削平されている。現存する最高所で58.3mを測る。直径13～14mの円墳と推定される。

出土遺物は墳丘裾部から須恵器と土師器の細片がわずかである。

（5）5号墳

①位置と現況（第3図）

5号墳は1～4号墳がある尾根の東斜面に位置する円墳である。標高45m付近にあり、盗掘により墳頂部が陥没していた。

②墳丘（図版7（2）、第45図）

墳丘の規模は直径約10mで、周溝は西から北側の斜面を馬蹄形状に掘削している。また、西側周溝には集石が1.4×0.8mの範囲でみられた。須恵器や鉄器などの破片を伴うこと、石の大きさや形から、閉塞石が盗掘時に移動されたものと思われる。

③主体部（図版8（1）、第44図）

主体部は横穴石室で盗掘を受けており、石室は腰石まで抜かれていたが榎石と敷石の一部、羨道部分の石材は残存していた。石室は掘方や腰石の抜き跡から単室の横穴式石室である。主軸はおよそN-9°-Wで、南方向に開口する。玄室は奥行約2.7m、幅約1.8mと推定される。羨道は長さ約2m、幅0.9mを測る。羨道部分床面の高さは玄室床面の高さを同じであるが石材は床面から積み上げていない。墓道は約11.5m検出した。羨道から直線的に直線的に約6m南へ延び、緩やかに東へ曲がる。

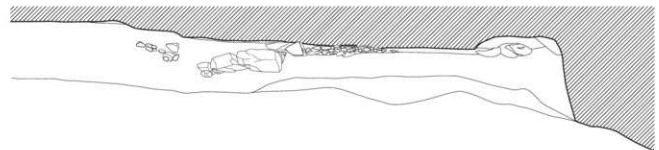
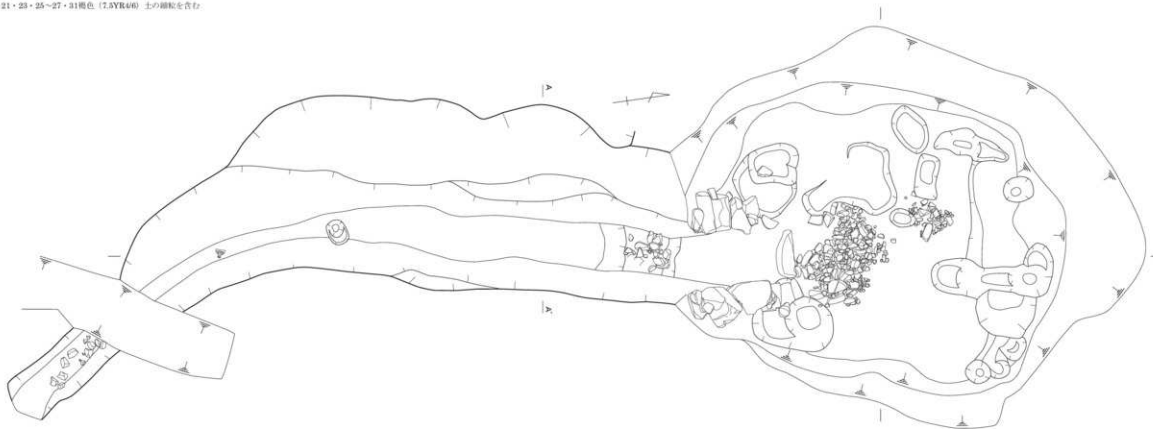
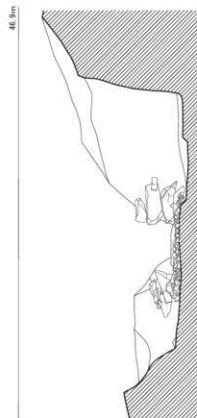
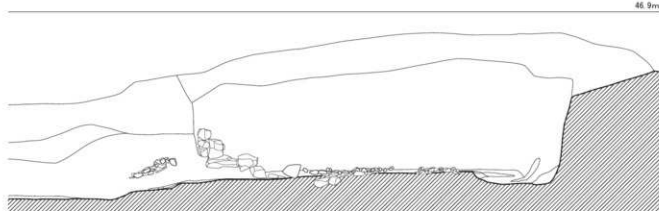
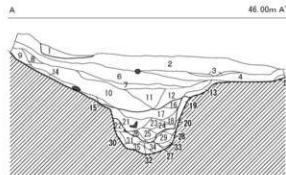
④出土遺物

5号墳は須恵器、土師器、鉄器（鉄鏃、鉄滓）、装身具（耳環）、石器（石鏃、石斧）、が出土した。玄室からの出土遺物として、須恵器、鉄鏃がある。出土遺物の大半は須恵器で、その多くは周溝から

- 1 腐しよく土 (山土)
- 2 明褐色 (7.5YR5/6) 土
- 3 褐色 (7.5YR4/4) 土
- 4 褐色 (10YR4/5) 土
- 5 褐色 (7.5YR4/3) 土
- 6 褐色 (7.5YR4/3) 土
- 7 暗褐色 (10YR3/4) 土
- 8 暗褐色 (7.5YR3/3) 土
- 9 暗褐色 (10YR3/4) 土
- 10 暗褐色 (10YR2/2) 土
- 11mm前後の砂粒を含む
- 11 暗褐色 (10YR3/3) 土
- 12 7とほぼ同じ
- 13 褐色 (7.5YR4/4) 土
- 14 褐色 (7.5YR4/3) 土
- 15 暗褐色 (7.5YR3/2) 土
- 16 暗褐色 (7.5YR3/4) 土
- 17 暗褐色 (7.5YR3/2) 土
- 1mm前後の砂粒を含む
- 18 16とほぼ同じ

- 19 におい・赤褐色 (5YR4/4) 土
- 20 明褐色 (7.5YR5/6) 土
- 21 暗褐色 (7.5YR3/3) 土
- 22 褐色 (7.5YR4/4) 土
- 23 暗褐色 (10YR3/4) 土
- 24 23とほぼ同じであるがやや明るい*
- 25 暗褐色 (10YR3/2) 土
- 26 暗褐色 (7.5YR3/2) 土
- 27 25とほぼ同じ
- 28 褐色 (7.5YR4/4) 土
- 29 褐色 (7.5YR4/6) 粘土質硬土
- 30 褐色 (7.5YR4/4) 粘土質硬土
- 31 暗褐色 (10YR3/4) 土
- 32 暗褐色 (10YR3/2) 土ブロック
- 33 30とほぼ同じ
- 34 褐色 (7.5YR4/4) 土
- 35 褐色 (7.5YR4/6) 土

21・23・25-27・31褐色 (7.5YR4/6) 土の砂粒を含む

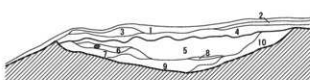


1/60

第44図 5号墳石室・墓道土層断面実測図 (1/60)

5号墳北トレンチ

47.1m

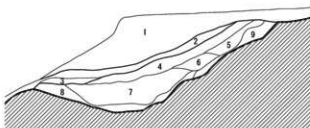


- 1 腐植土 (黒色)
- 2 黄褐色土
- 3 2に同じ腐植 (石抜き) 時の上げ土か
- 4 暗黄褐色土
- 5 灰黒色土 (暗黄褐色土混入)
- 6 暗黄灰色土
- 7 茶褐色土 (暗黄褐色土混入)
- 8 黄褐色土 (灰黒色土混入)
- 9 淡灰黒色土 (暗黄褐色土混入)
- 10 茶黒色土

5~9 黒色系土層

5号墳西トレンチ

48.2m

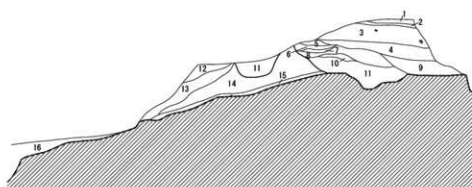


- 1 赤褐色粘質土・赤褐色・ライラソ土・腐植土が混在 (最近の重機による盛土)
- 2 腐植土 (現地表面)
- 3 茶褐色土 (盗掘時の排出土か?)
- 4 黄褐色土
- 5 暗黄褐色土
- 6 暗茶褐色土
- 7 灰黒色土 (黄褐色土混入)
- 8 黄褐色土 (灰黒色土混入)
- 9 暗赤褐色土

6~7 黒色土系

5号墳東トレンチ

46.0m

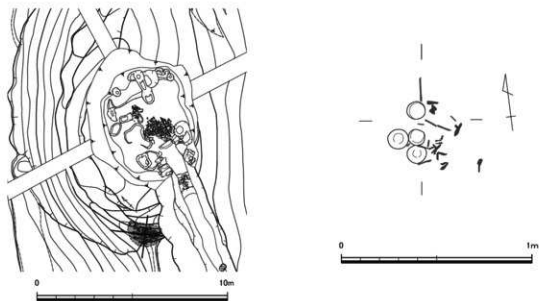


- 1 黄褐色土 (最近の盛土)
- 2 腐植土 (現在の表面)
- 3 暗黄褐色土 (花崗岩礫含む)
- 4 黒褐色土混入茶褐色土
- 5 明黄褐色土
- 6 茶褐色土
- 7 黄褐色土
- 8 黒褐色土
- 9 茶黄色土
- 10 茶褐色土
- 11 黄褐色土混入黒褐色土
- 12 黄褐色土
- 13 灰黒色土
- 14 赤褐色土
- 15 黒褐色土
- 16 黒色土混入黄褐色土 (最近の掘戻土)

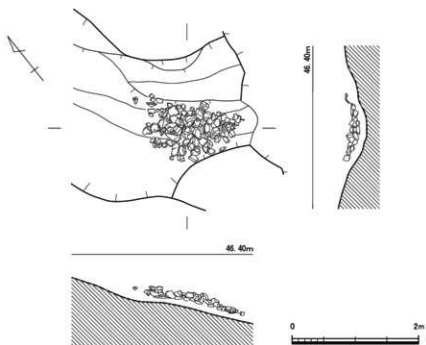
3~11 盗掘・覆土による層り込みの表土と判断される



第 45 図 5号墳墳丘土層断面実測図 (1/60)



第 46 图 5号墳石室遺物出土状況実測図 (1/20)



第 47 图 5号墳周溝実測図 (1/60)

である。

須恵器・土師器（図版 23～26、第 48～55 図）

1～4 は玄室から出土した。杯蓋（1、2）、杯身（3、4）がある。1～3 はヘラ記号があり、丸を線刻したようなほぼ同じ形のヘラ記号がある。5～45 は周溝から出土した。1 区周溝からは杯身（5）、平瓶（6）、甕（7）、短頸壺（8）、壺（9、10）がある。7 の甕は底部外面にヘラ記号あり。8 の短頸壺は胴部上半に 2 条の沈線がある。10 の壺は底部外面の調整が静止ヘラケズリである。2 区周溝からは杯蓋（11）、杯身（12）、椀（13）、甕（14）が出土した。13 の椀の底部外面の調整は静止ヘラケズリである。3 区周溝からは 15～36 があるが、杯蓋（15）、杯身（16～19）、甕（20）、壺（21、22、24）、横瓶（23）、甕（25、26）、大甕（27）は一括して出土した。20 の甕は頸部に 2 ヶ所と底部にヘラ記号がある。27 の大甕は頸部中央に沈線が 2 条あり、沈線から上位に斜線文あり。口頸部内外面にヘラ記号あり。ヘラ記号は内外面とも同じ 3 本線で、口縁部円周の対角線上に記されている。この他、杯蓋（28）、杯身（29～35）、大甕（36）がある。36 の大甕も頸部に 2 条の沈線があり、沈線より上位に斜線文がある。口頸部の内側 1 ヶ所と外 2 ヶ所の計 3 ヶ所にヘラ記号があり、27 と同じく 3 本線のヘラ記号は内外一対のように記されている。もう一ヶ所の外側にあるヘラ記号は形が異なる。4 区周溝からは杯蓋（37、38）、杯身（39～42）、壺（43）が出土した。44、45 は周溝からの出土である。

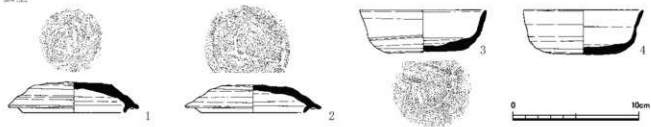
46～64 は墓道から出土で、杯蓋（46～48）、杯身（49～51）、土師器椀（52）は埋土上層から出土した。埋土中層からは杯蓋（53、54、57～60）、短頸壺（55）、大甕（56）、下層から杯蓋（61）が出土した。その他、墓道から高杯（62、63）、皮袋形土器（64）が出土した。62 の高杯の脚部は二段透かしで 3 方に透かしがある。1 区墳丘、3 区周溝から出土した破片と接合した。63 は土師器の高杯で、脚部のみである。64 の皮袋形土器は石室閉塞部から 7.5 m の位置で出土した。底部は筒状に成形した片側を扁平につぶして閉じ合せている。閉じ合わせた底部は 3 か所穿孔があり、皮袋の縫い目を表現していると考えられる。胴部上位に 1 条、中位からやや下に 2 条の沈線があり、沈線間の上下 2 段に縦線が連続して描かれている。下段には刺突による円形の文様を施している。

65～87 は墳丘からの出土である。1 区の表土下から杯身（65～67）、盗掘坑から杯蓋（68～75）、杯身（76、77）、2 区の盗掘坑から土師器椀（78）、手捏ね土器（79）が出土した。2 区墳丘裾部から甕（80）、土師器甕（81）、墳丘裾部の東側から杯蓋（82）、小型の壺（83）が出土している。その他、墳丘の表土下から杯蓋（84、87）、裾部から杯蓋（85）、提瓶（86）が出土した。86 の提瓶は把手がボタン状になり把手部の退化がみられる。5 号墳とその周辺から出土した遺物には盗掘坑から土師器杯（88）、須恵器の短頸壺（89）、提瓶（90）があり、主に東側斜面からは黒色土器の椀（91、94）、高台付椀（93）、甕（92）、高杯（95）、大甕（96、97）がある。

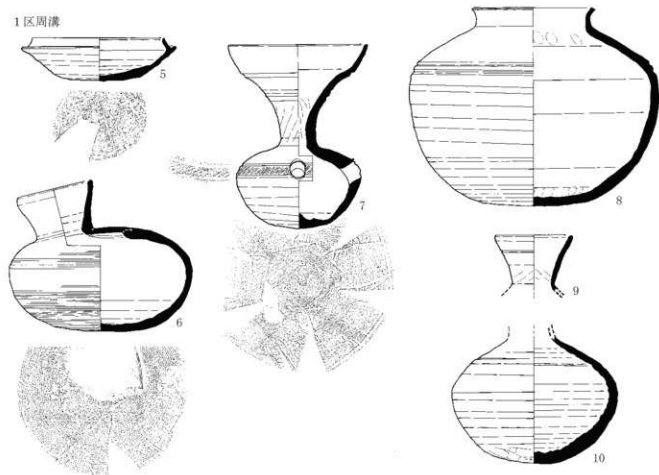
鉄器（図版 27 第 56 図 1～29）

1～29 は鉄器である。1～4 は鐵身～茎部の破片で、1、2 とも刃部が欠損しており圭頭鐵か方頭鐵であると思われる。3 は三角形鐵で刃部を欠損し、鐵身関部から 2 cm 下に関部がある。4 は刃部

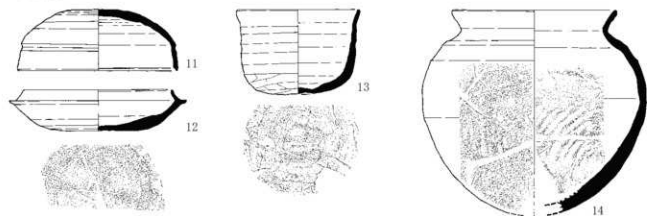
玄室



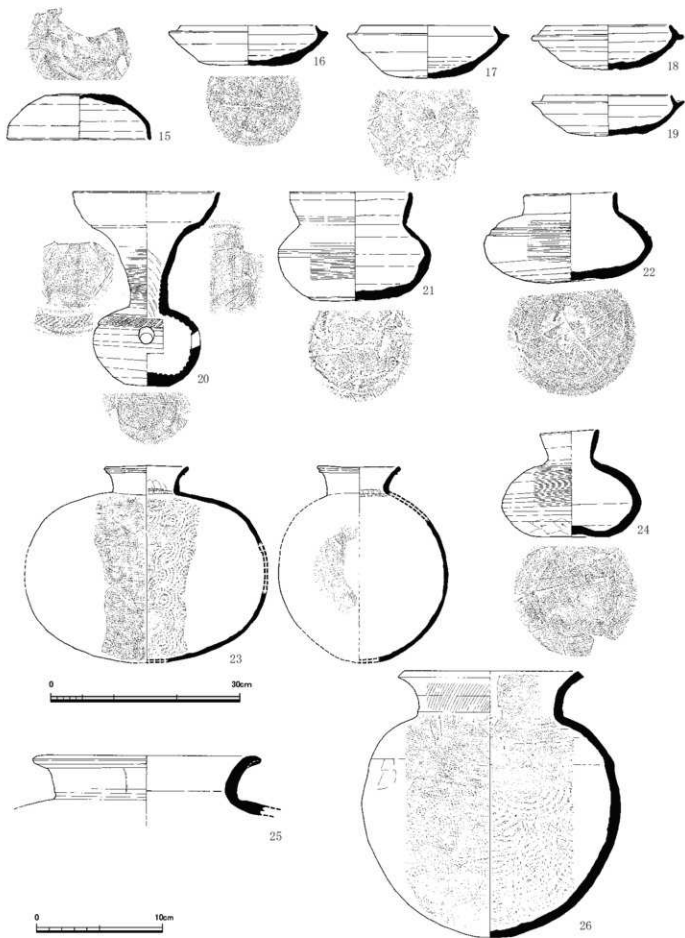
1区周溝



2区周溝

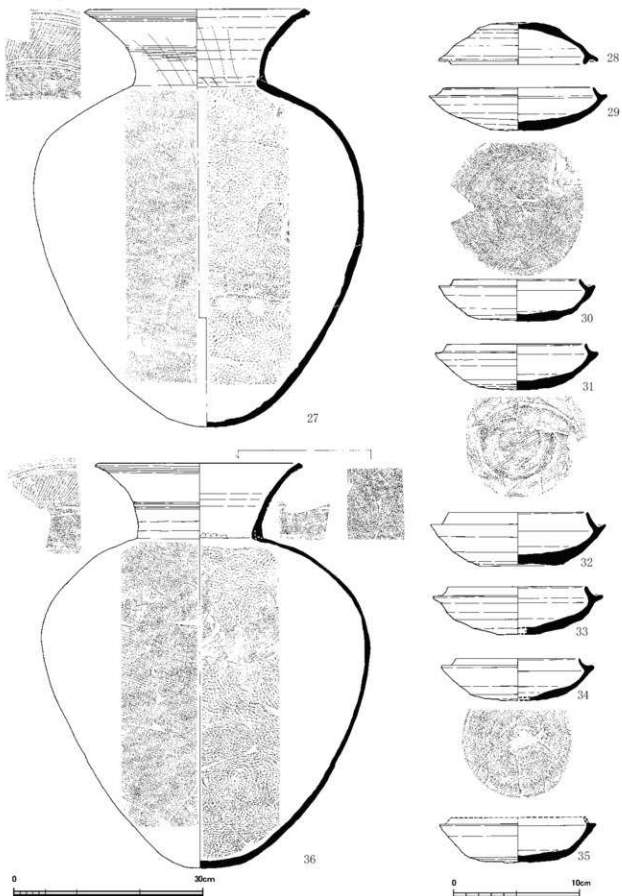


第48图 5号填出土土器实测图① (1/3)

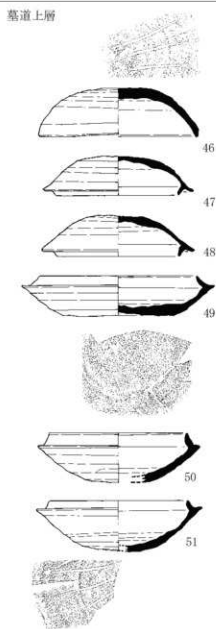
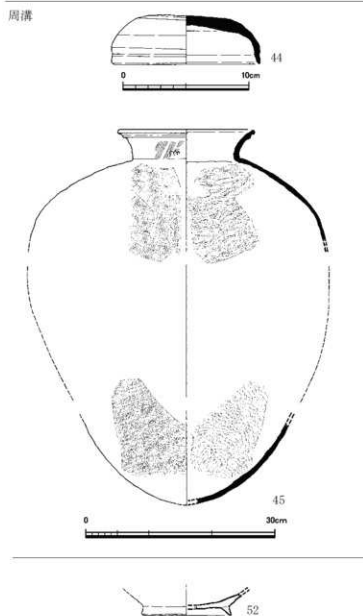
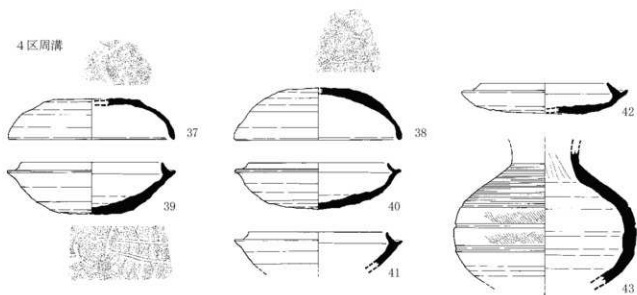


第49图 5号坑出土土器实测图② (1/3、23は1/6)

3区周溝



第50图 5号填出土土器实测图③ (1/3、27·36は1/6)



第51图 5号出土土器実測图④ (1/3、45は1/6)

墓道中層



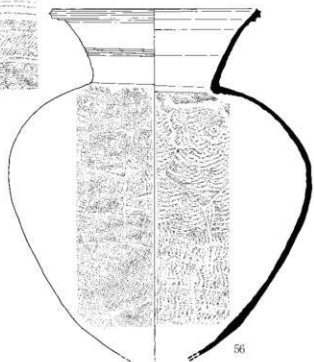
53



54



55



56



57



58

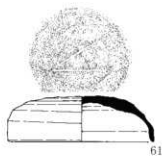


59



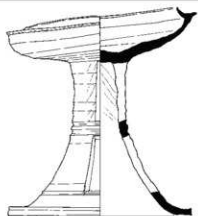
60

墓道下層



61

墓道



62



63



64



第52图 5号墳出土土器実測図⑤ (1/3、56は1/6)

1区墳丘(表土下)



65



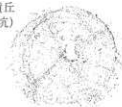
66



67



1区墳丘
(盗掘坑)



68



69



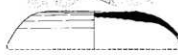
70



71



72



73



74



75



76



77



2区墳丘(盗掘坑)



78

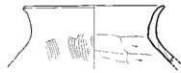


79

2区墳裾



80

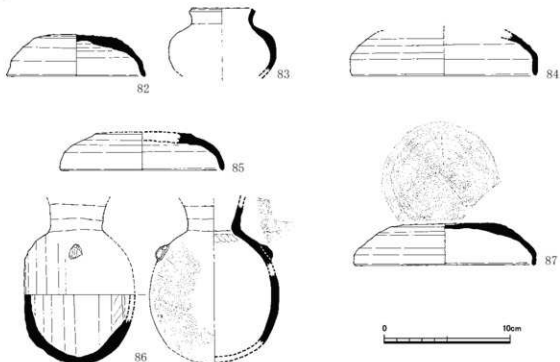


81



第53图 5号墳出土土器実測图⑥(1/3)

墳丘



第54図 5号墳出土須恵器実測図⑦(1/3)

を欠損するが頭端織もしくは三角形織と思われる。織身の中央に透し孔がわずかに残る。織身間部が方形状に突出し、基部の一部に樹皮が残る。5～21は長頭織で、5～7、10は織身が長三角形、8、9は片刃か。5、13、14、16には方形に突出する頭部の間部があり、14は樹皮が残る。22～29は基部の破片である。

装身具 (図版28 第57図1、2)

1、2とも金銅製の耳環である。1は残存状況が良く、金貼りによる皺が内側と端部にみられる。外径2.85 cm、内径1.85 cmを計る。2は内面と一部外面に表面層が残る。

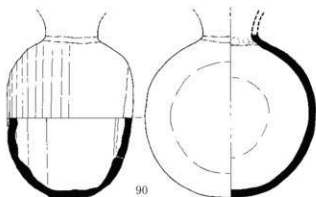
土製品 (図版28 第57図3～18)

3～9は土製模造鏡で、10～18は手捏土器である。3は2区墳丘、4は2区の盗掘坑、5、6は2区墳裾、7～9は東側土層ベルトからの出土である。土製模造鏡のうち、7を除き鈕を縦長につまみ出し中央に穿孔している。7は鈕部分を丁寧成形している。10、11は2区墳丘、12、13は2区盗掘坑、14、15は3区墳裾、16は2区墳裾、17、18は東側土層ベルトからの出土である。大きさは3 cm未満のものがほとんどで、口縁部が直線的に開きその最大径が口縁部にあるものと、口縁部がやや内傾し最大径が胴部にあるもの等、大きくみると2つのタイプがある。

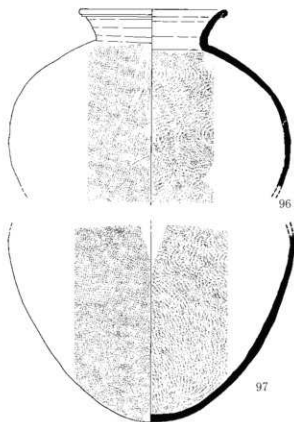
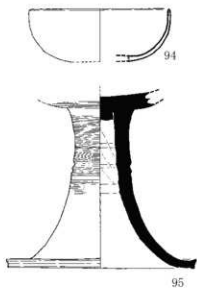
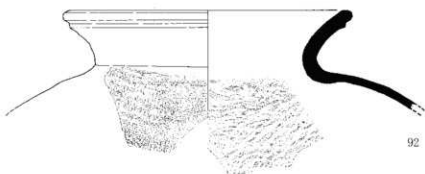
石器 (図版28、第57図19～22)

19は2区墳裾から出土した。剥片石器か。20、21は安山岩製の打製石鏃で、20は2区盗掘坑から、21は3区周溝から出土した。21は完形で、長さ2.95 cm、幅2.0 cm、厚さ0.4 cmを計る。22は大型始刃石斧の刃部破片である。残存長6.9 cm、幅5.55 cm、厚さ3.5 cmを計る。4区から出土した。

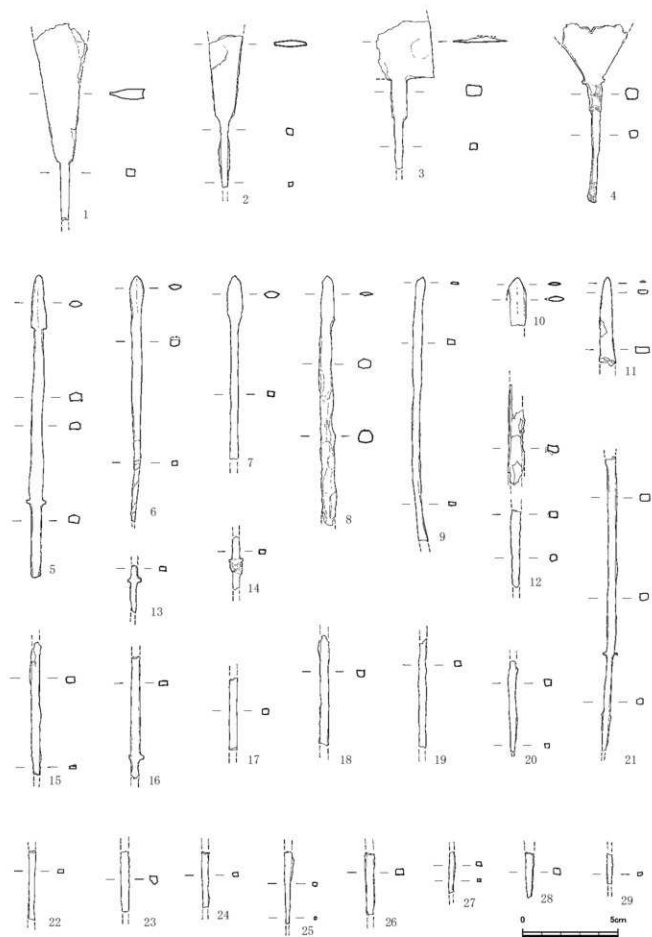
盗掘坑



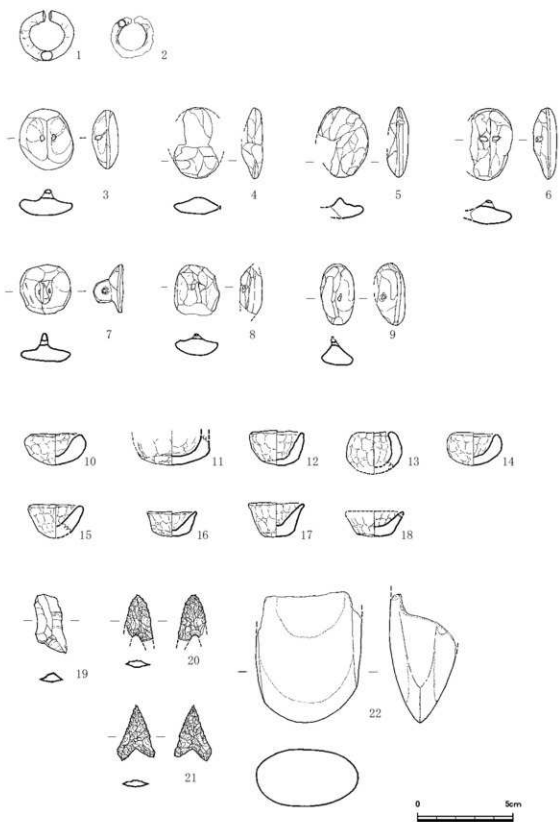
東側斜面



第55図 5号墳出土土器実測図⑧(1/3、96・97は1/6)



第56图 5号出土铁器实测图(1/2)



第 57 图 5号填出土装身具·土製品·石器实测图 (1/2)

3 その他の遺構と遺物

(1) 竪穴建物跡

竪穴建物跡は5号墳より下位の東側斜面の標高43m付近で2軒検出した。

1号竪穴建物跡 (図版9(3)、第58図)

1号竪穴建物跡は方形を呈し、長辺約2.6m、短辺約1.9mを測る。2本柱穴があり、柱穴間の中央に70×80cmの楕円形のピットがある。この楕円形のピット及び竪穴建物跡の中央付近から北側の埋土には焼土が多く含まれていた。

出土遺物 (図版28、第59図1～9)

出土遺物は須恵器、土師器である。出土遺物の多くは床面のやや近くから出土し、ほぼ完形のものもあるが、柱穴の上部からの出土もあり、これらの多くは建物跡が廃絶後に流れ込んだものと考えられる。須恵器は杯身(2、5)、杯蓋(4、8)、高杯(3)、甕(6)、甕(9)、土師器は椀(1)、甕(7)がある。6の甕は胴部が上下半分に割れた状態で出土した。胴部の穿孔の上下に沈線を施し、沈線間に刺突文あり。7の甕は南側の柱穴の上位からの出土である。ほぼ完形で、甕の内面からも焼土が出土した。甕の底部やや平底で、胴部が寸胴である。口縁部内面はヨコ刷毛、外面はヨコナデ、胴部から底部内面は縦方向のケズリ、外面はタテ刷毛である。8、9の須恵器は埋土上層からの出土である。

2号竪穴建物跡 (図版9(4)、第58図)

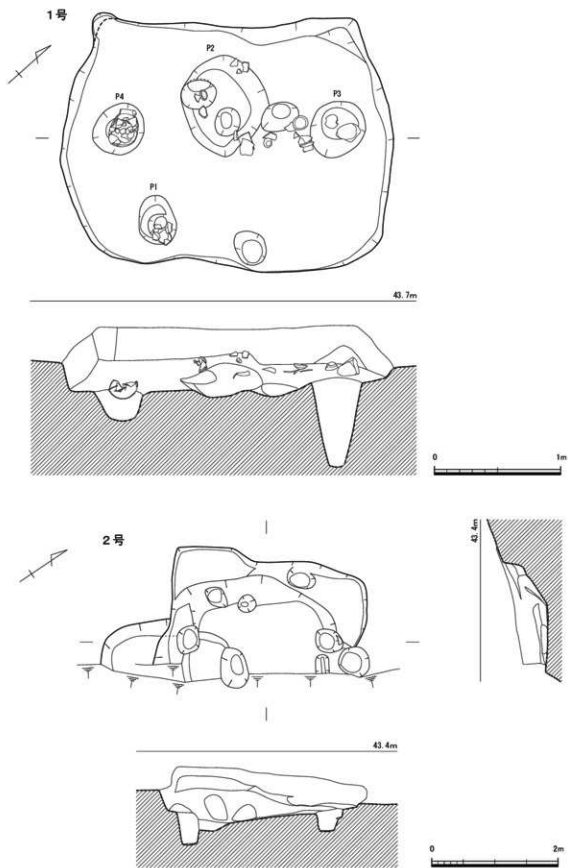
2号竪穴建物跡は方形を呈し、東側は削られている。長辺約3.2mを測り、短辺は約2mを残存する。西側の床面中央に2ヶ所柱穴と考えられる柱穴がある。本来4本柱穴があったと想定すると、全体の1/2以上削平されている。西側は段差があり、高低差が大きな所で40cmある。

出土遺物 (図版28、第59図10～24)

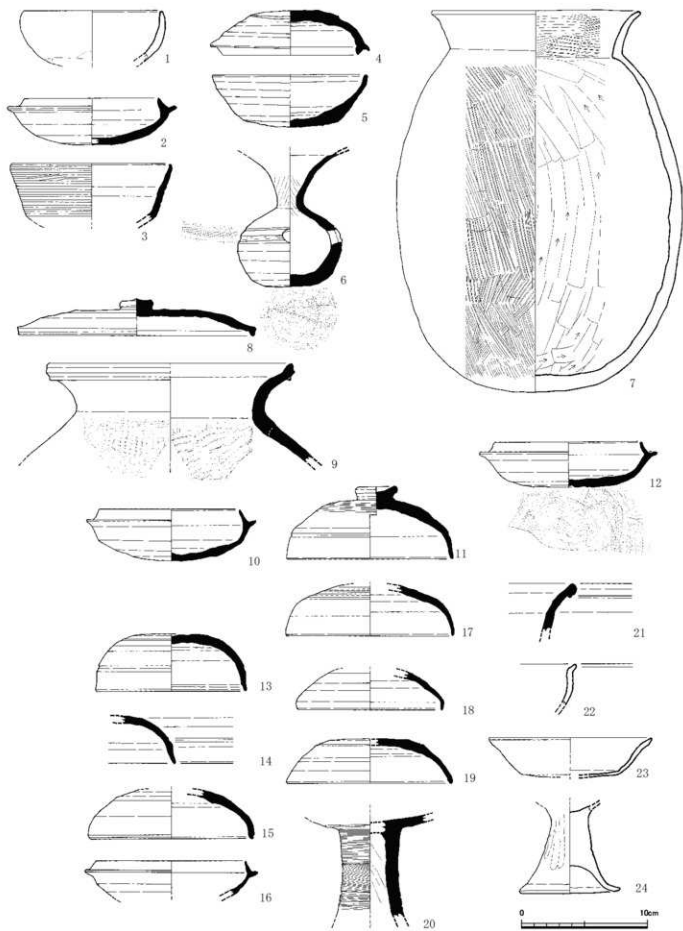
出土遺物は須恵器、土師器である。須恵器は杯身(10、12、16)、杯蓋(11、13～15、17～19)、高杯(20)、甕(21)、土師器は椀(22)、高杯(23、24)である。11のつまみ付の杯蓋は1号墳墓道、2号墳墳丘出土の破片と接合した。11、13、14は口縁部と体部の境に沈線があり、13は口縁端部内面に段を有する。20は高杯の脚部上半で外面はカキ目を施す。21は甕の口縁部の破片で、口縁端部外面がやや三角形を呈し口縁下に突帯が付く。22の椀は口縁が小さく外反する。23は高杯の杯部で、24は脚部である。脚部の2/3は中実で裾部は外反する。外面は工具による縦方向のナデで、裾部から内面はヨコナデである。

IV 総括

塚原古墳群2次調査では、主に5基の円墳が検出された。これらは群集墳であり、小丘陵の尾根上とその斜面に築かれているが、すべて盗掘を受けていたことから、出土遺物は少なくないもののその



第58图 1·2号竖穴建物跡実測图 (1/30·1/60)



第59图 1·2号竖穴建物跡出土土器実測图 (1/3)

原位置を保っていたものはごくわずかである。出土遺物は時期差があり、これらは追葬や古墳が攪乱された時期と想定される。各古墳の時期や特徴は以下のとおりである。

1号墳は丘陵の先端に位置する円墳で、周溝は前面のみで古墳の周りを一周しない。周溝は切り合いがあり、切り合い関係から初めに掘られた周溝からは、セットになった須恵器が2ヶ所にまとまって出土した。A群の須恵器の時期は6世紀中頃、B群は6世紀後半であり、ほぼ同じ周溝でも時期差がみられる。この周溝の約1m外側に後で掘られた周溝があり、外側の周溝から出土した須恵器の時期は7世紀前後頃である。この外側の周溝は追葬時に掘られたものと考えられる。

1号墳での調査成果は墓前祭祀の伴献形態が確認できたことである。二枚貝があったことから、いわゆる「食物供給献儀礼」が推測される。その他、砥石の出土があげられる。砥石は盗掘坑からの出土であるため、副葬品であると断定はできないが、古墳出土砥石の検討により（森 2017）被葬者像を検討する上で参考になる遺物である。

2号墳は出土遺物のほとんどが墓道からである。墓道は南に向かって屈曲している。墓道の土層断面観察によると、少なくとも2回は掘られている。墓道の埋土上層からは礫や7世紀前後頃の須恵器や鉄器、耳環が乱雑に出土しており、これらの出土遺物は石室に使われたと思われる石材や敷石とともに、盗掘された際に墓道に捨てられたと想定される。

2号墳出土の土器は6世紀後半から7世紀後半の時期のものがあるが、7世紀前半頃の須恵器が大半であり、古墳が利用された年代は6世紀後半から7世紀後半である。

3号墳も2号墳と同様に南側に墓道があり、南西側に周溝がある。周溝の切り合い関係から、初めに掘られた周溝は3、4号墳間を区切るように掘られているが、後から掘られた周溝は1m程外側で、西側へ延びる。

3号墳出土の土器は、6世紀中頃から8世紀前半の時期である。周溝3区出土土器は、土器A群の杯蓋は6世紀後半、土器B群は7世紀前半の須恵器が多く、7世紀前半から8世紀前半のものが出土している。墓道出土の土器は6世紀中頃から8世紀前半の時期である。7世紀前半から8世紀前半の時期の資料のうち比較的7世紀後半の資料が多くみられる。

4号墳は宅地造成により半分以上削平されており、出土遺物はほとんどない。

5号墳は小丘陵の斜面にあり、これまでの踏査では認識されておらず、今回の調査で初めて確認された。塚原古墳群の中で唯一、玄室の敷石の一部と羨道の腰石が残っていた。周溝は全周していたと考えられる。周溝からは礫とともに須恵器も出土している。これらの礫は大きさや出土状況から盗掘時に外された閉塞石が周溝に投げ捨てられたような状況である。玄室の敷石が残存する部分からは7世紀前半～中頃の須恵器と共に、土師器、鉄器、耳環が出土したが、盗掘されていることから原位置を移動している可能性もある。周溝からは6世紀中頃の須恵器が出土しているが、上位からの流れ込みと考えられ、それ以外では7世紀前半から中頃の須恵器が出土している。墓道は南に向かって延びている。墓道から出土した須恵器の時期は7世紀前半である。また、5号墳からは土製品が出土した。土製品は土製製造鏡と手捏土器があり、手捏土器は主に鉢形である。出土位置は墳丘へ墳裾であり、

石室内からの出土はない。手捏土器は集落で検出されることが多く、特に堅穴住居跡から出土し、竈周辺での祭祀行為に関係すると想定されている。一方、古墳での出土例は少ない(林 2012)ことから、被葬者像を検討する上で古墳での出土例の増加が望まれる。

出土須恵器の時期は古い順から1号墳、3号墳、2号墳であるが、古墳の立地や周溝の状況から古墳群が築造れた順序は、1号墳→2号墳→3号墳、5号墳と考えられる。古墳はほぼ南側に開口しており、墓道は東へ南側に延びることから、尾根の東側に集落への道があったと想定される。

出土須恵器にあるヘラ記号は、破片資料も多いため明確な数とは言えないが、21種類以上の記号が確認できた。このうち、4号墳を除く古墳に共通したものは1本線、2本線、3本線、×印の4つである。各古墳で特徴的なものとして、1号墳は波状文、2号墳は×印、3号墳はUと1本線を合わせた「刺又」のような形、5号墳は○印とAのような記号が杯身杯蓋にもみられ、目立つ記号である。また、杯蓋、杯身の内面には当て具痕もみられる。古墳の近くに所在する窯跡出土の須恵器のヘラ記号をみると、6世紀後半から7世紀前後頃にかけての須恵器は惣利1号窯や浦ノ原窯跡群4号窯の出土品が比較的類似する。

塚原古墳群の時期と周辺における集落遺跡の時期については、塚原古墳群から最も近い位置にある同時期の集落には、牛頭日の浦遺跡群がある。同遺跡は直線距離で東南方向350mの地点にあり、6世紀中頃から9世紀初頭まで存続している(1994 徳本編)。牛頭日の浦遺跡群のすぐ南側には古墳と集落からなる牛頭塚原遺跡群がある。古墳が築かれた時期は出土遺物から5世紀後半から6世紀中頃とあり、集落は6世紀中頃から9世紀初頭である(1995 徳本他)。集落に関しては牛頭日の浦遺跡群も牛頭塚原遺跡群もほぼ同時期である。牛頭地域における主要な集落は主に6世紀中頃以降営まれており、須恵器生産と深く関わっていると考えられる。塚原古墳群も6世紀中頃から営まれた古墳で、時期的には牛頭塚原遺跡群の古墳群に続くものである。特に牛頭塚原遺跡群では須恵器生産と関係がある「大神部」と書かれたヘラ書きの須恵器が出土しており(2008 石木編)、注目される集落でもある。位置関係や時期的にみても関係があると考えたいが、断定するほどの根拠はない。牛頭地域における集落と古墳の関係についてはすでに考察されており(2008 舟山、石川編)、指摘されているように須恵器のヘラ記号が窯、集落、古墳との関係を検討する手掛かりになると考えられるので、集落出土の須恵器のヘラ記号の検討が今後の課題である。

参考文献

- 森貴教 2017「4 善一田遺跡出土砥石の検付一付 福岡県内古墳出土砥石集成一」上田龍児編『乙金地区遺跡群23』大野城市文化財調査報告書第159集
- 林潤也 2012「4. 土製模造鏡について」上田龍児編『乙金地区遺跡群4』大野城市文化財調査報告書第100集
- 徳本洋一、舟山良一、本田光子、岸野和子、石木秀啓 1995『牛頭塚原遺跡群』大野城市文化財調査報告書第44集
- 徳本洋一編 1994『牛頭日ノ浦遺跡群』大野城市文化財調査報告書第42集
- 舟山良一、石川健編 2008「6. 集落と古墳」『牛頭窯跡群』大野城市文化財調査報告書第77集
- 石木秀啓編 2008「3. 牛頭塚原遺跡群出土のヘラ書き須恵器」『牛頭本堂遺跡群VII』大野城市文化財調査報告書第81集

土器觀察表

詳細 番号	建物 番号	名称 (出土地点)	種類	部材	法量 (㎡) ①口縁 ②縁高 ③底径 ④底内径 ⑤最大径 ⑥() は底元	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	ヘラ 記号	残存
1号墳									
第99号	1	周溝A群	直造部	柵条	①13.8 ②4.2	同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。内面天井部には当て具あり。外面の口縁部と体部の間に沈積状の成あり。口縁部に成あり。	A 焼成。砂粒を含む。 B 良好 C 外明ナズ 灰567/1～緑灰7.563/1、内ナズ 灰2.567/1		完形
第99号	2	周溝A群	直造部	柵条	①12.2 ②変径14.6 ③4.3	同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。内面底面には当て具あり。	A 焼成。砂粒を少し含む。 B 良好 C 外明ナズ 灰567/1～青灰581/1、内ナズ 灰2.567/1～6/1		完形
第99号	3	周溝A群	直造部	柵条	①13.7 ②4.2	同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。天井部内面には当て具あり。外面の口縁部と体部の間に沈積状の成あり。口縁部に成あり。	A 焼成。砂粒わずかに含む。 B 良好 C 内外青灰596/1		ほぼ完形
第99号	4	周溝A群	直造部	柵条	①11.7 ②変径14.4 ③4.6	同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。底面内面には当て具あり。	A 焼成。砂粒を少し含む。 B 良好 C 内外青灰581/1、内青灰586/1		ほぼ完形
第99号	5	周溝A群	直造部	柵条	①12.9 ②4.5	同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。天井部内面には当て具あり。外面の口縁部と体部の間に沈積状の成あり。口縁部に成あり。	A 焼成。砂粒わずかに含む。 B 良好 C 内外青灰586/1		ほぼ完形
第99号	6	周溝A群	直造部	柵条	①11.8 ②変径13.6 ③4.4	同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。底面内面には当て具あり。	A 焼成。砂粒を少し含む。 B 良好 C 内外青灰586/1		ほぼ完形
第99号	7	周溝A群	直造部	柵条	①14.0 ②4.7	同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。天井部内面には当て具あり。外面の口縁部と体部の間に沈積状の成あり。口縁部に成あり。	A 白色・灰色砂粒を多く含む。 B 良好 C 外明 青灰581/1～明青灰587/1、内青灰586/1		完形
第99号	8	周溝A群	直造部	柵条	①12.1 ②変径14.6 ③4.6	同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。底面内面には当て具あり。	A 焼成。砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外明 青灰586/1～青灰587/1、内青灰586/1		完形
第99号	9	周溝A群	直造部	柵条	①12.1 ②変径14.4 ③3.9	同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。内面底面には当て具あり。	A 白色砂粒等を少し含むが焼成。 B 良好 C 外ナズ 灰2.563/1、内ナズ 灰583/1		完形
第99号	10	周溝A群	直造部	高杯	①12.8 ②変径15.6 ③12.8 ④12.8	杯型は同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。底面内面には当て具あり。杯型は同軸ナズで、外反しなからひらがり。縦筋がやや中や内面に垂直する。	A 焼成。白色砂粒のみ。雲母片もわずかに含む。 B 良好 C 内外灰517/1		完形
第99号	11	周溝A群	直造部	高杯	①12.1 ②変径14.65 ③9.75 ④脚縁部径12.8	杯型は同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。底面内面には当て具あり。杯型は中や直線的に広がり、上方には少き目を集し、裾部から1/3上で設を有す。	A 焼成。砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外明 灰583/1、内黄583/3、内青灰596/1		ほぼ完形
第99号	12	周溝A群	直造部	高杯	①12.1 ②変径14.4 ③9.5 ④脚縁部径10.8	杯型は同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。底面内面には当て具あり。杯型は同軸ナズで、直線的に広がり。	A 焼成。白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内外灰587/1		完形
第99号	13	周溝A群	直造部	高杯	①13.2 ②変径15.7 ③10.8 ④脚縁部径12.4	杯型は同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。杯型は中や外反しなから直線的に広がり。裾部から1/3上で設を有す。	A 砂粒を少し含む。 B 中やあまりないが、焼成。 C 内外灰517/1		ほぼ完形
第99号	14	周溝A群	直造部	高杯	①12.4 ②変径15.6 ③11.1 ④12.2	杯型は同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。底面内面には当て具あり。杯型は同軸ナズで、直線的に広がり。裾部近くで垂直する。	A 焼成。白色砂粒のみ。雲母片もわずかに含む。 B 中や不貞 C 外灰517/1、内灰517/1		完形
第99号	15	周溝A群	直造部	高杯	①13.3 ②変径15.7 ③12.2 ④12.3～12.6 ⑤脚縁部径12.7	杯型は同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。杯型は同軸ナズで、中や外反しなから直線的に広がり。裾部から1/3上で設を有す。	A 焼成。砂粒を少し含む。 B 良好 C 内外明ナズ 灰586/2		ほぼ完形
第99号	16	周溝A群	直造部	高杯	①6.0 ②7.9 ③脚縁13.5	杯型の脚部を作り、側面に穴をあけて口縁部を設する。脚部の平均面径は19.9mmを有す。これと反対の面には円形に3本の孔を施し、沈積物の剥離を助す。脚部に2ヶ所、角状の突起が設けらる。	A 焼成。砂粒を含む。 B 良好 C 内外灰587/1～脚部灰583/1		有
第100号	17	周溝B群	直造部	柵条	①13.2 ②4.25	同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。口縁部に成あり。	A 白色・黄褐色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外灰517.57/1、内明青灰587/1		ほぼ完形
第100号	18	周溝B群	直造部	柵条	①13.6 ②4.1	同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。口縁部に成あり。	A 白色・黄褐色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外明 青灰586/1～青灰583/1、内青灰586/1		ほぼ完形
第100号	19	周溝B群	直造部	柵条	①13.4 ②4.4	同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。口縁部に成あり。	A 焼成。白色・黄褐色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 内外青灰586/1		完形
第100号	20	周溝B群	直造部	柵条	①12.1 ②4.35	同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。天井部内面には当て具あり。天井部外面にはつやみを有す。口縁部に成あり。	A 焼成。白色砂粒等を含む。 B 良好 C 内外青灰586/1		ほぼ完形
第100号	21	周溝B群	直造部	柵条	①11.8 ②変径14.6 ③4.15	同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。底面内面には当て具あり。	A 白色・黄褐色砂粒。石質質砂粒を多く含む。 B 良好 C 外灰587/1、内青灰586/1		ほぼ完形
第100号	22	周溝B群	直造部	柵条	①11.3 ②変径13.6 ③4.6	同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。底面内面には当て具あり。	A 白色砂粒を含む。 B 不良 C 外灰587.563/1、内緑灰57.563/1		完形

種目番号	選手番号	種別 (出土地点)	種類	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③底径 ④蓋高 ⑤最大径 ※()は推定	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	へら 記号	存在
第10図 23	周漢群	須磨郡	杯身	①11.5 ②口径13.85 ③4.35	同転ナブ後外面同転ヘラケズリ。	A 精製。砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰黒/～雑質灰黒①、内青灰黒②/		完形	
第10図 24	周漢群	須磨郡	短脚蓋	①8.9 ②8.2 ③脚部最大径13.5	同転ナブ短脚同ヘラケズリ。脚部上平にはカキ目を施す。口縁部は短く、直線的に立ち上がる。	A 白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内外青灰白②/		ほぼ完形	
第10図 25	3区周漢	須磨郡	杯蓋	①(12.5) ②3.7	同転ナブ後外面同転ヘラケズリ。	A 精製。砂粒を少し含む。 B やや不具 C 外灰黒①/～黒質②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/		口縁部①/～天井部②/、全体②/5	
第10図 26	3区周漢	須磨郡	杯蓋	①(12.8) ②(4.4)	同転ナブ後外面同転ヘラケズリ。	A 砂粒を少し含む。 B 良好 C 内外灰白①、②/③/④/		口縁部①/～天井部②/2部	
第10図 27	3区周漢	須磨郡	杯身	①11.0 ②口径12.9 ③4.7	同転ナブ後外面同転ヘラケズリ。	A 砂粒を少し含む。 B 良好 C 外灰赤①、②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/		新②/3	
第10図 28	3区周漢	須磨郡	高杯	①14.1 ②口径13.4 ③11.9 ④脚部最大径10.5	新製同転ナブ後外面同転ヘラケズリ。底部内面には当て具痕あり。脚部は同転ナブでカキ目を施し、やや外反しながら直線的に立ち上がり、脚部から口上で流れる。	A 砂粒を少し含む。 B 良好 C 外青灰②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/		口縁部 および 脚部①/②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/	
第10図 29	3区周漢	須磨郡	小壺	①11.2 ②16.4 ③脚部最大径16.2	口縁部は同転ナブ。脚部外面はカキ目を施し、底部内面は同転ヘラケズリ。底部内面に同転ナブ。底部内面には同心円当て具痕ナブ。口縁部の断面は方形で外面に段あり。	A 砂粒を少し含む。 B 良好 C 外灰黒①/②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/		ほぼ完形	
第10図 30	3区周漢	須磨郡	短脚蓋	①5.3 ②6.56 ③4.5 ④脚部最大径16.2	同転ナブ短脚同ヘラケズリ。脚部上平と最大径部に交差あり。口縁部は短く、直線的に立ち上がる。	A 白色黒砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰黒①/②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/		口縁部①/～天井部②/	
第10図 31	3区周漢	須磨郡	壺	①15.8 ②14.4 ③12.5 ④脚部最大径9.3	口縁部は同転ナブで、口縁～脚部外面に波状文を施す。口縁部から口下平に流れる。脚部～底部は同転ナブで、底部外面は同転ヘラケズリ。脚部の上平と最大径部に交差あり。この交差部に刺突文を施す。口縁部は最大径である。	A 精製。灰白色砂粒を少し含む。 B 良好 C 外灰黒①/②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/		下部部存在	
第10図 32	3区周漢	須磨郡	平底	①6.9 ②16.9 ③脚部最大径21.0	口縁部は同転ナブ。脚部外面はカキ目。底部はナブである。脚部上面に円形の蓋をして整理。口縁部を削り付けている。	A 砂粒を多く含む。 B 良好 C 外灰黒①/②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/		ほぼ完形	
第11図 33	3区周漢	須磨郡	大壺	①31.8 ②69.4 ③脚部最大径56.3	口縁部は同転ナブで、口縁部外面の上位に1本の波線、中位に2本の波線を有し、この間に斜線文を施す。脚部～底部外面は平行タキ目。内面は同心円当て具痕あり。脚部上平に最大径がある。	A 砂粒をわずかに含む。 B 彫り良好。 C 内外灰黒①/②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/		ほぼ完形	
第11図 34	3区周漢	須磨郡	甕	①16.6 ②25.8 ③脚部最大径24.2	口縁部は同転ナブ。口縁部下面に段あり。脚部から底部外面は平行タキ目。脚部上平は平行タキ目後カキ目を施す。脚部内面は上平が同心円。下平から底部は平行タキ目の当て具痕あり。	A 砂粒をわずかに含む。 B 彫り良好。 C 内外青灰①/②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/		口縁部①/5、 体部①/4	
第11図 35	3区周漢	須磨郡	甕	①12.6 ②21.4 ③脚部最大径21.5	口縁部は同転ナブで、口縁部外面下に突条あり。脚部上平は内面と斜線ナブ。外面の脚部近くにはわずかに刺目あり。脚部下平～底部外面は平行タキ目。内面は同心円当て具痕あり。	A 砂粒を含む。 B 彫り良好。 C 外灰黒/～灰①/②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/		ほぼ完形	
第11図 36	3区周漢	須磨郡	短瓶	①7.5 ②(14.8) ③瓶長26.2 ④脚部最大径21.5	口縁部は同転ナブ後、カキ目を施す。脚部外面は同転ナブ後全体にカキ目を施す。脚部上面には円形の粘土板を貼り付けた痕跡がある。	A 砂粒を含む。 B 彫り普通。 C 外灰黒/～黒①/②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/		胴部①/②～ 天井部①/②	
第11図 37	3区周漢	須磨郡	小壺	①3.8 ②4.55 ③脚部最大径5.5	短脚蓋の小壺型。同転ナブ後底部外面ヘラケズリ。	A 砂粒を含む。 B 彫り普通。 C 内外黒①/②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/		完形	
第11図 38	3区周漢	須磨郡	杯身	①(11.8) ②口径(13.35) ③4.15	同転ナブ後外面同転ヘラケズリ。	A 白色砂粒・黒砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外灰黒①/②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/		有 2/3	
第12図 39	3区周漢	須磨郡	杯蓋	①14.2 ②4.7	同転ナブ後外面同転ヘラケズリ。内面天井部には当て具痕あり。外面の口縁部と体部の境にゆるい波線状の段あり。口縁部段に段あり。	A 白色黒砂粒をわずかに含むが精製。 B 良好 C 内外青灰②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/		2/3	
第12図 40	3区周漢	須磨郡	杯蓋	①14.3 ②3.95	同転ナブ短脚同ヘラケズリ。内面天井部には当て具痕あり。口縁部段に段あり。	A 精製。白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内外青灰②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/		2/3	
第12図 41	3区周漢	須磨郡	杯蓋	①(13.4) ②4.15	同転ナブ後外面同転ヘラケズリ。	A 精製。脚部ほとんどが滑り。滑り。 B 良好 C 内外灰黒①/②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/		有 1/3	
第12図 42	3区周漢	須磨郡	杯蓋	①12.9 ②3.0	同転ナブ後外面同転ヘラケズリ。	A 砂粒をわずかに含むが精製。 B やや不具 C 外灰黒①/～灰白②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/		3/4	
第12図 43	3区周漢	須磨郡	杯蓋	①(12.9)	同転ナブ後外面同転ヘラケズリ。	A 砂粒を多く含む。 B やや不具 C 内外灰②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/		口縁部①/②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/	
第12図 44	3区周漢	須磨郡	杯蓋	①(13.2)	同転ナブ。	A 砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰①/②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/		口縁部①/②/③/④/⑤/⑥/⑦/⑧/⑨/⑩/⑪/⑫/⑬/⑭/⑮/⑯/⑰/⑱/⑲/⑳/㉑/㉒/㉓/㉔/㉕/㉖/㉗/㉘/㉙/㉚/㉛/㉜/㉝/㉞/㉟/㊱/㊲/㊳/㊴/㊵/㊶/㊷/㊸/㊹/㊺/㊻/㊼/㊽/㊾/㊿/	

様式 番号	遺構 (出土地点)	種類	部材	法量 (m) ①口縁径 ②底径 ③高径 ④最大径 ⑤() は厚み	形態・技法	A : 胎土 B : 焼成 C : 色調	へら 番号	残存
第1200 45	3区周溝	須恵器	杯蓋	①(13.8)	回転ナデ。	A 灰白色胎土わずかに含むが精製。 B やや不貞 C 内外灰白107/1～灰1076/		約1/2割
第1200 46	3区周溝	須恵器	杯蓋	①(12.6)	回転ナデ。外面の口縁部と体部の間にゆるい 沈積状の殻あり。口縁部には殻あり。	A 精製。灰色。灰白色砂粒をわずかに 含む。 B 良好 C 内外灰35/		口縁部片
第1200 47	3区周溝	須恵器	杯蓋	①(13.9)	回転ナデ。外面の口縁部と体部の間にゆるい 沈積状の殻あり。体部外面に刺突文を施す。	A 砂粒をわずかに含む。 B 不貞 C 内外灰35/		口縁部1/4
第1200 48	3区周溝	須恵器	杯蓋		回転ナデ。外面の口縁部と体部の間にゆるい 沈積状の殻あり。口縁部には殻あり。	A 砂粒を含まず精製。 B 良好 C 内外灰35/		口縁部片
第1200 49	3区周溝	須恵器	杯身	①12.9 受部径13.9 ②3.9	回転ナデ後外面研削ヘラケズリ。	A 灰白、乳灰色砂粒を含むが精製。 B 不貞 C 外に灰白(赤褐色)35/、内径306/6	有	ほぼ完整
第1200 50	3区周溝	須恵器	杯身	①16.9 受部径12.9 ②3.55 ③3.5	回転ナデ後外面研削ヘラケズリ。	A 精製。砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外 胎土1076/1～ 胎土2/、内 灰 白1/	有	ほぼ完整
第1200 51	3区周溝	須恵器	杯身	①(11.4) 受部径(13.6) ②3.6	回転ナデ後外面研削ヘラケズリ。	A 胎粒ほとんど含まず精製。 B 良好 C 内外1075/1～灰35/、内灰1075/1	有	蓋部1/2
第1200 52	3区周溝	須恵器	杯身	①(11.0) 受部径(13.1) ②3.55	回転ナデ後外面研削ヘラケズリ。	A 砂粒を含むが、精製。 B 良好 C 外青黒382/1、内灰7, 316/1	有	1/4
第1200 53	3区周溝	須恵器	杯身	①12.3 受部径14.3 ②3.45	回転ナデ後外面研削ヘラケズリ。	A 砂粒をわずかに含むが精製。 B 良好 C 内外灰32/～2, 317/1、内灰35/	有	2/3
第1200 54	3区周溝	須恵器	杯身	①(12.55) 受部径(14.1)	回転ナデ後外面研削ヘラケズリ。	A 砂粒をわずかに含む。 B 貞 C 内外青灰315/3		2/3
第1200 55	3区周溝	須恵器	杯身	①11.3 受部径13.9 ②3.1 ③3.7	回転ナデ後外面研削ヘラケズリ。	A 精製。砂粒含まない。 B 良好 C 内外白317/1、内径灰32/～灰35/		ほぼ完整
第1200 56	3区周溝	須恵器	杯身	①(12.7) 受部径14.6 ②4.2	回転ナデ。	A 砂粒を含むが精製。 B 良好 C 内外オリーブ316/2、内径316/1		1/2
第1200 57	3区周溝	須恵器	杯身	①(11.1) 受部径(13.4)	回転ナデ。	A わずかに砂粒を含むが精製。 B やや不貞 C 内外青灰315/1		口縁部1/6
第1200 58	3区周溝	須恵器	杯身	①(11.9) 受部径(14.6)	回転ナデ。	A 砂粒含まない。 B 良好 C 内外灰白317/1～灰35/		口縁部片
第1200 59	3区周溝	須恵器	杯身	①(11.0) 受部径(13.4)	回転ナデ。	A 砂粒含まない。 B 良好 C 内外青灰316/1		口縁部1/6
第1200 60	3区周溝	須恵器	杯身	①(11.9) 受部径(14.6)	回転ナデ。	A わずかに砂粒はあまり含まず精製。 B やや不貞 C 内外青灰316/1		口縁部1/2
第1200 61	3区周溝	須恵器	杯身	①(11.5) 受部径(14.4)	回転ナデ。	A わずかに砂粒はあまり含まず精製。 B やや不貞 C 内外灰315/5(1～増青灰316/1、内 増青灰316/1)		口縁部1/6
第1200 62	3区周溝	須恵器	杯身	①受部径(13.4)	回転ナデ。	A 精製。砂粒をわずかに含む。 B 貞 C 内外灰316/		受部片
第1200 63	3区周溝	須恵器	高杯	①(11.3) ②脚部径9(9.2)	口縁部は回転ナデ、口縁部と体部の間に2条、 体部と底部の間に1条沈積あり。体部外面に は刺突文。底面外面には方角目を施す。脚部 は回転ナデ後外面は方角目。3方向に1径透 孔があるが、孔の上1/3は切り込みのみ。	A 砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外灰315/～36/、内径316/		1/2
第1200 64	3区周溝	須恵器	高杯	①(11.35) ②11.1 ③脚部径9(9.2)	口縁部は回転ナデ、口縁部と体部の間に2条、 体部と底部の間に1条沈積あり。体部外面に は刺突文。底面外面には方角目を施す。脚部 は回転ナデ後外面は方角目。3方向に1径透 孔がある。脚部部の脚厚は薄く、外反する。	A 砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外増 青灰316/1～胎土1076/1、内 増青灰316/1		1/2
第1200 65	3区周溝	須恵器	高杯	①(10.8)	口縁部は回転ナデ、口縁部と体部の間に及 体部と底部の間に1条突帯あり。体部外面に は刺突文を施す。	A 砂粒を含まず精製され良好。 B 良好 C 外黒32/～灰白7, 317/2、内黒32/		口縁部1/6
第1200 66	3区周溝	須恵器	高杯	②脚部径9(9.6)	回転ナデ。脚部端部は中央が突出している。	A 砂粒を含まず精製。 B 良好 C 内外灰白7, 317/2、黒32/		脚部部片
第1200 67	3区周溝	須恵器	高杯	①(11.6)	回転ナデ。体部に3条のゆるい沈積あり。	A 精製。砂粒含まない。 B 良好 C 内外灰315/～灰白7, 317/1		口縁部片
第1200 68	3区周溝	須恵器	短脚蓋	①36.4 ②2.8 ③脚部最大径11.7	回転ナデ後回転ヘラケズリ。脚部下平～底面 内面には同心円の凸帯を具あり。脚部上平に 最大径の同心円を施す。沈積を施す。口縁部は 平く、直線的に立ち上がる。外面には自然物 が付着する。	A 精製。わずかに砂粒を含む。 B やや不貞 C 外オリーブ黒352/1～灰白317/1、 内灰36/		口縁部1/2、 体部9/16

棟号	建物 番号	用途 (出土地)	種類	設備	法業 (㎡) ①の柱 ②部高 ③建柱 ④所有部 ⑤最大柱 ⑥()は覆装	形態・様式	A: 軸土 B: 境成 C: 色調	へら 番号	残存
第130	69	3区周溝	築地部	短冊造	①18.6 ②7.1 ③3.4 ④欄間最大径12.5	回転ナブ後外面回転ヘラケズリ。口縁部は短く、直線的に立ち上る。	A 白色・白灰色系高麗砂を含む。 B 良好 C 外周黄灰96/1～黄灰96/2、内周黄灰96/1		ほぼ完形
第130	70	3区周溝	築地部	造	①(10.6)	回転ナブ。	A わずかに砂粒を含む。 B 良く良好。 C 外周黄灰96/1、内灰オリーブ516/2		口縁部1/4
第130	71	3区周溝	築地部	造	①(15.0)	回転ナブ。口縁部外面に小突帯あり。	A わずかに砂粒を含む。 B 良く良好。 C 内外灰93/1～灰93/1		口縁部の一部
第130	72	3区周溝	築地部	造	①(16.0)	回転ナブ。口縁部外面に小突帯あり。欄間は方目を施す。	A 砂粒を含む。 B 欄間で悪い。 C 内外灰93/1		口縁部の一部
第130	73	3区周溝	築地部	造	①(23.0)	口縁部は回転ナブ。欄間外面は平行タタキ目。内面は同心円目にて具帯あり。	A 砂粒を含む。 B 欄間95/1～増黄灰93/1、内周黄灰93/1		口縁部1/6
第130	74	3区周溝	築地部	造		欄間内面は回転ナブ。欄間外面は面状文を施す。	A 砂粒をわずかに含む。 B 欄間で悪い。 C 内外灰93/1		口縁部片
第130	75	3区周溝	築地部	造	④欄間最大径16.15	回転ナブ後外面回転ヘラケズリ。欄間上半に2条、最大欄間の小や下に1条沈溝を施し、この間に横装文あり。	A 灰色系砂粒を少し含む。 B 欄間で悪い。 C 外周灰93/1、内周灰95/1		欄間1/3 ～底辺
第130	76	3区周溝	築地部	横板	②(欄間部高)(11.7) 欄間径(4.0) 欄間径(5.1)	欄間外面は全体的にやき目を施す。欄間の片方の横装文には内側の柱上段で裏をした横装あり。欄間に肥字が付かない。	A 横装。砂粒を含む。 B 良好 C 外灰93/1～黄灰93/1～黄灰2.515/1、内灰93/1		約3/5
第130	77	3区周溝	築地部	短冊		欄間の平外面は回転ヘラケズリ。内面はナブと短冊目風がある。欄間の建柱部内面は回転ナブ。外面には方目を施す。欄間に角装の肥字が付く。	A 灰色系砂粒を含むが横装。 B 良好 C 外周灰93/1、内周黄灰93/1		欄間1/3 ～底辺
第140	78	高道土層	築地部	杯蓋	①12.2 ②3.9	回転ナブ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰93/1～灰93/1、内灰96/1		有 ほぼ完形
第140	79	高道土層	築地部	杯蓋	①13.4 ②3.4	回転ナブ後外面回転ヘラケズリ。	A 横装をわずかに含むが横装。 B やや不良 C 外周黄灰92/1～灰96/1、内周灰95/1		有 ほぼ完形
第140	80	高道土層	築地部	杯蓋	①(13.0) ②3.7	回転ナブ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒を含むが、横装である。 B 不良 C 内外黄灰95/1		有 1/2
第140	81	高道土層	築地部	杯蓋	①(13.2)	回転ナブ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒含まず横装。 B 良好 C 内外黄灰95/1		口縁部1/8
第140	82	高道土層	築地部	杯蓋	①(13.0)	回転ナブ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒含まず横装。 B 不良 C 内外黄灰95/1		有 1/6
第140	83	高道土層	築地部	杯蓋		回転ナブ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒あまり含まず良好。 B 不良 C 内外にぶい黄灰1018/1		有 底辺1/2
第140	84	高道土層	築地部	杯身	①11.1 受部径12.7 ②4.1	回転ナブ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒あまり含まず横装。 B やや不良 C 外オリーブ灰93/2、内灰93/1		有 ほぼ完形
第140	85	高道土層	築地部	杯身	①(10.7) 受部径(12.4) ②3.4	回転ナブ後外面回転ヘラケズリ。	A 砂粒をほとんど含まず横装。 B 不良 C 内外にぶい黄灰1018/1		有 1/5
第140	86	高道土層	築地部	杯身	①(11.8) 受部径(14.0) ②(5.55)	回転ナブ後外面回転ヘラケズリ。	A 横装。灰白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰(7.515/1)、内灰96/1		有 約1/2
第140	87	高道土層	築地部	杯身	①(10.3) 受部径(12.2)	回転ナブ。	A 横装。白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外黄灰95/1		1/4
第140	88	高道土層	築地部	杯身	①(10.8) 受部径(13.0) ②3.35	回転ナブ後外面回転ヘラケズリ。	A 横装。わずかに黒砂粒を含む。 B 良好 C 外周黄灰94/1、内周黄灰95/1		有 1/4
第140	89	高道土層	築地部	杯身	①(12.8) 受部径(15.4) ②4.45	回転ナブ後外面回転ヘラケズリ。底辺内面には当て具帯あり。口縁部面に幾あり。	A 横装。白色・灰白色砂粒を多く含む。 B やや不良 C 外黄灰2.516/1、内周黄灰96/1		1/4
第140	90	高道土層	築地部	杯身	①(12.0) 受部径(13.8)	回転ナブ。口縁部に幾あり。	A 砂粒含まず横装。 B やや不良 C 内外黄灰95/1		口縁部1/4
第140	91	高道土層	築地部	杯身	①(11.7) 受部径(13.0)	回転ナブ。	A 横装。砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外黄灰95/1		1/8
第140	92	高道土層	築地部	造	①(11.2) 欄間径(7.9) ②20.4 ④欄間最大径22.75	口縁部は回転ナブ。口縁部外面に突帯あり。欄間～底辺内面は回転ナブ。欄間上半にはやき目を施す。欄間下半～底辺は回転ヘラケズリ後、底辺と欄間の境に平行タタキ目あり。	A 砂粒ほとんど含まず横装。 B 良好 C 外黄灰2.513/1～灰白2.517/1、内黄灰2.513/1～灰93/1		有 3/4
第140	93	高道土層	築地部	小造	①4.5 欄間径4.1 ②6.5 ④4.8 ④欄間最大径7.9	回転ナブ後底辺外面は回転ヘラケズリ。欄間上半に沈溝を3条施す。	A 白色系砂粒を含むが横装。 B 良好 C 外灰白97/1～増灰93/1、内灰96/1		有 ほぼ完形

様式 番号	遺構 (出土地点)	種類	跡形	法量 (m) ①口径 ②壁厚 ③底径 ④最大径 ⑤最大径 差 () は覆元	形態・技法	A：粘土 B：焼成 C：色調	へら 番号	残存
第1500 94	基壇上層	須恵器	礎	①(10.8)	同転ナデ。	A 粘粒を含まない。 B 良好 C 外径青灰507/1、内径532/		1/4
第1500 95	基壇	須恵器	杯蓋	①(12.5) ②(3.1)	同転ナデ。外面の口縁部と体部の間に沈着状の跡あり。	A 焼成。黒砂粒を多く含む。 B 良好 C 内外径532/		口縁部1/8
第1500 96	基壇	須恵器	杯身	①(12.0) 受部径(14.8) ②(2.95)	同転ナデ後外面はヘラケズリ。	A 焼成。砂粒を含む。 B 良好 C 内外径532/		1/8
第1500 97	基壇	須恵器	陶	①(13.4) ②(8.2)	同転ナデ後外面は胴部下～底部はヘラケズリ。	A 砂粒を含むが焼成。 B やや不貞 C 赤灰506/～灰白517/、内径506/		ほぼ完形
第1500 98	基壇	須恵器	大甕	①(45.3) ②(15.8)	同転ナデ。底部を沈着と変形と3段に区分した上位2段に斜線を施す。	A 焼成。砂粒を多く含む。 B 良好 C 外径532/、内径白517/2へオローブ黒色3/2		口縁部1/5
第1500 99	基壇	須恵器	杯蓋	①(14.1) ②(4.75)	同転ナデ後外面はヘラケズリ。底部内面には当て具あり。外面の口縁部と体部の間に沈着状の跡あり。口縁部内面に沈着あり。	A 焼成。白色砂粒・黒砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外オリーブ2.502/1		2/3
第1500 100	基壇	須恵器	杯蓋	①(13.2) ②(4.4)	同転ナデ後外面はヘラケズリ。底部内面には当て具あり。外面の口縁部と体部の間に沈着状の跡あり。口縁部内面に沈着あり。	A 焼成。砂粒を多く含む。 B 良好 C 内外径506/		ほぼ完形
第1500 101	基壇	須恵器	杯蓋	①(12.45) ②(5.3) ツマミ径3.3	同転ナデ後外面は口縁部を金目。口縁部と体部の間に沈着あり。天井部につまみあり。	A 白色・灰白色質砂粒をわずかに含むが焼成。 B 良好 C 赤灰532/～537/、内径5306/		1/2
第1500 102	基壇	須恵器	高杯	①(11.0) 受部径12.35	同転ナデ後同転ヘラケズリ。底部内面に当て具あり。	A 焼成。砂粒を含むが焼成。 B 良好 C 内外径7.516/1		杯蓋のみ 完形
第1500 103	基壇	須恵器	杯身	①(12.2) 受部径14.6 ②(4.3)	同転ナデ後同転ヘラケズリ。底部内面に当て具あり。	A 焼成。黒砂粒を含む。 B 良好 C 赤灰506/、内オリーブ506/6/1		完形
第1500 104	基壇	須恵器	杯身	①(11.7) 受部径(14.2) ②(3.7)	同転ナデ後同転ヘラケズリ。底部内面に当て具あり。	A 砂粒等を含まず焼成。 B 良好 C 赤灰506/、内径白517/		1/3
第1500 105	基壇	須恵器	杯身	①(9.0) 受部径(11.3)	同転ナデ。	A 砂粒等を含まない。 B 良好 C 内外径515/1		口縁部1/8
第1500 106	基壇	須恵器	甕	①(24.8)	口縁部は同転ナデ。胴部外面は平行タタキ目。内面は同心円当て具あり。	A 白砂粒を含む。 B やや不貞 C 赤灰507/2～灰506/1、内径白517/1～灰506/1		口縁部1/3～ 胴部1/2
第1500 107	基壇	須恵器	甕		胴部下～底部外面は平行タタキ目。内面は同心円当て具あり。	A 砂粒を含まず焼成。 B 良好 C 赤灰507/～灰白517/2～底部には赤い層2.516/3、内径505/1		底部片
第1500 108	基壇	須恵器	杯身	①(11.1) 受部径13.5 ②(2.6)	同転ナデ後外面はヘラケズリ。	A 黒砂粒をわずかに含むが焼成。 B 良好 C 外径532/、内径515/1		有 1/2
第1500 109	基壇	須恵器	罐	①(4.4) ②(最大径)4.6	同転ナデ後底部外面は同転ヘラケズリ。穿孔の上下に沈着あり。	A 黒砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外青灰505/1		有 体部 ほぼ完形
第1500 110	基壇	須恵器	短甕	①(3.8) ②(2.2) ③(最大径)4.5	同転ナデ後底部～胴部下外面はヘラケズリ。胴部最大径部に2条沈着あり。	A 黒砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外径532/		3/4
第1500 111	基壇	須恵器	杯蓋	①(13.4) ②(4.25)	同転ナデ後外面は同転ヘラケズリ。	A 砂粒をわずかに含むが焼成。 B 不良 C 内外径2.518/3		有 ほぼ完形
第1500 112	基壇	須恵器	杯蓋	①(12.5) ②(2.6)	同転ナデ後外面は同転ヘラケズリ。	A 白色砂粒を含むが焼成。 B やや不貞 C 赤い土515/506/1～沈着層2.5128/8、内に赤い層7.5107/4		有 3/4
第1500 113	基壇	須恵器	杯蓋	①(13.5) ②(4.3)	同転ナデ後外面は同転ヘラケズリ。	A 赤粒を含むが焼成。 B やや不貞 C 内外に赤い黄層5107/4		有 ほぼ完形
第1500 114	基壇	須恵器	杯蓋	①(13.0) ②(4.45)	同転ナデ後外面は同転ヘラケズリ。	A 砂粒を含まず焼成。 B 不良 C 内外径2.518/3、内径2.517/4		有 ほぼ完形
第1600 115	基壇	須恵器	杯身	①(12.1) 受部径13.75 ②(3.5)	同転ナデ後外面は同転ヘラケズリ。	A 焼成。白色砂粒を含む。 B 不良 C 赤い土515/506/1～赤層2.5185/4、内に赤い層7.5107/4		有 底部～ 口縁部3/4
第1600 117	基壇	須恵器	杯身	①(11.5) 受部径13.9 ②(4.0)	同転ナデ後外面は同転ヘラケズリ。	A 砂粒をわずかに含む。 B 黒く焼成。 C 赤オリーブ2.5026/1～2部増量灰506/1、内増量506/4/1		有 完形
第1600 118	基壇	須恵器	杯身	①(11.1) 受部径13.5 ②(4.2)	同転ナデ後外面は同転ヘラケズリ。	A 焼成。灰白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外青灰506/1		有 完形
第1600 119	基壇	須恵器	杯身	①(12.8) 受部径14.8 ②(3.85)	同転ナデ後外面は同転ヘラケズリ。	A 焼成。砂粒をわずかに含む。 B 不良 C 内外明黄2.517/6		有 ほぼ完形

詳細 番号	遺物 番号	遺構 (出土地点)	種類	部類	法量 (m) ①口径 ②部高 ③底径 (④溝有無 ⑤最大径 等 () は覆元)	形態・技法	A: 胎土 B: 焼成 C: 色調	へら 記号	残存
第160図	116	墓道	築造部	杯身	①11.6 ②受皿径13.65 ③4.45	回転ナブ後外面は回転ヘラケズリ。	A 白色砂粒を含む精練。 B 良好 C 外に白い赤褐色35%、内に35%程度 50%程度	有	1/2
第160図	120	墓道	築造部	杯蓋	①13.0 ②4.45	回転ナブ後外面は回転ヘラケズリ。	A 精練。白色砂粒・黒砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外黒褐色2.50%/、内灰35%	有	完形
第160図	121	墓道	築造部	杯身	①11.7 ②受皿径13.8 ③4.1	回転ナブ後外面は回転ヘラケズリ。	A 精練。白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰36%→埋戻し3%、内灰2.50%	有	完形
第170図	122	前部竈	築造部	杯蓋	①(12.4) ②3.35	回転ナブ後外面は回転ヘラケズリ。	A 黒色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰黄2.50%/→黄2.50%/、内灰黄30%/	有	口縁部1/4、 天井部
第170図	123	前部竈	築造部	蓋	①(8.5) ②2.4	回転ナブ後外面は回転ヘラケズリ。	A 灰色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外埋戻し3%、内黄埋戻し1%	有	口縁部2/3
第170図	124	前部竈	築造部	蓋	①7.3 ②2.65	回転ナブ後外面は回転ヘラケズリ。	A 精練。砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外黄埋戻し3%、内黄埋戻し5%	有	完形
第170図	125	前部竈	築造部	杯身	①12.3 ②受皿径14.3 ③3.85	回転ナブ後外面はヘラケズリ。	A 精練。砂粒をわずかに含む。 B やや不良 C 外黄埋戻し6%、内黄埋戻し 7/1	有	5/6
第170図	126	前部竈	築造部	杯身	①(19.4) ②受皿径(13.15)	回転ナブ。	A 砂粒等を含む。 B 良好 C 外黄埋戻し5%→黄埋戻し3%、内黄埋戻し5%	有	口縁部2/3
第170図	127	前部竈	築造部	小皿	①(6.3) ②脚径(4.55) ③(6.5) ④脚部最大径(6.8)	回転ナブ後脚部下半→底面外面はヘラケズリ。 脚部上半外面はカキ目を施す。底面内面に衝面あり。口縁部は短く外反する。	A 精練。黒砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外埋戻し黄30%/→黄灰2.50%/、内埋戻し黄30%/	有	口縁部1/6、 体部3/4
第170図	128	墳丘上層	築造部	杯蓋	①(13.4) ②4.4	回転ナブ後外面は回転ヘラケズリ。	A 砂粒を含まない。 B 不良 C 内外黄褐色100%/	有	3/5
第170図	129	墳丘上層	築造部	杯蓋	①(13.3) ②4.2	回転ナブ後外面は回転ヘラケズリ。	A 砂粒を含まず精練。 B やや不良 C 外黒褐色2.50%/、内灰黄2.50%/2	有	口縁部2/3
第170図	130	墳丘上層	築造部	杯蓋	①12.6 ②4.6	回転ナブ後外面は回転ヘラケズリ。	A 砂粒を含まず精練。 B 不良 C 外に白い黄褐色100%/→灰黄褐色100%/、内に35%黄褐色100%/	有	口縁部2/3
第170図	131	墳丘上層	築造部	杯蓋	①(13.5)	回転ナブ後外面は回転ヘラケズリ。	A 白色・灰白色砂粒を含む。 B 良好 C 外埋戻し30%/、内黄埋戻し3%	有	口縁部3/4
第170図	132	墳丘上層	築造部	杯蓋	①13.2	回転ナブ。	A 砂粒あまり含まず精練。 B 良好 C 外埋戻し30%/、内灰35%	有	口縁部2/3
第170図	133	墳丘上層	築造部	杯身	①(11.4) ②受皿径(13.3)	回転ナブ。	A 精練。灰白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外埋戻し3%、内灰3%	有	口縁部2/3
第170図	134	墳丘上層	築造部	蓋部	③脚部径(10.2)	回転ナブ。脚部に段あり。	A 砂粒あまり含まず精練。 B 良好 C 外黒褐色100%/、内埋戻し100%/1	有	脚部部2/3
第170図	135	墳丘表土	築造部	小皿	①3.4 ②4.3 ③脚部最大径5.8	回転ナブ後、脚部下半→底面外面は回転ヘラケズリ。	A 精練。砂粒等ほとんど含まない。 B 良好 C 外黒褐色3%、内埋戻し3%	有	完形
第170図	136	墳丘上層	築造部	小皿	③脚部最大径(11.45)	回転ナブ後脚部下半→底面外面は回転ヘラケズリ。 脚部上半外面はカキ目を施す。脚部最大径に2余2線あり。	A 砂粒を含まない。 B 良好 C 外灰白.50%/→灰3.4%→黒3%、内灰白.50%→灰2.50%/	有	脚部→底面 1/3
第170図	137	墳丘上層	築造部	壺	①(25.2) ②脚径(19.2) ③(16.5)	口部部2の回転ナブ。脚部外面は平行タタキ目後にカキ目を施す。脚部内面は同心円の当て具あり。	A 精練。黒砂粒を含む。 B やや不良 C 内外灰30%	有	脚部部
第170図	138	墳丘上層	築造部	大甕	①(26.2) ②脚径(28.4)	口部部2の回転ナブ。脚部外面は平行タタキ目、内面は同心円の当て具あり。	A 黒灰色砂粒を含む。 B 良好 C 外灰白.50%/、内黄埋戻し2.50%/1	有	口縁部片
第180図	139	1区墳部	築造部	杯蓋	①(14.4) ②4.0	回転ナブ後外面は回転ヘラケズリ。口縁部と体部の境に2余2線あり。	A 精練。白色砂粒多量を含む。 B やや不良 C 外埋戻し30%/、内黄埋戻し5%	有	2/3
第180図	140	2区墳部	築造部	杯身	①(12.4) ②受皿径14.2 ③4.2	回転ナブ後外面は回転ヘラケズリ。	A おおむね白色砂粒を含む。 B 良好 C 外黒3%、内灰白.50%/1→埋戻し3%	有	口縁部2/4
第180図	141	3区墳部	築造部	壺	①(24.4)	回転ナブ。	A 灰色砂粒等を含む。 B 良好 C 外灰30%、内黄埋戻し.50%/1→黄3%/	有	口縁部3/7
第180図	142	3区墳部	築造部	蓋口壺	①(8.3) ②脚径(7.9)	回転ナブ後、口部外面はカキ目を施す。口縁部は直行である。	A 黒砂粒等をほとんど含まず精練。 B やや不良 C 外埋戻し30%/、内灰30%/1	有	口縁部2/2
第180図	143	2区墳部	築造部	大甕		回転ナブ。脚部を注線と実線で3段に区分した上段2段に刻線文を施す。	A 黒色砂粒・黒砂粒を含む。 B やや不良 C 外灰黄2.50%/2、内埋戻し3%	有	口縁部片

詳細番号	遺構 (出土地点)	種類	形状	法量 (m) ①口径 ②壁厚 ③底径 ④底内径 ⑤最大径 ⑥()は既元	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	へら 番号	残存
第180図 144	2区墳頂	須恵器	大甕	①21.1 ⑤燻加最大径 (11.9)	口縁部は砂粘ナデ、口縁部内面に1条突起がある。腹部外面は1行1タタキ目地、9年目を施す。内面は同心円状で片敷あり。	A 胎地等を含むが、焼にしては少量、良好 B 良好 C 外灰5%、内灰5%～燻灰3%		1/3
第180図 145	1・2号墳 間ベルト外 溝下部	須恵器	杯蓋	①(12.5)	同輪ナデ後外面は同輪ヘラケズリ。	A 胎地をわずかに含む。 B 良好 C 内外雜青灰5%以下		口縁部1/3
第180図 146	1・2号墳 間ベルト外溝 墳頂上土中	須恵器	蓋	①7.0 ②3.3	同輪ナデ後外面は同輪ヘラケズリ。	A 二つわずかに胎地を含む。 B 良好 C 外灰5%、内雜青灰5%以下	有	完形
第180図 147	1・2号墳 間ベルト外 溝下部	須恵器	小甕	①13.7 ②4.0 ⑤燻加最大径7.2	同輪ナデ後、腹部下平一底部は同輪ヘラケズリ。口縁部は短く立ち上がる。	A 白・灰色胎地を含む。 B 良好 C 外灰5%、内雜青灰5%以下	有	ほぼ完形
第180図 148	1・2号墳 東斜面	土師器	高杯			A 黒色砂粘(角閃石小)・灰白色石英砂粘をわずかに含む。 B 良 C 内外雜30%以下		脚部1/3
第180図 149	周溝一 部遺存付近	須恵器	杯蓋	①13.6 ②3.6	同輪ナデ後外面は同輪ヘラケズリ。	A 胎地等含まず精製。 B やや不良 C 外雜 青灰5%以下～灰5%以下/内灰5%以下	有	2/3
第180図 150	蓋版穴	須恵器	杯蓋	①(14.2)	同輪ナデ後外面は同輪ヘラケズリ。口縁部と体部外縁に片敷あり。口縁部部に既あり。	A 精製。胎地をわずかに含む。 B やや不良 C 内外雜青灰5%以下		口縁部1/8
第180図 151	蓋版穴	須恵器	杯身	①(12.2) ②交部径(14.5) ③4.2	同輪ナデ後外面は同輪ヘラケズリ。	A 精製。胎地をわずかに含む。 B 良好 C 外雜青灰5%以下、内雜青灰5%以下	有	口縁部1/9・ 全体1/12
2号墳								
第210図 1	古室	須恵器	円蓋	①(11.15)	同輪ナデ。	A 胎地を含まず精製。 B 良好 C 内外雜灰50%以下		口縁部1/7
第210図 2	3区周溝	須恵器	脚付筒	①(13.8) ⑤燻加最大径(15.3) 脚部加径5.8	輪縁部は同輪ナデ後、底部外面は同輪ヘラケズリ。胎地を含まず。全体部には2本の瓦筋が2箇所にある。脚部は同輪ナデである。	A 胎地を含まず精製。 B 良好 C 外雜 青灰5%以下～灰5%以下、内雜青灰5%以下～灰5%以下	有	1/3
第210図 3	墓道A群	須恵器	杯蓋	①(18.8) 交部径11.2	同輪ナデ後天井部外面同輪ヘラケズリ。	A 白色胎地をわずかに含むが精製。 B 良好 C 外灰5%、内灰5%以下		1/4
第210図 4	墓道B群	須恵器	杯蓋	①13.6 ②3.4	同輪ナデ後天井部外面同輪ヘラケズリ。	A 白・灰色胎地をわずかに含むが精製。 B 良好 C 外雜 灰3%～燻灰10%以下～青灰5%以下、内赤2.2、30%以下	有	ほぼ完形
第210図 5	墓道B群	須恵器	杯蓋	①(13.6)	同輪ナデ後天井部外面同輪ヘラケズリ。	A 灰色胎地をわずかに含むが精製。 B 良好 C 外雜 青灰5%以下、内雜青灰5%以下	有	1/2
第210図 6	墓道B群	須恵器	杯蓋	①9.1 交部径10.15 ②3.45	同輪ナデ後天井部外面同輪ヘラケズリ。	A 灰色胎地をわずかに含むが精製。 B 良好 C 外灰5%～燻灰3%、内灰5%以下～雜青灰5%以下	有	ほぼ完形
第210図 7	墓道B群	須恵器	高杯	①9.8 ②2.4 ⑤燻加最大径7.4	つまみを有する蓋で、同輪ナデ後底部外面同輪ヘラケズリ。	A 白胎・白色胎地を多く含む。 B 良好 C 内外雜灰5%以下～灰5%以下		ほぼ完形
第210図 8	墓道B群	須恵器	杯身	①11.0 交部径12.0 ②3.7	杯部は同輪ナデ後外面同輪ヘラケズリ。底部内面はナデ。脚部は同輪ナデで、直線的に底がり、腹部近くで彎曲する。	A 灰色胎地をわずかに含むが精製。 B 良好 C 外雜 青灰5%以下～灰3%、内灰5%以下	有	3/4
第210図 9	墓道B群	須恵器	平蓋	①5.5 ②4.25 ③4.5 ⑤燻加最大径16.3	同輪ナデ後底部外面同輪ヘラケズリ。	A 灰色胎地をわずかに含むが精製。 B 不良 C 内外灰5%以下		ほぼ完形
第210図 10	墓道C群	須恵器	杯蓋	①13.8 ②3.35	口縁部は同輪ナデ、底部外面は同輪ヘラケズリ。腹部の上縁は円形の胎土板上で蓋をした無縁あり。	A 灰色胎地等をわずかに含む。 B 良好 C 外雜 灰3%～燻灰7.5%以下～灰5%以下、内灰5%以下	有	3/4
第210図 11	墓道C群	須恵器	杯蓋	①12.0 ②3.5	同輪ナデ後天井部外面同輪ヘラケズリ。	A 白・灰色胎地等を多く含む。 B 良好 C 外雜 青灰5%以下～灰7.5%以下、内灰5%以下	有	ほぼ完形
第210図 12	墓道C群	須恵器	杯蓋	①12.25 ②4.1	同輪ナデ後天井部外面同輪ヘラケズリ。	A 白・灰色胎地等を多く含む。 B 良好 C 内外雜青灰5%以下	有	ほぼ完形
第210図 13	墓道C群	須恵器	杯蓋	①(14.3) ②4.2	同輪ナデ後天井部外面同輪ヘラケズリ。	A 精製。胎地等をほとんど含まない。 B やや不良 C 外灰5%以下、内灰5%以下		1/2
第210図 14	墓道C群	須恵器	杯蓋	①11.0 ②2.4	同輪ナデ後外面同輪ヘラケズリ。	A 精製。白色胎地をわずかに含む。 B やや不良 C 外灰5%以下、内灰5%以下		ほぼ完形
第210図 15	墓道C群	須恵器	杯蓋	①(12.7)	同輪ナデ後天井部外面同輪ヘラケズリ。	A 精製。灰色胎地等を多く含む。 B 良好 C 外灰5%以下～灰5%以下、内灰5%以下	有	1/3
第210図 16	墓道C群	須恵器	杯身	①14.4 交部径13.2 ②3.7	同輪ナデ後天井部外面同輪ヘラケズリ。	A 精製。白色胎地をわずかに含む。 B 良好 C 外灰7.5%以下～灰5%以下、内灰5%以下	有	ほぼ完形

種類 番号	遺物 番号 (出土地点)	種類	副種	品名 (No) ①口径 ②底径 ③口径 ④最大径 ⑤最大径 ⑥(注) ⑦重量	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	へら 番号	残存	
第210	17	黒道C群	灰器	杯身	①16.5 ②受口径13.15 ③5.9	A 精練、白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外底灰1077/1～灰1076/1、内底 7.395/1	有	ほぼ完整	
第210	18	黒道C群	灰器	杯身	①11.3 ②受口径13.9 ③5.5 ④6.45	A 精練、白・灰色砂粒をわずかに含む。 B やや不良 C 外底灰1077/2～灰1076/1、内底白 7.397/1	有	ほぼ完整	
第210	19	黒道C群	灰器	杯身	①12.2 ②受口径14.6 ③5.9 ④(注)	A 精練、灰・白色砂粒をわずかに含む。 B やや不良 C 外底灰1076/1、内底白1076/1	有	1/2	
第210	20	黒道C群	灰器	杯身	①11.2 ②受口径13.5 ③5.55	A 精練、白・灰色砂粒を多く含む。 B 良好 C 外底灰1.3177/1～灰1347、内底反 976/1	有	3/4	
第210	21	黒道C群	灰器	杯身	①16.55 ②5.9	A 精練、白色砂粒をわずかに含む。 B 不良 C 外底灰2.5182/2～灰2.518/1、内 灰2.3177/2	有	5/6	
第210	22	黒道C群	灰器	大甕	①35.4	A 灰色砂粒をわずかに含むが精練。 B 良好 C 外底青灰104/1～灰1039/1、内 底青灰105/1		甕底部～ 胴部のみ	
第210	23	黒道C群	灰器	高杯	①36.35 ②10.9 ③脚幅直径 (7.5)	杯沿、脚部とも同軸ナズ。杯沿外面には4条、 脚沿外面には3条の沈線がある。	A 精練、白・白色砂粒を多く含む。 B 良好 C 外底灰132/1～灰1039/1、内底 1.316/1～セリフ灰1037/1	有	杯沿完存～ 脚部1/2
第210	24	黒道C群	灰器	高杯	①(10.4) ②脚幅直径 6.5	杯沿、脚部とも同軸ナズ。杯沿外面には2条の 沈線があり沈線より下部にはカキ目あり。 脚沿外面には3条の沈線が確認されている。	A 精練、白・白色砂粒をわずかに含む。 B やや不良 C 外底灰1.5185/2、内底灰1.5185/1	有	口縁部1/4、 脚部2/3
第210	25	黒道C群	灰器	鉢	①10.1	口縁部は同軸ナズ。口縁部外面には2条の沈 線がある。	A 精練、白・白色砂粒をわずかに含む。 B やや不良 C 外底灰1.3167/1、内底1076/1		3/4
第210	26	黒道C群	灰器	鉢	①16.6 ②脚幅直径2.2 ③7.2 ④最大脚幅径6.65	口縁部は同軸ナズで、外面に2条の沈線をも つ。脚部～底部外面は同軸ナズで、底部外面 は同軸ヘラケズリ。胴部の上手に2条沈線あり。 この沈線間～胴底文を施す。最大径は胴 部にある。	A 白灰色砂粒を多く含む。 B 良好 C 外底青灰192/1、内底1.5147/1		ほぼ完整
第210	27	黒道C群	土師器	甕	①45.8 ②24.9 ③脚部最大径23.2	口縁部は短く、やや外反し立ち上がる。口縁 部内面はゴシック、脚部～底部内面はヘラケ ズリ後ナズ。胴部外面は縦刷毛で、胴部上 手は左上がりのハキ目を施す。	A 白色・灰黄質砂粒をわずかに含む。 B やや多い C 内底に灰・黄緑1077/4		ほぼ完整
第210	28	黒道D群	灰器	杯蓋	①13.7 ②3.8	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ。後 天部外面には2条の沈線あり。	A 白色砂粒をやや多く含む。良好。 B 良好 C 内外底灰1018/1	有	ほぼ完整
第210	29	黒道D群	灰器	杯蓋	①12.4 ②4.05	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ。	A 白色砂粒をやや含むが精練。 B 良好 C 外底灰2.395/1～にぶい筋 7.3106/3、内セリフ灰2.3026/1	有	ほぼ完整
第210	30	黒道D群	灰器	杯蓋	①12.4 ②4.3	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ。	A 白色砂粒をやや含むが精練。 B 良好 C 内底青灰194/1	有	ほぼ完整
第210	31	黒道D群	灰器	杯蓋	①12.9 ②3.9	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ。	A 白色砂粒をやや含むが精練。 B 良好 C 外底青灰194/1～灰186、内底 186/1	有	ほぼ完整
第210	32	黒道D群	灰器	杯蓋	①(9.8) ②受口径(11.8) ③(1.95)	同軸ナズ。	A 黒砂粒をやや含むが精練。 B 良好 C 外底白3177/2～青灰187.7/1、内底 青灰193/1		口縁部1/3
第210	33	黒道D群	灰器	杯蓋	①19.0 ②受口径10.8 ③5.95	つまみ有する蓋で、同軸ナズ後天井部外面 同軸ヘラケズリし、カキ目を施す。	A 白色砂粒をわずかに含むが精練。 B 良好 C 外底灰133/1～灰186/1～灰 1076/1、内底灰1035/1	有	ほぼ完整
第210	34	黒道D群	灰器	杯蓋	①10.1 ②受口径10.1 ③3.2	つまみ有する蓋で、同軸ナズ後天井部外面 同軸ヘラケズリ。	A 砂粒をわずかに含むが精練。 B 良好 C 外底灰1035/1、内底灰1038/1	有	ほぼ完整
第210	35	黒道D群	灰器	杯蓋	①18.8 ②受口径10.8 ③5.9	つまみ有する蓋で、同軸ナズ後天井部外面 同軸ヘラケズリ。	A 白色砂粒をわずかに含むが精練。 B 良好 C 外底灰1386/1～灰1076/1、内底 反1/1	有	ほぼ完整
第210	36	黒道D群	灰器	杯身	①18.4 ②3.6	同軸ナズ後天井部外面同軸ヘラケズリ。体部 に1条の沈線あり。	A 砂粒をわずかに含むが精練。 B 良好 C 外底1.5181.7/1～筋灰7.5185/1、 内底反7.3185/1	有	ほぼ完整
第210	37	黒道D群	灰器	杯身	①18.4 ②3.45	同軸ナズ後天井部外面同軸ヘラケズリ。	A 砂粒をわずかに含むが精練。 B 良好 C 内外底灰1035/1	有	完整
第210	38	黒道D群	灰器	杯身	①11.6 ②受口径11.0 ③5.7	同軸ナズ後天井部外面同軸ヘラケズリ。	A 灰色・白色砂粒をわずかに含むが 精練。 B 不良 C 外底黒1/1～灰186、内底灰1076/1	有	完整

評定 番号	建物 番号 (出土地点)	種類	跡形	法量 (m) ①口径 ②高さ ③底径 ④奥行 ⑤最大積 ⑥()は法量	形態・技法	A:粘土 B:焼成 C:土調	ヘラ 記号	残存
第2500	39	墓道口群	扉形	①11.7 受口径14.1 ②3.7	同軸ナズ後底部外面は同軸ヘラケズリ。	A 焼成をわずかに含むが焼成。 B 良好 C 外径 灰黄2.55/2～灰白7、内径 5/3	有	完形
第2500	40	墓道口群	扉形	①5.6 側高径3.7 ②18.7 ③傾斜最大径9.0	口縁～胴部は同軸ナズ。口縁部外面に2条の 沈線あり。胴部下半から底部外面は同軸ヘラ ケズリ。胴部中央と上半上位に沈線を敷き、 沈線間に突起文あり。	A 灰色・灰白色砂粒を多く含む。 B 良好 C 内外径灰白3	有	完形
第2500	41	墓道口群	扉形	①13.2 側高径2.7	口縁部が外反しながら広がり、口縁部部を小さく 真立させている。胴部の中央に2条の沈 線あり。同軸ナズ調整。	A 焼成を含まず焼成。 B 良好 C 外径 灰白1.7～灰白3/1、内径 青灰黄3/1～灰3/1	有	口縁一部 ～胴部
第2500	42	墓道口群	扉形	①11.6	同軸ナズ調整。口縁部は内面直ちに立ちあがり 、胴部に3条、沈線がみられる。	A 白色砂粒をわずかに含むが焼成。 B 良好 C 外径 青灰黄3/1、内径 青灰黄3/1 ～青灰黄3/1	有	口縁部3/4
第2600	43	墓道土層	扉形	①(14.0) ②4.25	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ。	A 焼成。白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外径 黄2.5/7/2、内径 オリーブ 5/6/2		2/3
第2600	44	墓道土層	扉形	①11.2 受口径13.2 ②3.85	同軸ナズ後底部外面は同軸ヘラケズリ。	A 焼成。白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外径 灰白6～黄灰2.5/6/1、内径 灰 白(部の部分) 灰白3/1	有	ほぼ完形
第2600	45	墓道中群	扉形	①12.8 ②4.3	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ。	A 焼成。白色砂粒等を含む。 B 良好 C 外径 灰白3/1～灰3/1、内径 灰白3/1	有	ほぼ完形
第2600	46	墓道中群	扉形	①(13.2) ②3.1	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ。	A 焼成。白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外径 灰白3/1～青灰黄3/1、内 径 灰白3/1		1/2
第2600	47	墓道中群	扉形	①12.9 ②4.0	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ。	A 焼成。白色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外径 青灰黄3/1、内径 灰白3/1	有	2/4
第2600	48	墓道中群	扉形	①(11.8) ②3.8	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ。	A 焼成。黒色砂粒等をわずかに含む。 B 不良 C 内外径白2.5/3/1		1/4
第2600	49	墓道中群	扉形	①(11.6) ②3.9	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ。	A 焼成。白色・灰色砂粒等を含む。 B 良好 C 内外径 灰白3/1	有	3/4
第2600	50	墓道中群	扉形	①13.1 ②4.2	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ。	A 焼成。白色・灰色砂粒等を含む。 B 不良 C 外径 灰白3/1～灰白2.5/7/1、内 径白2.5/7/1	有	2/4
第2600	51	墓道中群	扉形	①12.3 ②3.45	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ。	A 黒色砂粒を多く含む。 B 良好 C 内外径 灰白3/1～灰3/1	有	ほぼ完形
第2600	52	墓道中群	扉形	①12.25 ②3.1	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ。	A 焼成。白色砂粒等をわずかに含む。 B やや不良 C 内外径 灰白3/1	有	3/4
第2600	53	墓道中群	扉形	①(13.3) ②3.25	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ。体 部外面にクワ目多発す。	A 焼成。白色砂粒等をわずかに含む。 B やや不良 C 外にぶい 黄土 5/5/3/3 ～ 陶 灰 2.5/3/1、内径 灰白3/1	有	1/2
第2600	54	墓道中群	扉形	①(13.0) ②3.85	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ。	A 白色・灰色砂粒等を含む。 B 良好 C :内外径 灰白3/1	有	3/4
第2600	55	墓道中群	扉形	①9.75 ②3.65	同軸ナズ後底部外面は同軸ヘラケズリ。	A 焼成。灰色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内外径 灰白3/1	有	ほぼ完形
第2600	56	墓道中群	扉形	①10.7 受口径14.2 ②3.5	同軸ナズ後底部外面は同軸ヘラケズリ。	A 焼成。わずかに白色砂粒等を含む。 B 良好 C 内外径 青灰黄3/1	有	2/3
第2600	57	墓道中群	扉形	①(11.9) 受口径(14.0)	同軸ナズ後底部外面は同軸ヘラケズリ。	A 焼成。わずかに白色砂粒等を含む。 B 良好 C 外径 灰白3/1～青灰黄3/1、内径 灰 白3/1	有	口縁部1/4 ～胴部1/2
第2600	58	墓道中群	扉形	①(11.0) 受口径(12.6) ②3.25	同軸ナズ後底部外面は同軸ヘラケズリ。	A 焼成。白色砂粒等・黒色砂粒を含む。 B 良好 C 外径 灰白3/1～灰白3/1、内径 灰 白3/1	有	2/3
第2600	59	墓道中群	扉形	①10.4 受口径12.1	同軸ナズ。	A 焼成。わずかに白色砂粒等を含む。 B 良好 C 外径 灰白3/1～灰3/1、内径 灰 白3/1		口縁部3/4
第2700	60	墓道中群	高杯	①(11.6) ②13.4 ③脚高径9.6	杯蓋は同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。底部 内面はナズ。体部外面に2条の沈線あり。脚 蓋は同軸ナズで、脚蓋外面の中央に2条の沈 線あり。	A 焼成。白色砂粒・砂粒を含む。 B 良好 C 外径 灰白3/1～灰白3/1、内径 白 3/1	有	2/3
第2700	61	墓道中群	高杯	①(7.6) ②7.6 ③脚高径9.6	杯蓋は同軸ナズ後外面同軸ヘラケズリ。底部 内面はナズ。脚蓋は同軸ナズ。	A 焼成。白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内外径 灰白3/1	有	2/3

種別 番号	遺物 番号	遺構 (出土状況)	種類	詳細	遺棄 (㎡) ①の付 ②部高 ③受器径 ④溝有付 ⑤最大径 ⑥()は覆文	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	へら 形状	残存
第27区	62	基壇中層	築造部	高杯	③部径径7.6	胴部(台座)の残存。脚部がほぼ直筒状に外反する。回転ナブ調整。	A 精練。白色顔料をわずかに含む。 B 良好 C 外反5%/、内反5%～黒反10%/		胴部のみ 完存
第27区	63	基壇	築造部	杯蓋	①(13.1) ②2.45	実形状のつまみを有する。回転ナブ後天部外面回転ヘラケズリ。	A 精練。白色顔料を含む。 B 不良 C 外反15%/～18%/にぶい黄緑10%/、内反10%/		1/3
第27区	64	基壇	築造部	杯身	①(12.2) 受器径(14.0)	回転ナブ後天部外面回転ヘラケズリ。	A 白色顔料等をわずかに含む。 B 良好 C 外反5%/～反2.5%/2、内反異 2.5%/2		1/3
第27区	65	墳丘上層	築造部	高付付 杯	④溝有径6.8	回転ナブ調整。高合部付。	A 白色顔料等をわずかに含む。 B 不良 C 内外反2.5%/2		有 高付部1/1
第27区	66	墳丘上層	築造部	甕	①(18.8) ②部径(13.2)	回転ナブ調整。口縁部外面に段を有する。	A 白色・灰色顔料等を多く含む。 B 不良 C 内外反5%/		有 口縁部1/2
第27区	67	墳丘	築造部	長脚甕	③9.45 ④部径4.55 ⑤21.55 ⑥3.95 ⑦部最大径4.7	口縁一部部は砂漏ナブ後かき目を有す。胴部下から底部外面は回転ヘラケズリ。胴部中央上や上段に流線を描し、尻瀬部に絞突あり。胴部上段に方目あり。	A 砂粒をわずかに含むが精練。 B 良好 C 外反5%/～内反7.5%/1、内寄反3%/1		ほぼ完形
第27区	68	2区墳丘	築造部	杯蓋	①(13.5)	回転ナブ後天部外面回転ヘラケズリ。	A 白色顔料等をわずかに含むが精練。 B 良好 C 外反10%/～反10%/2、内反白 5%/2		1/3
第27区	69	2区墳丘	築造部	杯蓋	①(12.4) ②4.25	回転ナブ後天部外面回転ヘラケズリ。	A 白・灰色顔料等をわずかに含むが精練。 B 良好 C 外反異径2.5%/2～浅黄2.5%/3、内反異2.5%/2		有 1/4
第27区	70	2区墳丘	築造部	杯身	①(12.1) 受器径 (14.3)	回転ナブ後天部外面回転ヘラケズリ。	A 白・灰色顔料等をわずかに含むが精練。 B 良好 C 外反5%/、内反5%/		有 1/4
第27区	71	2区墳丘	築造部	杯身	①(12.5) 受器径(14.3)	回転ナブ後天部外面回転ヘラケズリ。	A 灰色顔料等をわずかに含むが精練。 B 良好 C 内外反5%/		有 1/4
第27区	72	2区墳丘	築造部	杯身	①(11.4) 受器径(12.8) ②3.8	回転ナブ後天部外面回転ヘラケズリ。	A 白色顔料をわずかに含むが精練。 B 良好 C 内外反5%/		1/2
第27区	73	2区墳丘	築造部	高杯	①(9.7)	回転ナブ。杯部に流線を有する。	A 精練で砂粒等を含まない。 B 良好 C 内外反5%/、③3%/～黒反5.5%/1		1/2
第27区	74	3区墳丘	築造部	杯蓋	①13.6 ②3.8	回転ナブ後天部外面回転ヘラケズリ。	A 精練で。砂粒等は含まない。 B 良好 C 外反10%/～10%/1、内反5%/		ほぼ完形
第27区	75	3区墳丘	築造部	杯蓋	①(12.8) 受器径(14.4)	回転ナブ後天部外面回転ヘラケズリ。	A 精練。白色顔料等をわずかに。重 厚片も含む。 B 不良 C 外にぶい黄緑10%/3、内反異 2.5%/2		1/4
第27区	76	3区墳丘	築造部	甕	①(4.0) ②部最大径5.2	胴部下～底部外面は回転ヘラケズリ。胴部上平外面は2条の流線があり、尻瀬部に絞突を有す。	A 精練であるが、白色顔料等をわず かに含む。 B 良好 C 外反5%/～黒反5%、内反5%/		胴部～尻瀬 3/4
第27区	77	3区墳丘	築造部	杯蓋	①13.6 ②3.95	回転ナブ後天部外面回転ヘラケズリ。	A 精練で砂粒等は含まない。 B 良好 C 外オリーブ異径10%/3～反オリーブ 5%/2、内反オリーブ7.5%/2		ほぼ完形
第27区	78	3区墳丘	築造部	杯蓋	③8.3 受器径16.3 ④3.95 ⑤フック部径1.2	つまみを有する蓋。回転ナブ後天部外面回転ヘラケズリ。	A 白色顔料等をわずかに含むが精練。 B 良好 C 外 黒反5%/～ 黒 反10%/1～反 7.5%/1、内寄反5%/1～赤反5%/1		有 ほぼ完形
第28区	79	盛積式	築造部	杯蓋	①(12.2) ②3.7	回転ナブ後天部外面回転ヘラケズリ。	A 精練。白色顔料・石膏質顔料をわ ずかに含む。 B 良好 C 外反7.5%/1～10%/1、内反5%/		有 2/3
第28区	80	盛積式	築造部	杯身	①11.0 受器径13.3 ②4.1	回転ナブ後天部外面回転ヘラケズリ。	A 精練。白色顔料を含む。 B 良好 C 内外寄反5%/1～5%/1		有 4/5
第28区	81	盛積式	築造部	杯身	①11.8 受器径13.8 ②3.9	回転ナブ後天部外面回転ヘラケズリ。	A 精練。白色顔料をわずかに含む。 B やや不良 C 外 反7.5%/1～オリーブ 反 5.5%/1、内反7.5%/1		4/5
第28区	82	盛積式	築造部	杯身	①10.8 受器径13.0 ②3.9 ③2.8	回転ナブ後天部外面回転ヘラケズリ。	A 精練。白色顔料を含む。 B 不良 C 外 異径2.5%/2～反5%/1、内反 5%/1～反異径10%/2		ほぼ完形
第28区	83	盛積式	築造部	高杯	①(11.0)	回転ナブ調整。杯部外面に2条の流線あり。	A 灰色・黒色顔料をわずかに含む が精練。 B 良好 C 外反5%/～黒反5%、内反7.5%/1		有 杯蓋1/3

様式 番号	遺構 (出土地点)	種類	部材	法量 (m) ①口径 ②壁厚 ③底径 ④奥行 ⑤最大径 ⑥() は覆元	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	へら 番号	残存	
第2900	84	藍灰瓦	土師器	筒	①(12.5)	内面ヨコナデ、外面タテハケ。	A 白色・黒色煎砂を含む。 B 良好 C 内外に赤い黄緑10%程度(焼成10%程度)		口縁部片
第2900	85	藍灰瓦	須恵器	葉		外面は平行タタキ目後カキ目を施す。内面は同心状に具儀あり。	A 灰色煎砂をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外オリーブ灰2.50%程度～灰6%、内オリーブ灰2.50%程度		胴部へら 部片
第2900	86	2・3号横 須恵瓦	須恵器	軒瓦	①(12.7) ②3.95	同軸ナデ後遠部外面同軸ヘラケズリ。	A 精緻。白色・灰色煎砂を多く含む。 B 良好 C 内外青灰3%程度	有	1/2
第2900	87	2・3号横 須恵瓦	須恵器	軒瓦	①(18.6) ②全径(12.6) ③4.0	同軸ナデ後遠部外面同軸ヘラケズリ。	A 精緻。白色・灰色煎砂を多く含む。 B 良好 C 内外青灰3%程度～黄緑2.5%程度	有	2/3
第2900	88	2・3号横 須恵瓦	須恵器	軒瓦	①(14.6)	同軸ナデ調整。	A 精緻。灰色煎砂をこわずかに含む。 B 良好 C 内外青灰3%程度		口縁部1/4
3号墳									
第3300	1	2区周溝	須恵器	軒瓦	①(13.6)	同軸ナデ後天井部外面は同軸ヘラケズリ。天井部内面はナデ。	A 精緻。白色煎砂等をわずかに含む。 B 良好 C 内外オリーブ灰2.50%程度		口縁部1/3
第3300	2	2区周溝	須恵器	軒瓦	①18.2 ②全径12.4 ③3.7	同軸ナデ後外面同軸ヘラケズリ。遠部内面は同軸ナデ後ナデ。	A 精緻。砂粒等を含まない。 B 良好 C 内外青灰3%程度	有	断面
第3300	3	2区周溝	須恵器	軒瓦	①(16.2) ②全径(12.0)	天井部外面同軸ヘラケズリ後カキ目。遠部内面は同軸ナデ後ナデ。	A 精緻。砂粒等を含まない。 B やや不良 C 内外青灰3%程度、内灰白1.5%程度		1/8
第3300	4	2区周溝	須恵器	高軒	①(12.6) ②脚部最大径2.3	軒部は同軸ナデ。遠部外面は同軸ヘラケズリ。	A 精緻。砂粒等を含まない。 B 良好 C 内外青灰1%程度、内灰2.5%程度		1/4
第3300	5	2区周溝	須恵器	瓦	①(16.6)	内面は同軸ナデ後ナデ。外面は同軸ナデ後同軸ヘラケズリ。	A 精緻。砂粒等を含まない。 B 良好 C 内外灰1%程度、内灰白1.5%程度		1/4
第3300	6	2区周溝	須恵器	埴	①18.1 ②12.45 ③脚部最大径6.35	同軸ナデ後同軸ヘラケズリ。脚部上半は同軸ナデ後カキ目。脚部穿孔の上下に2条沈溝を施し、この間に刺突文あり。	A 精緻。砂粒等を含まない。 B 良好 C 外黄緑2.5%程度～青灰3%程度、内灰2.5%程度		3/4
第3300	7	2区周溝	須恵器	平瓦 または2区	①脚部最大径(14.5)	内外面同軸ナデ。	A 精緻。砂粒等を含まない。 B 良好 C 内外灰10%程度		体部1/6
第3300	8	2区周溝	須恵器	平瓦 または2区	①(16.6)	内外面同軸ナデ。遠部外面は同軸ヘラケズリ後ナデ。	A 精緻。砂粒等を含まない。 B 良好 C 内外灰10%程度		遠部1/4
第3300	9	周溝A群	須恵器	軒瓦	①13.4 ②3.9	同軸ナデ後外面同軸ヘラケズリ。天井部内面には当て具儀あり。	A 白色・灰色煎砂や石黄質煎砂等を多く含む。 B 良好 C 外青灰3%程度～青灰3%程度、内青灰3%程度		ほぼ完形
第3300	10	周溝A群	須恵器	埴	①(16.0) ②13.15 ③脚部最大径9.3	同軸ナデ後。脚部上半は同軸ナデ後カキ目。脚部穿孔の上下に2条沈溝を施し、この間に刺突文あり。遠部外面は磨止ヘラケズリ	A 精緻。砂粒等をあまり含まない。 B 良好 C 内外灰10%程度	有	脚部完形へ 口縁部1/8
第3300	11	周溝B群	須恵器	軒瓦	①13.0 ②3.4	同軸ナデ後。天井部外面はヘラ切り。	A 白色・石黄質煎砂をわずかに含む。 B 良好 C 内外灰3%程度	有	1/2
第3300	12	周溝B群	須恵器	軒瓦	①11.5 ②3.95	同軸ナデ後。天井部外面はヘラ切り後ナデ。内面はナデ。	A 精緻。白色煎砂等をこわずかに含む。 B 良好 C 内外灰2.5%程度、内灰白1.5%程度		ほぼ完形
第3300	13	周溝B群	須恵器	軒瓦	①11.4 ②3.6	同軸ナデ後天井部内面ナデ。天井部外面ヘラケズリ後ナデ。	A 白色・黒色煎砂をわずかに含む。 B やや不良 C 外 赤い 緑 2.5%程度～ 赤 緑 2.5%程度、内灰2.5%程度		ほぼ完形
第3300	14	周溝B群	須恵器	軒瓦	①12.0 ②3.8	同軸ナデ後天井部内面ナデ。外面ヘラケズリ。	A 白色煎砂・黒色煎砂を含む。 B やや不良。 C 外 に 赤い 緑 2.5%程度～ 赤 緑 2.5%程度、内灰2.5%程度		ほぼ完形
第3300	15	周溝B群	須恵器	軒瓦	①9.5 ②3.2	同軸ナデ。遠部外面は同軸ヘラケズリ。	A 精緻。白色煎砂等をわずかに含む。 B 良好 C 外黄緑2.5%程度、内灰2.5%程度		口縁部1/2 ～体部完形
第3300	16	周溝B群	須恵器	軒瓦	①11.9 ②3.35	同軸ナデ後天井部内面ナデ。天井部外面ヘラケズリ後ナデ。	A 白色・黒色煎砂をわずかに含む。 B やや不良 C 外 黄緑3%程度～ 灰6%、内黄緑2.5%程度		ほぼ完形
第3300	17	周溝B群	須恵器	軒瓦	①(13.1) ②3.7	同軸ナデ後天井部内面ナデ。天井部外面ヘラケズリ。	A 精緻。白色・灰色煎砂を多く含む。 B 良好 C 外青灰3%程度、内灰3%程度	有	口縁部1/2
第3300	18	周溝B群	須恵器	軒瓦	①(13.4)	焼成不良であるため。調整不明。	A 灰色煎砂等をわずかに含む。 B 不良 C 内外黄緑7.5%程度		口縁部1/4
第3300	19	周溝B群	須恵器	軒瓦	①15.3 ②2.7 ③脚部最大径3.2	同軸ナデ後天井部内面ナデ。天井部外面ヘラケズリ。天井部外面につまみあり。	A 精緻。白色煎砂をわずかに含む。 B 良好 C 内外灰3%程度		口縁部1/2

種類 番号	遺物 番号 (出土地点)	種類	副種	用途 (古) ①の付 受器類 ②成器 ③蓋有付 ④最大径 ⑤()は最大	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	へら 番号	残存	
第330	20	周濠自群	聚形器	杯蓋	①18.6 ②受器径10.0 ③1.1 ④フチ高0.9	同軸ナブ後天部内面ナブ、天部外面はヘラケズリ。天部外面に土塗りのつらみあり。	A 白・灰色砂粒等をこくわずかに含む。 B 良好 C 内外にふい黄緑10YR7/3～灰白10B7/1	有	ほぼ完整
第310	21	周濠自群	聚形器	杯身	①31.9 ②受器径14.0 ③4.1	同軸ナブ後底部外面はヘラケズリ。	A 精練。白色砂粒等を多く含むが、内面は染みけられぬ。 B 良好 C 外灰白N7～灰N3、内灰白N7/	有	ほぼ完整
第310	22	周濠自群	聚形器	杯身	①31.2 ②受器径14.0 ③4.6	同軸ナブ後同軸ヘラケズリ。底部内面に当て具痕あり。	A 精練。白色砂粒等を含む。 B 良好 C 外灰白N7/1、内黄緑N96/1	有	ほぼ完整
第310	23	周濠自群	聚形器	杯身	①31.4 ②受器径13.9 ③4.0	同軸ナブ後底部内面ナブ。底部外面はヘラケズリナブ。内外面の色調が異なることから、杯身セットで焼成されたと考えられる。	A 精練。白色砂粒等を含む。 B 良好 C 外増灰N3～灰白N7/1、内灰N5/	3/4	
第310	24	周濠自群	聚形器	杯身	①30.8 ②受器径13.2 ③3.9	同軸ナブ後底部内面ナブ。底部外面はヘラケズリ。	A 白・灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外灰N4～灰N6、内灰N5/	有	1/2
第310	25	周濠自群	聚形器	杯身	①30.4 ②受器径12.0 ③3.4	同軸ナブ後底部内面ナブ。底部外面はヘラケズリナブ。内外面の色調が異なることから、杯身セットで焼成されたと考えられる。	A 精練。白色砂粒等をこくわずかに含む。 B 良好 C 外灰N4/～白～黄7.5YR5/3、内灰N7/1	有	ほぼ完整
第310	26	周濠自群	聚形器	杯身	①30.9 ②受器径12.2 ③3.5	同軸ナブ後底部内面ナブ。底部外面はヘラケズリナブ。内外面の色調が異なることから、杯身セットで焼成されたと考えられる。	A 白色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外灰N6/～灰赤2.5B6/2、内赤灰2.5B4/1	有	ほぼ完整
第310	27	周濠自群	聚形器	杯身	①30.9 ②受器径12.6 ③4.0	同軸ナブ後底部内面ナブ。底部外面はヘラケズリ。	A 白・灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外灰7.5Y/1、内灰N5/	有	1/2
第310	28	周濠自群	聚形器	杯身	①30.4 ②受器径12.6 ③3.5	同軸ナブ後外面同軸ヘラケズリ。天部内面内面に当て具痕あり。	A 精練。白色砂粒等をこくわずかに含む。 B 良好 C 内外黄緑1	有	完整
第310	29	周濠自群	聚形器	杯身	①31.0 ②4.1 ③フチ大	同軸ナブで、体部外面には4条の沈線あり。底部外面は同軸ヘラケズリ。ホリが大きい。	A 精練。白色砂粒等を含む。 B 良好 C 外 黄緑10YR4/1～赤N2/～灰白2.5Y/1、内赤N2/～灰白2.5Y/1	有	完整
第310	30	周濠自群	聚形器	高付杯	①(14.1) ②4.7 ③脚高10.1	杯部は同軸ナブ後、底部外面は同軸ヘラケズリ。底部内面はナブ。高付は高付付。最大径は口部にある。	A 白色砂粒等をこくわずかに含む。 B 良好 C 内増灰N3/	有	底部残存
第310	31	周濠自群	聚形器	柄	①4.9	同軸ナブ。底部内面は同軸ヘラケズリ。脚部には沈線あり。沈線に把手が磨したような痕跡あり。	A 灰色砂粒等を含む。 B 良好 C 外黄緑N96/1、内黄緑N95/1	有	底部1/2
第310	32	周濠自群	聚形器	皿	①10.8 ②12.0 ③脚高最大径7.6	口縁部に沈線を施し、器部中央に段を有す。口縁部は同軸ナブ。脚部穿孔の上と下に2条の沈線を施す。この間に刺突あり。底部外面は同軸ヘラケズリ。口縁部内面と脚部外面に手に沈線が多く付着する。	A 灰色砂粒等をこくわずかに含む。 B 良好 C 外 黄緑N2.5Y/3～灰N6/	口縁部2/3～ 体部残存	
第310	33	周濠自群	聚形器	高杯	①31.6 ②15.3 ③脚部径10.6	同軸ナブ後同軸ヘラケズリ。底部内面に当て具痕あり。	A 白色砂粒等を多く含む。 B やや不良 C 内外灰7.5B/1	有	ほぼ完整
第310	34	周濠自群	聚形器	高杯	①18.7 ②10.15 ③脚部径17.7	同軸ナブ。杯部内面の口縁部と体部の間に沈線2条あり。底器外面にキヨキあり。脚部は中央に沈線2条あり。	A 精練。白色・石黄緑砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外 増灰N3/～黄緑10YR4/1、内灰N4/～灰10YR4/1	有	1/2
第310	35	周濠自群	土師器	甕	①(14.5)	同軸ナブ後天部外面は同軸ヘラケズリ。天部内面はナブ。	A 精練。白色・灰色砂粒等を含む。 B 良好 C 外 黄緑10Y3/1～黄緑10YR3.6、内黄緑10YR3.6	口縁部2/3	
第310	36	周濠自群	土師器	甕	③脚部最大径(18.6)	同軸ナブ後天部外面は同軸ヘラケズリ。天部内面はナブ。	A 白・灰色砂粒等を含む。 B 良好 C 外 灰白10YR3/1～黄緑10YR3.6、内黄緑10YR3.6	胴下部～ 底部残存	
第350	37	周濠自群	聚形器	大甕	①21.5 ②47.9 ③脚部最大径45.9	口縁部が直線的に外反し、口縁部の下に突線あり。脚部最大径は脚部上平にある。口縁部は内外面同軸ナブ。脚部外面が平行タキ目後カキ目。内面同心タキ目である。内面の同心タキ目は同心内の大ききなるで径が2～3センチある。脚部の1/3以下から表面に2センチ目の向き合う当りによる磨痕が脚部中～上段と異なる。	A 精練。白色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外灰白N7/～増灰N3/ 内灰白N7/～増灰N3/～灰N3/	有	ほぼ完整
第350	38	周濠自群	聚形器	大甕	①21.6 ②42.5 ③脚部最大径41.5	口縁部が直線的に外反し、口縁部は深い。脚部最大径は脚部上平にある。口縁部は内外面同軸ナブ。脚部外面が平行タキ目後カキ目である。	A 精練。白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰7.5B/1～灰白N7/2、内灰17.5B/1	有	ほぼ完整
第350	39	周濠C群	聚形器	皿	①19.6 ②12.05 ③脚部最大径8.6	口縁部は同軸ナブで、口縁部に割付段を有する痕跡はなし。口縁部内面に同軸の沈線あり。脚部は同軸～底部は同軸ナブ。底部外面は同軸ヘラケズリ。口縁部が最大径である。	A 精練。白色・灰色砂粒等を含む。 B 良好 C 外灰N3/～増灰N3/、内灰7.5B/1	有	ほぼ完整
第350	40	周濠C群	聚形器	大甕	①42.5 ③脚部最大径(68.2)	口縁部が直線的に外反し、口縁部下の外面に突線、口縁部中央に2条の沈線がある。口縁部上平に刺突あり。下平にはカキ目を施す。脚部最大径は脚部上平にある。脚部は外面が平行タキ目。内面は同心タキ目である。	A 精練。白色砂粒をやや多く含む。 B 良好 C 外灰N3/～増灰N3/、内灰N6/～黄緑10YR3/1	有	口縁部 ほぼ完整 ～脚部1/4

様式 番号	遺物 番号	遺構 (出土地点)	種類	跡形	法量 (m) ①口径 ②底径 ③底径 ④底径 ⑤最大径 ⑥()は覆元	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	へら 記号	残存
第3602	41	3区 南狭間溝	須恵器	杯身	①9.7 受口径12.2 ②3.95	同軸ナズ後底部外面は同軸ヘラケズリ。	A 焼成、白色砂粒を多く含む。 B 中不貞 C 赤い・黒い・糖?、B977/4～灰黄鴨 10193/2、内径黄鴨10193/2		ほぼ完全
第3602	42	3区 南狭間溝	須恵器	杯身	①9.8 受口径12.0 ②3.5	同軸ナズ後底部外面は同軸ヘラケズリ。底部 内面はナズ。底部外面に板状凹痕あり。	A 焼成、黒色微砂粒をわずかに含む。 B 中不貞 C 赤灰N7/～灰N4/、内径 灰 2 S15/1		3/4
第3602	43	3区 南狭間溝	須恵器	杯身	—	同軸ナズ後外面は同軸ヘラケズリ。内外面とも 焼成不調で観察見えず。	A 焼成、砂粒を含まない。 B 不貞 C 内外径?、S197/6	有	底部までヘ ラ記号1/2
第3602	44	3区 南狭間溝	須恵器	杯身	①12.0 受口径14.1 ②3.9	同軸ナズ後底部外面は同軸ヘラケズリ。底部 内面に当て具痕あり。	A 焼成、白色砂粒を多く含む。 B 良好 C 内外径S197/1		完全
第3602	45	3区 南狭間溝	須恵器	杯身	①11.8 受口径(14.2)	同軸ナズ後底部外面は同軸ヘラケズリ。	A 焼成、白色砂粒を含む。 B 良好 C 赤灰N6/、内径灰黄鴨/1	有	1/4
第3602	46	3区 南狭間溝	須恵器	高杯	①20.1	同軸ナズ後杯身外面は同軸ヘラケズリ。	A 焼成、白色微砂粒を含む。 B 良好 C 赤灰N6/、内径灰黄鴨/1		1/8
第3602	47	3区 南狭間溝	須恵器	高杯	③脚縁径(16.9)	高杯脚縁で、内外面同軸ナズ。器底部に沈着 あり。脚縁部は平直である。	A 焼成、わずかに砂粒を含む。 B 良好 C 赤灰白917/1～オリーブ黒913/1、 内径N5/		2/5
第3602	48	3区 南狭間溝	須恵器	杯蓋	①13.0 ②4.4	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ。天 井部内面はナズで凹痕あり。外面の口縁部と体 部の間に沈着。口縁縁部内面に段あり。	A 焼成、白色・灰色砂粒等を含む。 B 良好 C 赤灰白1017/1、内径N6/		口縁部2/3 底部存在
第3602	49	3区 南狭間溝	須恵器	杯蓋	①11.8 ②3.2	同軸ナズ後底部外面は同軸ヘラケズリ。墓道 出土片と接合。	A 焼成、黒色微砂粒を含む。 B 良好 C 赤灰N2/S14/1～灰黄鴨S2/S14/1～ 灰黄鴨S2/S13/3、内径S16/1		2/3
第3602	50	3区 南狭間溝	須恵器	杯蓋	①13.6 ②4.1	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ。天 井部内面はナズ。	A 焼成、砂粒等を多く含む。 B 良好 C 赤灰N3/～灰N6/、内径N6/		1/2
第3602	51	3区 南狭間溝	須恵器	杯身	①10.3 受口径12.9 ②3.3	同軸ナズ後底部外面は同軸ヘラケズリ。底部 内面はナズ。	A 焼成、白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 赤オリーブ灰2/S63/1、内径N4/		ほぼ完全
第3602	52	3区 南狭間溝	須恵器	杯身	①11.4 受口径13.6 ②3.75	同軸ナズ後底部外面は同軸ヘラケズリ。内面 はナズ。	A 砂粒を含まず。焼成。 B 不貞 C 赤い・黒い・黄緑?10197/3～灰黄鴨 10196/2、内い・糖?、B977/3		ほぼ完全
第3602	53	3区 南狭間溝	須恵器	高台付 杯	①13.8 ②4.8 ③(5.6)	同軸ナズ後底部外面は同軸ヘラケズリ。底部 内面はナズ。高台は貼付して、外面に張り出 す。	A 焼成、白色・灰色砂粒等を含む。 B 中不貞 C 赤い・糖?、S196/1～灰N2/S195/1、 内径N7/S195/2		口縁部1/2～ 底部存在
第3602	54	3区 南狭間溝	須恵器	高台付 杯	①(8.8)	同軸ナズ後底部外面は同軸ヘラケズリ。底部 内面はナズ。高台は貼付して、短くやや内傾 する。	A 黒色微砂粒等を含むが、焼成。 B 良好 C 赤灰S12/S17/1～黄灰S2/S16/1、内 径S12/S16/1		底部1/4
第3602	55	3区 南狭間溝	須恵器	高台付 杯	①18.0 ②3.9 ③(5.6)	同軸ナズ後底部外面は同軸ヘラケズリ。底部 内面はナズ。高台は貼付して、外面に張り出 す。	A 焼成砂粒等を含むが、焼成。 B 赤灰部オリーブ黒S13/1～底面高 台内径S195/1、内径S196/1		1/4
第3602	56	3区 南狭間溝	須恵器	杯身	①10.6 ②3.2	同軸ナズ後底部外面は同軸ヘラケズリ。内面 は磨滅が著しく観察不明。	A 砂粒等を含まず。焼成。 B 良好 C 赤明黄灰S197/1～増灰N2/、内径 N2/	有	口縁部1/2～ 底部存在
第3602	57	3区 南狭間溝	須恵器	肥子付 筒	①14.2	残存状態では、肥子は11号のみで、ヘラ記 号等で使用。ナズ調整を行っている。体部 には、2箇所の上位の2条の沈着を有しており、 口縁部下位の上位の2条の沈着との間、上・下 位の2条の沈着との間に、磨滅痕状文を付 している。	A 焼成、白色・灰色砂粒、黒色微砂 粒をわずかに含む。 B 良好 C 赤灰N4/～灰黄鴨2/S197/1のまだら 痕点あり、内径灰黄鴨/1		口縁部3/4～ 胴部一部
第3702	58	3区 周溝	須恵器	杯身	①18.5 受口径(13.2) ②3.9	同軸ナズ後底部内面はナズ。外面は磨滅が著 しく観察不明。	A 砂粒等を含まず。焼成。 B 良好 C 赤明黄灰S197/1～増灰N2/、内径 N2/		1/3
第3702	59	3区 周溝	須恵器	杯身	受口径(14.0)	同軸ナズ後底部外面は同軸ヘラケズリ。	A 焼成、白色砂粒を含む。 B 良好 C 赤灰N3/、内径N6/～灰白N7/		1/3
第3702	60	周溝1目	須恵器	杯蓋	①18.7 受口径(16.3) ②1.65	同軸ナズ。天井部外面は同軸ヘラケズリ。	A 砂粒等を含まず。焼成。 B 良好 C 赤灰N2/S198/1、内径白N7/	有	口縁部1/3
第3702	61	周溝1目	須恵器	杯身	①12.1 受口径(14.0) ②3.3	同軸ナズ後底部内面ナズ。底部外面はヘラケ ズリ。O3・E4と同Jヘラ記号(李通古橋と 類似あり)	A 焼成、白・灰色砂粒等をわずかに 含む。 B 良好 C 赤灰N4/、内径N6/	有	1/10
第3702	62	3区 周溝	須恵器	杯蓋	①14.2 ②4.3	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ。天井 部内面はナズで凹痕あり。外面の口縁部と体部 の間に沈着。口縁縁部内面に段あり。	A 焼成、白色微砂粒等をわずかに含 む。 B 良好 C 内外径S197/1		口縁部1/4
第3702	63	3区 周溝	須恵器	杯蓋	①13.8 ②4.9	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ。天井 部内面はナズ。外面の口縁部と体部の間に沈 着あり。	A 焼成、灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 赤灰N3/～灰N6/、内径N6/		口縁部1/2

種別 番号	遺物 番号 (出土地点)	種類	図様	法量 (cm) ①口径 ②底径 ③全径 ④高さ ⑤最大径 ⑥重さ () 注記	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	へら 番号	残存
第37図	64	3区周溝	杯蓋	①13.1 ②4.3	回転ナブ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精製、灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外灰質N3、内灰白M6/	有	2/3
第37図	65	3区周溝	杯蓋	①12.8 ②4.5	回転ナブ後天井部内面はナブ、天井部外面はヘラケズリ。	A 精製、白・灰色砂粒、黒色砂粒を含む。 B 良好 C 内灰質N5/	有	ほぼ完整
第37図	66	3区周溝	杯蓋	①(12.2) ②4.55	回転ナブ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナブ、外面の口縁部と体部の間に注溝あり。	A 白色砂粒等をやや多く含む。 B 硬く精製。 C 外灰質N3/～灰質10107/1、内灰黄灰9106/1		口縁部1/3
第37図	67	3区周溝	杯蓋	①(12.1) ②4.8	回転ナブ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面は当て具無しあり、外面の口縁部と体部の間に注溝あり。	A 白色・灰色砂粒等を含む。 B 硬く精製。 C 外灰質N5、内灰M6/		底面 ほぼ完整・ 口縁部1/8
第37図	68	3区周溝	杯蓋	①13.3 ②4.2	回転ナブ後天井部内面はナブ、天井部外面はヘラケズリ。	A 白・灰色砂粒等を多く含む。 B 硬く精製。 C 外灰質N2/～灰白N7/、内灰M6/	有	口縁部1/2・ その他残存
第37図	69	3区周溝	杯蓋	①12.3 ②4.35	回転ナブ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精製、白色・灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外灰質M7、内灰N5/	有	口縁部1/2
第37図	70	3区周溝	杯蓋	①13.9 ②4.2	回転ナブ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面は当て具無しあり。	A 精製、灰色砂粒等を含む。 B 良好 C 内灰質N3/		口縁部1/2・ 天井部存在
第37図	71	3区周溝	杯蓋	①(10.2) ②変径(13.0) ③3.4	回転ナブ後底部内面は回転ヘラケズリ、底部内面は当て具無しあり。	A 精製、砂粒を多く含む。 B 良好 C 内灰質N5/		1/3
第37図	72	3区周溝	杯蓋	①11.5 ②変径14.4	回転ナブ後底部外面はヘラケズリ。	A 精製、灰色砂粒を含む。 B 良好 C 内灰質M6/		口縁部2/3
第37図	73	3区周溝	杯蓋	①(14.0) ②変径(16.8)	回転ナブ後底部内面はナブ、底部外面はヘラケズリ、底面の杯蓋あり。	A 精製、灰色砂粒を多く含む。 B 良好 C 外灰質N5/～灰白2.517/1、内灰N3/1		1/2
第37図	74	3区周溝	高杯	①(7.2) ②7.8 ③脚部径(6.4)	杯蓋は回転ナブで、底部外面はヘラケズリ、体部外面には5条の注溝がある。脚部も内面とも回転ナブで、脚部端部を下方につまみ出している。	A 砂粒等を含む。精製。 B 良好 C 内灰質N3/～灰M10/1	有	杯蓋1/2・ 脚部1/2
第37図	75	3区周溝	高台付杯	①13.5 ②7.8 ③高台径9.0	回転ナブで、底部外面は回転ヘラケズリ、高台は高台付で、外反する。	A 精製、砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外灰質N3、内灰M6/		1/2
第38図	76	3区周溝	罐	①18.8 ②脚部径2.6 ③11.9 ④脚部最大径5.6	脚部の中位と底部間に注溝あり。口縁部は回転ナブ、脚部穿孔の中心に注溝あり。底部外面は回転ヘラケズリ。	A 砂粒等を含む。精製。 B 良好 C 外灰質N7.517/1		2/3
第38図	77	3区周溝	陶	①16.8 ②(8.3)	内面は回転ナブ後、底部外面は回転ナブ後回転ヘラケズリ、体部はナブ。体部の中ほどに二条の縁い注溝あり。	A 砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外灰質N5/～灰白2.517/1、内灰M6/		3/4
第38図	78	3区周溝	瓶	①19.7	脚部は短く、口縁端部は尖い。内外面とも回転ナブ。	A 精製、白色・灰色砂粒等を割合多く含む。 B 良好 C 外灰質N3/～灰N5/、内灰N5/～黄灰10107/1		口縁部1/4
第38図	79	3区周溝	長脚蓋	①(10.7) ②脚径(7.0)	口縁端部をやや水平に膝曲させる。口縁部の内外面とも回転ナブ。	A 精製、白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰質10106/1、内灰質2.516/1～黄灰9106/1		脚部2/3
第38図	80	基壇上層	杯蓋	①13.5 ②4.1	回転ナブ後底部外面は回転ヘラケズリ、底部内面はナブ。	A 砂粒等を含む。精製。 B 不良 C 外に白・黄質10107/2～7/4、内灰黄質10106/2	有	ほぼ完整
第38図	81	基壇上層	杯蓋	①11.4 ②3.6	回転ナブ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナブ。	A 白色砂粒等をごくわずかに含む。 B 不良 C 外灰質N1/～灰7.518/3、内灰質N3/	有	口縁部2/3
第38図	82	基壇上層	杯蓋	①12.1 ②3.25	回転ナブ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナブ。	A 砂粒等をわずかに含むが、精製。 B 不良 C 外灰質9106/1、内灰白N7.516/2	有	完整
第38図	83	基壇上層	杯蓋	①13.1 ②4.3	回転ナブ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナブ。	A 精製、灰色・黄色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内灰質9106/1		ほぼ完整
第38図	84	基壇上層	杯蓋	①13.9 ②4.2	回転ナブ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナブ。	A 精製、灰色砂粒等をごくわずかに含む。 B 良好 C 外灰質10102/1～灰N4/、内灰質10107/1		口縁部1/4
第38図	85	基壇上層	杯蓋	①12.5 ②3.9	回転ナブ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナブ。	A 砂粒等を含む。精製。 B 不良 C 内面に白・黄質10107/2～8/7.5187/8、外に白・黄質7.5187/4		ほぼ完整

様式 番号	建物 番号	階層 (出土地点)	種類	部材	法量 (m) ①口径 ②壁厚 ③底径 ④長さ ⑤最大径 ⑥() は既元	形態・技法	A:土質 B:焼成 C:色調	へら 番号	残存
第390	86	墓道土層	須恵器	杯蓋	①13.2 ②4.0	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 焼成、黒色焼砂等をわずかに含む。 B 良好 C 外厚灰395/1～灰白7,397/1、内厚灰395/1		ほぼ完全
第390	87	墓道土層	須恵器	杯蓋	①(12.9) ②3.7	同軸ナズ後外面は同軸ヘラケズリ。	A 焼成、白色・黒色焼砂等を多く含む。 B 良好 C 外厚灰395/1～灰396/1、内厚青灰395/1		1/3
第390	88	墓道土層	須恵器	杯蓋	①12.2 ②壁厚14.5 ③2.4 ④寸法幅2.7	口縁部内面に短くかき分け、天井部につきまみあり、同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 焼成、白色・灰色焼砂等を含む。 B 良好 C 外厚灰397/1～灰396/1、内厚青灰395/1	有	ほぼ完全
第390	89	墓道土層	須恵器	杯蓋	①16.9 ②受部径13.1 ③3.6	同軸ナズ後底部外面は同軸ヘラケズリ、底部内面はナズ。	A 焼成等を含まず焼成。 B 良好 C 外厚黄2,397/3、内にぶい焼2,397/4		受部1/2～ 墓道底面
第390	90	墓道土層	須恵器	杯蓋	①11.4 ②受部径13.6 ③3.3	同軸ナズ後底部外面は同軸ヘラケズリ、底部内面はハタ目状土具によるナズ。	A 焼成、黒色焼砂等をわずかに含む。 B 良好 C 外厚灰397/1～灰7,395/1(灰白)のみあり、内厚灰395/1		ほぼ完全
第390	91	墓道土層	須恵器	杯蓋	①11.2 ②受部径(13.1) ③3.9	同軸ナズ後底部外面は同軸ヘラケズリ、底部内面はナズ。	A 焼成等を含まず焼成。 B 不良 C 外厚黄焼1038/3、内にぶい黄焼1038/4	有	ほぼ完全
第390	92	墓道土層	須恵器	杯蓋	受部径13.6	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 焼成等を含まず焼成。 B 良好 C 外厚灰397/1～内にぶい黄焼1038/3、内にぶい黄焼1038/4		口縁部以外 完全
第390	93	墓道土層	須恵器	杯蓋	①16.6 ②受部径12.8 ③3.3	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 焼成等を含まず焼成。 B 良好 C 外厚灰397/1～内にぶい黄焼1038/3、内にぶい黄焼1038/4	有	ほぼ完全
第390	94	墓道土層	須恵器	杯蓋	①14.6 ②受部径14.65 ③3.6	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 焼成、灰色・黒色焼砂等をわずかに含む。 B 良好 C 外厚焼2,393/1～灰白2,397/1、内厚灰395/1		完整
第390	95	墓道土層	須恵器	杯蓋	①11.4 ②受部径13.5 ③3.35	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 焼成、白色・黒色焼砂等をわずかに含む。 B 良好 C 外厚灰395/1		ほぼ完全
第390	96	墓道土層	須恵器	杯蓋	①11.4 ②受部径13.5 ③3.5	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 焼成、灰色・黒色焼砂等をわずかに含む。 B 良好 C 外厚青灰394/1～灰白2,397/1、内厚青灰394/1		ほぼ完全
第390	97	墓道土層	須恵器	杯蓋	①12.3 ②受部径14.8 ③4.6	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 焼成、黒色焼砂等をわずかに含む。 B 良好 C 外厚2,393/3～灰396/1、内厚赤灰2,392/1～焼灰1038/4		ほぼ完全
第390	98	墓道土層	須恵器	短瓶	①6.9 ②口径3.8 ③18.9 ④胴部最大径13.75	胴部の側面から成型し、もう一方の側面が成型上の天井となり、内面を打て閉じる。その後、口部を取り付けるために胴部に穴を開けて、口部を取り付けている。肩部の小粒土塊が付く。胴部外面はカキ目、胴部内面は同軸ナズ。	A 焼成、砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外厚灰397/1～灰395/1、内厚灰397/1	有	3/4
第390	99	墓道土層	須恵器	高杯	①(26.4)	同軸ナズ後外面は同軸ヘラケズリ、内面はナズ。	A 焼成等をわずかに含む。 B 良好 C 外厚白397/1～焼灰1035/1、内厚白397/1		ほぼ1/4
第390	100	墓道土層	須恵器	杯	①(24.1)	同軸ナズ後外面は同軸ヘラケズリ、内面はナズ。	A 焼成、白色・灰色焼砂等をわずかに含む。 B 良好 C 外厚灰392/1～灰395/1、内厚灰396/1		1/3
第390	101	2次墓道	須恵器	杯蓋	①(13.5)	口縁部上縁部の割上、口縁部内面に沈着あり、同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 焼成、灰色・石質焼砂を含む。 B 良好 C 外厚青灰396/1		1/4
第390	102	2次墓道	須恵器	杯蓋	①12.6 ②4.3	口縁部内面に短くかき分けあり、同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 焼成、白色焼砂等を多く含む。 B 良好 C 外厚灰396/1	有	3/4
第390	103	2次墓道	須恵器	杯蓋	①12.4 ②3.4	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 焼成、白色・灰色焼砂を含む。 B 良好 C 外厚灰397/1～灰396/1、内厚灰396/1	有	ほぼ完全
第390	104	2次墓道	須恵器	杯蓋	①13.4 ②3.8	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 焼成、黒色焼砂等を多く含む、白色焼砂粒はわずかに含む。 B 良好 C 外厚灰1039/1、内厚灰396/1		ほぼ完全
第390	105	2次墓道	須恵器	杯蓋	①(12.1) ②3.9	内外面とも同軸ナズ、焼成不良。	A 焼成、砂粒等はほとんど含まない。 B 不良 C 外厚2,393/3、397/4		1/3
第390	106	2次墓道	須恵器	杯蓋	①(16.2) ②3.3	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 焼成、砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外厚白397/1～灰394/1、内厚灰396/1	有	天井部3/4～ 口縁部1/3

種別 番号	遺物 番号	遺構 (出土地点)	種類	図様	法量 (㎡) ①の柱 ②部高 ③部径 ④裏面寸法 ⑤最大径 等 () は補充	形態・技法	A : 胎土 B : 焼成 C : 色調	へら 番号	写真
第390	107	2次墓道	築墓跡	杯蓋	①(10.8)	回転ナズ後外面は回転ヘラケズリ、内面はナズ。	A 焼成、砂粒等含まない。 B 良好 C 外灰黒/～焼灰K3/、内灰N5/		口縁部1/2
第390	108	2次墓道	築墓跡	杯蓋	①11.1 ②部径13.45	回転ナズ後底部外面は回転ヘラケズリ、底部内面はナズ。	A 黒色砂粒を含む。 B 良好 C 外・焼灰K3/～灰M6/、内・青灰M7/		1/2
第390	109	2次墓道	築墓跡	杯蓋	①10.8 ②部径12.8 ③2.3	回転ナズ後底部外面は回転ヘラケズリ、底部内面はナズ。	A 白色顔料をわずかに含む。 B 良好 C 外・青灰M6/1～灰T.515/1、内・埋青M7/	有	ほぼ光彫
第390	110	2次墓道	築墓跡	杯蓋	①11.0 ②部径13.7 ③2.3	回転ナズ後底部外面は回転ヘラケズリ。	A 砂粒等をわずかに含む。 B 焼成 C 内・外灰M6/	有	ほぼ光彫
第390	111	2次墓道	築墓跡	杯蓋	①9.5 ②部径11.35 ③2.9	口縁部内面に小入りあり。回転ナズ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 焼成、灰色顔料等をわずかに含む。 B 不良 C 外・灰M6/1～にぶい赤焼M3/1、内・焼T.516/6		2/3
第390	112	2次墓道	築墓跡	杯蓋	①9.1 ②部径11.2 ③2.3	口縁部内面に小入りあり。回転ナズ後天井部外面はナズ。つまみか割削した痕や底部の面を三分した跡あり。	A 焼成、白色顔料等はほとんど含まず。黒目が多い。 B 不良 C 外・焼T.516/6、内・にぶい赤焼M3/1	有	3/4
第390	113	2次墓道	築墓跡	杯蓋	①9.4 ②部径11.4 ③2.2	回転ナズ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 焼成、白色顔料等をわずかに含む。 B 良好 C 外・灰M3/～灰N5/、内・灰N5/		3/4
第390	114	2次墓道	築墓跡	杯蓋	①10.7 ②3.4 ③5.9	回転ナズ後底部外面は回転ヘラケズリ、底部内面はナズ。	A 砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内・埋青灰M7/1～灰白T.517/1	有	2/3
第390	115	2次墓道	築墓跡	杯蓋	②部径(15.0)	回転ナズ後外面は回転ヘラケズリ、内面はナズ。	A 焼成、白色顔料等をわずかに含む。 B 良好 C 外・灰M6/1、内・灰M3/1		1/3
第390	116	2次墓道	築墓跡	杯蓋	①(12.9) ②部径(15.0)	回転ナズ後外面は回転ヘラケズリ、内面はナズ。	A 焼成、灰色・白色顔料を含む。 B やや不良 C 外・灰M6/1、内・灰M3/1		1/2
第390	117	2次墓道	築墓跡	杯蓋	①13.0 ②部径15.2 ③2.8 つまみ割削2.6	口縁部内面に小入りあり。天井部外面につまみあり。回転ナズ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 焼成、白色・灰色顔料をわずかに含む。 B 良好 C 内・埋青灰M5/1		光彫
第390	118	2次墓道	築墓跡	杯蓋	①12.0 ②部径14.9 ③2.1 つまみ割削2.4	口縁部内面に小入りあり。天井部外面につまみあり。回転ナズ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 焼成、白色顔料を多く含む。 B 良好 C 外・灰M3/、灰M4/	有	光彫
第390	119	2次墓道	築墓跡	杯蓋	①12.7 ②部径15.0 ③2.45	口縁部内面に削い小入りあり。天井部につまみあり。回転ナズ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 焼成、白色・灰色顔料を多く含む。 B 良好 C 内・外灰M5/		ほぼ光彫
第390	120	2次墓道	築墓跡	杯蓋	①(14.25) ②2.15 つまみ割削2.2	回転ナズ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 焼成、白色顔料等をわずかに含む。 B やや不良 C 外・灰M3/1～灰M5/1、内・灰白T.517/1～灰T.515/1		1/4
第390	121	2次墓道	築墓跡	杯蓋	①16.0 ②2.45 つまみ割削2.0	回転ナズ後外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内・外灰T.516/1		1/2
第390	122	2次墓道	築墓跡	杯蓋	①(15.5) ②2.2 つまみ割削2.5	回転ナズ後外面は回転ヘラケズリ、内面はナズ。	A 焼成、砂粒等をわずかに含む。 B やや不良 C 外・灰M6/、内・灰M3/1		1/3
第400	123	2次墓道	築墓跡	杯蓋	①15.3 ②部径17.9 ③2.9	口縁部内面に削い小入りあり。天井部につまみあり。回転ナズ後天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 白色顔料・石膏質砂粒を含む。 B 良好 C 外・にぶい・灰T.516/3～灰オリーブM5/2、内・灰オリーブM5/2		光彫
第400	124	2次墓道	築墓跡	杯蓋	①16.2 ②2.5 つまみ割削2.6	回転ナズ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 焼成、灰色顔料を含む。 B 良好 C 外・埋青M6/1～灰N5/、内・灰T.516/1		3/4
第400	125	2次墓道	築墓跡	杯蓋	①(22.8) ③2.35	回転ナズ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 焼成、灰色・黒色顔料等をわずかに含む。 B やや不良 C 内・外灰M7/		天井部 口縁部 口縁部1/6
第400	126	2次墓道	築墓跡	高台付 杯	①11.1 ②4.0 実(8.9)	回転ナズ後底部外面は回転ヘラケズリ、底部内面はナズ。	A 砂粒等を含まず焼成。 B 不良 C 外・焼T.516/6～にぶい・焼T.516/6、内・焼T.516/7		底部完全一 体部1/2
第400	127	2次墓道	築墓跡	高台付 杯	①13.5 ②4.7 ③2.2	内外面とも回転ナズ。	A 砂粒等を含まず焼成。 B 良好 C 外・灰M5.5/～灰M6/、内・埋青灰M7/	有	光彫
第400	128	2次墓道	築墓跡	高台付 杯	①16.2 ②4.7 ③1.1	回転ナズ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 焼成、砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内・外灰M6/1		光彫
第400	129	2次墓道	築墓跡	高台付 杯	①14.0 ②4.65 ③2.5	回転ナズ後天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 焼成、白色顔料等をわずかに含む。 B 良好 C 外・灰M6/～埋青M3/、内・青灰M7/		光彫

詳細番号	遺構(出土地点)	種類	跡形	法量(m) ①口縁径 ②底径 ③最大径 ④最大径差()は取元	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:土色調	へら記号	残存
第000	130	2次墓道	高台付杯	①14.0 ②4.7 ③9.2	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 白砂粒等を含む良好。 B 良く精緻。 C 内外灰N5/		完形
第000	131	2次墓道	高台付杯	①13.6 ②4.7 ③9.1	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 白砂粒、雲母片等を含むが、精緻良好。 C 内外灰7.536/1		完形
第000	132	2次墓道	高台付杯	①13.9 ②4.4 ③9.0	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 白砂粒等含まず精緻。 B 良好 C 内外灰3955/1		完形
第000	133	2次墓道	高台付杯	①(14.0) ②4.1 ③(9.7)	同軸ナズ後外面は同軸ヘラケズリ、内面はナズ。	A 砂粒等含まず精緻。 B 良好 C 内外灰7.537/1、内外灰7.536/1		1/2
第000	134	2次墓道	高台付杯	①14.6 ②5.4 ③11.0	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 雲母粒等をわずかに含むが精緻。 B 不良 C 内外灰(7.537/1)		ほぼ完形
第000	135	2次墓道	高杯	①12.8 受埋深14.55 ②9.3 ③脚部径程(14.0)	杯部は同軸ナズ後、底面外面は同軸ヘラケズリ、口縁と杯部間に段を含む。杯部と底面に泥状の泥がある。この泥状の泥の上に刷文を施す。脚部上面は方形目、2方向に透かし孔あり。	A 精緻、白色・灰色砂粒を多く含む。 B 良好 C 外周灰N3/～内灰10984/1、内(杯)灰10985/1(脚)灰10984/1	有	ほぼ完形
第000	136	2次墓道	高杯	①12.4 ②12.75 ③脚部径程10.1	杯部は内外面とも同軸ナズ。杯部と底部の基部部分に泥状の泥がある。脚部上面は方形目、2方向に透かし孔あり。	A 灰色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外周灰7.536/1、内(杯)灰10985/1(脚)灰10985/1		ほぼ完形
第000	137	2次墓道	高杯	①(11.75)	高杯の脚部、内外面とも同軸ナズ。外面には泥あり。脚部は外反し下方に小さくつまみ出す。	A 白砂粒をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外灰N3/～灰M6/ (脚部内面M6)		1/2
第000	138	2次墓道	高杯	①12.8 ②16.85 ③脚部径程12.5	高杯の脚部、内外面とも同軸ナズ。外面には泥あり。脚部は外反し下方に小さくつまみ出す。	A 灰色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外灰3955/1～青灰3955/1、内(杯)灰10980/2～10981/2(脚)灰M6/		ほぼ完形
第000	139	2次墓道	高杯	③脚部径程(11.8)	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 砂粒含まず精緻。 B 良好 C 内外灰M/～灰N4/、内外灰2.536/1		1/3
第000	140	2次墓道	高杯	③脚部径程(11.15)	同軸ナズ後外面は同軸ヘラケズリ、内面はナズ。	A 精緻、灰色砂粒等を含む。 B 良好 C 内外灰8.7/～内外灰N2/、内外灰N3/		1/3
第000	141	2次墓道	皿	脚部径3.7	口縁部は同軸ナズで中心には泥の泥があり、泥の上に透かし孔あり。脚部上面は方形目、底面は同軸ヘラケズリ後ナズである。脚部上面に内側の泥を施して整形する。口縁部を取り上げている。脚部上面には粘土の小塊を2ヶ所埋め付けている。	A 白砂粒等をわずかに含むが精緻。 C 内外灰(12.537/1)	口縁部径を測る 脚部径を測る	ほぼ完形
第000	142	2次墓道	台付輪		口縁部が外反し口縁部が断面三角形となる。脚部最大径は脚部上面より、後脚部は内外面とも同軸ナズ。脚部外面は方形目を施す。脚部内面は同軸ナズで、底面内面は同軸ナズである。	A 砂粒等含まず精緻。 B やや不良 C 外灰N2/、内(杯)灰N5/ (脚)灰N2/		1/3
第000	143	2次墓道	平碗	①9.1 ②13.8 ③脚部最大径15.6	口縁部は短く直立し、脚部は扁平で最大径が中心にある。内外面とも同軸ナズで、底面外面はナズ。	A 精緻、白色・灰色砂粒や、石膏質砂粒等を含む。 B 良好 C 内外灰N5/	有	ほぼ完形
第000	144	2次墓道	甕	①12.6 ②4.6 ③脚部最大径10.0	脚部外面は同軸ナズで、脚部上面は方形目を施し泥あり。底面内面は同軸ナズ。	A 白砂粒等をわずかに含む。 B やや不良 C 内外灰7.537/1～一灰N5/、内外灰M6/	有	ほぼ完形
第000	145	2次墓道	小壺	①7.2 ②4.6 ③脚部最大径9.6	同軸ナズ後外面は同軸ヘラケズリ、内面はナズ。	A 白砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外灰7.536/1～7.537/1、内外灰7.535/1		ほぼ完形
第000	146	2次墓道	壺	①5.6 ②脚部最大径12.6	杯部は内外面とも同軸ナズ後、底面外面は同軸ヘラケズリ。底面内面はナズ。脚部は内外面とも同軸ナズ。脚部最大径は脚部上面より、後脚部は内外面とも同軸ナズ。脚部上面は方形目を施す。脚部内面は同軸ナズで、底面内面は同軸ナズである。	A 精緻、灰色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外灰 白397/1～灰395/1、内外灰7.536/1	有	下半部はほぼ完形～杯部1/4
第000	147	2次墓道	罐鉢	①6.7 ②底部(脚部)10.8 上部平部径程6.9	同軸ナズ後外面は同軸ヘラケズリ、内面はナズ。	A 精緻、灰色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外灰N2/～灰M6/、内外灰N3/		ほぼ完形
第000	148	2次墓道	高杯	①(14.0) ③脚部径程(10.0)	同軸ナズ後外面は同軸ヘラケズリ、内面はナズ。	A 白砂粒等をわずかに含む。 B 不良 C 内外7.537/1		1/5
第000	149	2次墓道	皿	①(28.0) ②4.4 ③21.4	径が大きい高杯。杯部は内外面とも同軸ナズ後、底面外面は同軸ヘラケズリ。脚部は内外面とも同軸ナズ。反折ののり具合から杯部を下にして使ったと推測される。	A 精緻、黒砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外灰7.537/6、内外灰2.537/2	底面はほぼ完形～口縁部一部	
第000	150	2次墓道	甕	ツマミ径程2.4	杯部は内外面とも同軸ナズ。杯部と底部の基部部分に泥状の泥がある。底面外面は同軸ヘラケズリ、脚部中心には泥の泥がある。脚部上面は方形目、2方向に透かし孔あり。脚部上面には透かし孔あり。	A 砂粒等をほとんど含まない。 B やや不良 C 内外灰(7.537/1)、内外灰397/1		ツマミ部はほぼ完形～天井部ナズ
第000	151	2次墓道	土師器	①(15.2)	同軸ナズ後天井部外面は同軸ヘラケズリ、天井部内面はナズ。	A 白砂粒等を含む。 B 良好 C 外周灰10984/1～内(杯)灰10986/1、内灰10984/1		1/4

種類 番号	遺物 番号	遺構 (出土位置)	種類	詳細	法量 (cm) ①の径 ②部高 ③底径 ④溝内径 ⑤最大径 (※) 注記	形態・技法	A: 胎土 B: 焼成 C: 色調	へ ろ び 号	残存
第01号	152	3区墳丘	瓶蓋部	杯蓋	①(14.2) ②4.5	回転ナブ後天井部外面は鈔刷ヘラケズリ、天井部内面はナブ。	A 白色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外灰NS/		1/3
第01号	153	3区墳丘	瓶蓋部	杯蓋	受器径(14.6)	回転ナブ後天井部外面は鈔刷ヘラケズリ、天井部内面はナブ。	A 砂粒等含まず精緻。 B 良好 C 内外灰NS、内灰M/		1/30
第01号	154	3区墳丘	瓶蓋部	高杯	①(10.4)	回転ナブ後天井部外面は鈔刷ヘラケズリ、天井部内面はナブ。	A 砂粒等含まず精緻。 B 中や不良 C 内外灰NS/	有	1/4
第01号	155	2区墳丘	瓶蓋部	蓋	①(12.4) ②1.65	回転ナブ後天井部外面は鈔刷ヘラケズリ、天井部内面はナブ。	A 砂粒等含まず精緻。 B 良好 C 外灰2.512/1～灰白2.517/1、内黒7.513/1～黒灰7.515/1		1/2
第01号	156	2区墳丘	瓶蓋部	平底	③胴部最大径(15.0)	回転ナブ後天井部外面は鈔刷ヘラケズリ、天井部内面はナブ。	A 砂粒等を含む。 B 良好 C 内外灰NS/	胴部1/3～ 口縁部2/3	
第02号	157	4区墳丘	瓶蓋部	高杯	③胴部最大径(18.2)	回転ナブ後天井部外面は鈔刷ヘラケズリ、天井部内面はナブ。	A 灰色・黒色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外青灰382/1、内青灰396/1～灰白372	胴部の一部	
第02号	158	4区墳丘	瓶蓋部	大甕	③胴部最大径(39.6) ④胴径(17.8)	回転ナブ後天井部外面は鈔刷ヘラケズリ、天井部内面はナブ。	A 砂粒等含まず精緻。 B 中や不良 C 内外灰NS、内灰M/	胴部1/4	
第02号	159	盗掘坑	瓶蓋部	杯蓋	①(2.4) ②0.1	回転ナブ後天井部外面は鈔刷ヘラケズリ、天井部内面はナブ。	A 内外砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外埴灰NS/	有	口縁部1/2
第02号	160	盗掘坑	瓶蓋部	甕	①(22.7)	回転ナブ後天井部外面は鈔刷ヘラケズリ、天井部内面はナブ。	A 灰色・石質質砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外埴灰NS/～灰M/		口縁部1/4
5号墳									
第03号	1	去室	瓶蓋部	杯蓋	①R.2 受器径10.25 ②2.4	回転ナブ後天井部外面は鈔刷ヘラケズリ。	A 白色砂粒等を含む粗製の胎土。 B 不良 C 外青灰3925/1～灰白315/1、内灰7.317/1～灰白7.317/1	有	完形
第03号	2	去室	瓶蓋部	杯蓋	①R.2 受器径10.75 ②2.2	回転ナブ後天井部外面は鈔刷ヘラケズリ。	A 白色砂粒等を含み、粗製。 B 非常に多い。 C 内外埴灰565/1～572.596/1	有	完形
第03号	3	去室	瓶蓋部	杯蓋	①10.0 ②3.3	回転ナブ後天井部外面は鈔刷ヘラケズリ後ナブ、 体部中位のやや下に注線1条あり。	A 白色・灰色砂粒等を含み、粗製。 B 中や不良 C 外青灰3925/1～灰白317/1、内灰7.317/1～灰白7.317/1	有	完形
第03号	4	去室	瓶蓋部	杯蓋	①R.4 ②3.5	回転ナブ後天井部外面は鈔刷ヘラケズリ。	A 白色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 不良 C 内外灰1.538/2～にぶい黄褐色10165/1		完形
第03号	5	1区周溝	瓶蓋部	杯蓋	①(10.4) 受器径(12.3) ②3.4	回転ナブ後天井部外面は鈔刷ヘラケズリ。	A 精緻。白色・灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 内外黒地10193/1	有	1/2
第03号	6	1区周溝	瓶蓋部	平底	①R.1 ②(11.9) ③胴部最大径14.4	胴部は鈔刷ナブ後天井部外面は鈔刷ヘラケズリで、 底部から胴部にかけてかき目を施す。胴部 上辺は打板を傾けて削いた後、次を削いで 口縁部を取り付けている。胴部内外面の一部 に自然跡付。	A 精緻。白色・灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 内外埴灰10193/1	有	口縁部～ 底部3/4
第03号	7	1区周溝	瓶蓋部	甕	①(11.4) ②胴径5.2 ③(4.5) ④胴部最大径9.8	胴部は鈔刷ナブ後鈔刷ヘラケズリ。胴部穿孔の 上下に注線を施し、この間に刺突あり。 口縁部は鈔刷ナブ。口縁部下の底部部に1条、 その下部に2条の注線あり。	A 白色・灰色・黒色砂粒等を含むが精緻。 B 良好 C 内外灰NS/～灰白1.517/1	有	胴部完形 全体の4/5
第03号	8	1区周溝	瓶蓋部	短頸甕	①(9.75) ②(15.4) ③胴部最大径19.65	口縁部は鈔刷ナブで、直立に京上り口縁部 がやや外傾する。胴部下半から底部は鈔刷ヘ ラケズリで胴部上半は鈔刷ナブ後ナブ。胴部 上半に2条注線あり。内面は頤～肩部と底部 に自然跡あり。	A 白色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外埴灰NS/～灰M/、内灰NS/		口縁部1/2 ～体部1/3
第03号	9	1区周溝	瓶蓋部	甕	①(9.2)	回転ナブ。	A 白色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外灰NS/～灰7.515/1	有	口縁部1/2 ～肩部ほぼ 完形か?
第03号	10	1区周溝	瓶蓋部	甕	③胴部最大径13.1	胴部下半は鈔刷ヘラケズリ後、静止ヘラケズリ、 上半は鈔刷ナブ。	A 白色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外灰NS/～灰7.515/1		肩部3/4～ 底部完形
第03号	11	2区周溝	瓶蓋部	杯蓋	①(2.7) ②0.85	回転ナブ後天井部外面は鈔刷ヘラケズリ、内面天井部 には当て具あり。外面の口縁部と体部の境 に注線1条あり。	A 白色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外灰2.314/1～灰白7.317/1、内灰 314/1～灰白317/1		3/4
第03号	12	2区周溝	瓶蓋部	杯蓋	①(11.8) 受器径14.0 ②3.25	回転ナブ後天井部外面は鈔刷ヘラケズリ。底部 内面は鈔刷ナブ後ナブ。	A 白色・灰色・黒色砂粒等をわずかに含む が精緻。 B 良好 C 内外灰M/ 埴部埴灰NS/	有	3/4

様式 番号	遺物 番号	遺構 (出土地点)	種類	跡形	法量 (m) ①口径 ②壁厚 ③底径 ④高さ ⑤最大径 ⑥() は復元	形態・技法	A:土質 B:焼成 C:色調	ヘラ 記号	残存
第49回	13	2区周溝	須置器	陶	①38.8 ②6.7 ③4.0	同軸ナズ後底部外面は静止ヘラケズリ。底部内面は同軸ナズ後ナズ。	A 緑織。白色・黒色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外周反N3/～反黄2.536/2。内周背反1086/1		ほぼ完全
第49回	14	2区周溝	須置器	甕	①(13.0) ②解部最大径17.6	口縁部から胴部上半は同軸ナズ。胴部下半外面は平行タタキ目。内面は同心円タタキ目。	A 白色・黒色微砂粒等を含むが精緻。 B 不良 C 内面にぶい黄2.536/3		口縁部1/2と胴部1/4程度
第49回	15	3区周溝	須置器	杯蓋	①(11.4) ②3.6	同軸ナズ後。天井部外面は同軸ヘラケズリ。内面は同軸ナズ後。ナズ。	A 灰色・黒色微砂粒等を含むが精緻。 B 不良 C 内外黄2.536/3		1/2
第49回	16	3区周溝	須置器	杯身	①(16.9) ②変形径(12.6) ③3.5	同軸ナズ後。底部外面は同軸ヘラケズリ。内面は同軸ナズ後。ナズ。	A 白色・灰色微砂粒等を含むが精緻。 B 不良 C 内外黄2.536/3		2/3
第49回	17	3区周溝	須置器	杯身	①(16.8) ②変形径(12.8) ③4.2	同軸ナズ後。底部外面は同軸ヘラケズリ。内面は同軸ナズ後。ナズ。	A 白色・灰色微砂粒等を含むが精緻。 B 不良 C 内外反白2.536/2		ほぼ完全
第49回	18	3区周溝	須置器	杯身	①(16.0) ②変形径12.0 ③3.5	同軸ナズ後。底部外面は同軸ヘラケズリ。内面は同軸ナズ後。ナズ。	A 白色・灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外周 黒2.537/2～ぶい黄 黒1030/3。内周背反1086/1		ほぼ完全
第49回	19	3区周溝	須置器	杯身	①(16.2) ②変形径12.2 ③3.3	同軸ナズ後。底部外面は同軸ヘラケズリ。内面は同軸ナズ後。ナズ。	A 白色・灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 内外黄黒1032/1～黒反1038/1		口縁部1/2とその他残存
第49回	20	3区周溝	須置器	罐	①(11.6) ②15.4 ③3.6 ④解部最大径8.4	胴部は同軸ナズ後同軸ヘラケズリ。胴部上半に双線を巻き廻し、この部は敷文あり。口縁部は同軸ナズ後タタキ目あり。口縁部下の頸部曲に段を有す。	A 砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外反N3/～黒反N3/		口縁部1/12とその他残存
第49回	21	3区周溝	須置器	短頸甕	①(9.40) ②8.6 ③7.5 ④解部最大径12.0	同軸ナズ後。底部外面は粗いヘラコ。胴部にはタタキ目を施す。	A 白色砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 不良 C 内外反黒2/～反536/1		ほぼ完全
第49回	22	3区周溝	須置器	短頸甕	①(7.3) ②7.0 ③6.5 ④解部最大径13.2	同軸ナズ後。底部外面は粗いヘラコ。胴部にはタタキ目を施す。胴部上半に2条状溝あり。底部の内面は反ぶらあり。	A 灰色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内外黄黒2.537/3～黄黒2.536/1		口縁部1/3とその他残存
第49回	23	3区周溝	須置器	模範	①13.4 ②31.5 ③解部最大径(39.0) ④解部最大径(解部蓋)27.1	口縁部は同軸ナズで外周立ちあがり。胴部内面には筋溝あり。胴部外面は平行タタキ目後ナズ目。内面は同心円タタキ目である。縦長に成形後、胴部中央に口縁部を貫り付けている。	A 砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内外黄黒1.537/1～反N4/。内反N5/		2/3
第49回	24	3区周溝	須置器	甕	①(8.4) ②8.30 ③5.8 ④解部最大径11.9	口縁部は同軸ナズで。直立部みに立ち上がる。胴部から底辺にかけては同軸ナズ後。胴部下半は同軸ヘラケズリ。底部外面は静止ヘラケズリ。胴部上手外面はタタキ目を施す。	A 微砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外黄黒2.537/3～黄黒2.536/1		3/4
第49回	25	3区周溝	須置器	甕	①18.0	内外面とも同軸ナズ。胴部外面に筋がありヘラ記号あり。	A 砂粒・黒色微砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外反黄2.537/2		口縁部完全
第49回	26	3区周溝	須置器	甕	①(14.6) ②21.0 ③解部最大径(20.4)	口縁部は胴部から直線的に立ち上り中央で外反し。胴部は平坦である。胴部は胴部から底部にかけての外周は平行タタキ目後。部分的にタタキ目を施す。内面は同心円タタキ目あり。胴部上半外面はタタキ目。内面は同軸ナズである。ヘラ記号は口縁部内面と胴部上半外面の2ヶ所にある。	A 砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 外周反N3/～反M6/。内反N4/～反M7/		1/2
第49回	27	3区周溝	須置器	大甕	①35.8 ②66.5 ③解部最大径52.2	口縁部は外反し立ち上がる。口縁部下と胴部中央に2条の筋溝あり。上半には筋溝と、下半にはタタキ目あり。胴部は上段に最大径がある。外面は平行タタキ目。内面は同心円タタキ目である。口縁部内外面に3本を単位とするヘラ記号がある。	A 砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外背反955/1～反M6/		3/4
第49回	28	3区周溝	須置器	杯蓋	①(16.7) ②変形径(12.6) ③3.3	同軸ナズ後。天井部外面は同軸ヘラケズリ。内面は同軸ナズ後。ナズ。	A 灰色・黒色微砂粒等を含むが精緻。 B 不良 C 内外にぶい黄背反1030/3		口縁部1/4～天井部はほぼ完全
第49回	29	3区周溝	須置器	杯身	①(12.0) ②変形径14.0 ③3.4	同軸ナズ後。底部外面は同軸ヘラケズリ。内面はナズ。	A 白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外周反N3/～反白537/1。内背反1055/1		ほぼ完全
第49回	30	3区周溝	須置器	杯身	①(10.2) ②変形径12.4 ③3.3	同軸ナズ後。底部外面は同軸ヘラケズリ。内面はナズ。	A 砂粒等を含まず精緻。 B 不良 C 内外反黄2.536/2～反白2.536/2		1/2
第49回	31	3区周溝	須置器	杯身	①(11.2) ②変形径(12.8) ③3.65	同軸ナズ後。底部外面は同軸ヘラケズリ。内面はナズ。	A 灰色・黒色微砂粒等を含むが精緻。 B 不良 C 内外黄黒2.537/3～反白2.537/1		2/3
第49回	32	3区周溝	須置器	杯身	①(11.2) ②変形径13.8 ③4.2	同軸ナズ後。底部外面は同軸ヘラケズリ。内面はナズ。	A 砂粒等を多く含む。 B 良好 C 外反M6/。内反N5/		口縁部1/4とその他残存
第49回	33	3区周溝	須置器	杯身	①(11.1) ②変形径(13.4) ③3.8	同軸ナズ後。底部外面は同軸ヘラケズリ。内面はナズ。	A 砂粒等をわずかに含むが精緻。 B 良好 C 内外背反955/1～反16/1		1/3
第49回	34	3区周溝	須置器	杯身	①(16.0) ②変形径12.0 ③3.3	同軸ナズ後。底部外面は同軸ヘラケズリ。内面はナズ。	A 砂粒等を含まず精緻。 B 不良 C 内外黄2.536/3		ほぼ完全

種別 番号	遺物 番号 (出土地点)	種類	図様	寸法 (cm) ①の付 空部高 ②或は ③の付 最大径 ④最大径 () は概算	形態・技法	A : 胎土 B : 焼成 C : 色調	へら 番号	残存
第50図	35	3区周溝	杯身	受部径(12.4)	回転ナブ後、底面外面は回転ヘラケズリ、内面はナブ。	A 灰色・黒色顔料等を多量含む精練。 B 不良 C 内外灰白2.537/2	有	1/4
第51図	36	3区周溝	大甕	①23.0 ②4.6 ③胴部最大径12.2	口縁部が外反し立ち上がる。口縁部下と口縁部の中央に2条の沈線あり、上半には斜線文あり。胴部は上段に最大径がある。外面は平行タタキ目、内面は同心円タタキ目である。口縁部の内外面にヘラ起しがみられる。	A 砂粒等を多量含む精練。 B 良好 C 内外灰2.516/3	有	口縁部1/2～ 胴部以外は ほぼ完全
第52図	37	4区周溝	杯蓋	①(13.2) ②3.2	回転ナブ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナブ。	A 精練。微砂粒を多く含む。 B 不良 C 内外灰白2.538/2	有	1/6
第53図	38	4区周溝	杯蓋	①(13.2) ②4.1	回転ナブ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナブ。	A 精練。砂粒・微砂粒をわずかに含む。 B 不良 C 外灰白2.538/2～灰黒2.537/2、内灰白3.57/2	有	口縁部1/5～ 天井部1/2
第54図	39	4区周溝	杯身	①(11.2) ②底径(12.3) ③4.0	回転ナブ後、底面外面は回転ヘラケズリ、内面はナブ。	A 精練。白色砂粒・黒色顔料をわずかに含む。 B 良好 C 外灰 1016/1～1015/1、内青 灰 376/1	有	底面1/4 口縁部一部
第55図	40	4区周溝	杯身	①(11.60) ②受部径(13.15) ③(3.7)	回転ナブ後、底面外面は回転ヘラケズリ、内面はナブ。	A 砂粒等を多量含む。 B 良好 C 外灰黒/～まだら灰に焼成X3/、内灰黒/	有	底面1/4～ 口縁部一部
第56図	41	4区周溝	杯身	①(11.6) ②受部径(13.2)	回転ナブ後、底面外面は回転ヘラケズリ、内面はナブ。	A 砂粒等を多量含む。 B 良好 C 外灰黒/～まだら灰に焼成X3/、内灰黒/	有	受部1/5
第57図	42	4区周溝	杯身	①(10.2) ②受部径(13.2) ③2.35	回転ナブ後、底面外面は回転ヘラケズリ、内面はナブ。	A 精練。砂粒・微砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰376/1、内灰375/1	有	1/6
第58図	43	4区周溝	盃	胴部径(5.3) ③胴部最大径(11.4)	胴部外面には3条の沈線あり。胴部中央にはハケ目のような調整痕があり、胴部上段にはタタキ目あり。胴部下平外面は、回転ヘラケズリ。	A 白色・灰色顔料等を多量含む精練。 B 良好 C 外灰黒2.538/2～灰黒2.537/2、内青灰 376/1	有	1/4
第59図	44	周溝	杯蓋	①31.8 ②3.65	回転ナブ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ナブ。	A 白色砂粒等をわずかに含む。粗製。 B 不良 C 外灰黒2.538/2～灰白2.538/2、内灰黒2.537/2	有	完整
第60図	45	周溝	大甕	①(22.6) ②胴部径(17.2)	口縁部が短いが外反し立ちあがる。口縁部下段に1条の三角突線をもつ。突線は全体的に欠けを伴った、一部センターなものである。調整痕、組め方ハケ目での後に胴部30ナブである。胴部外面は胴部に最大径部付近までは平行タタキ目で、底面は平行タタキ目の地タタキ目を施し、最終的にはナブである。内面は同心円タタキ目である。	A 白色砂粒等を多量含む。粗製。 B 不良 C 外灰黒X3/～灰黒、内灰黒2～灰黒6/	有	口縁部1/2 ～7
第61図	46	墓道	杯蓋	①(2.6) ②3.8	回転ナブ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナブ。	A 灰色・白色砂粒を多く含む。 B 不良 C 外灰黒10163/1～灰黒6/、内青灰 7.334/1	有	口縁部1/4 ～底面 ほぼ完全
第62図	47	墓道上層	杯蓋	①(9.7) ②受部径(11.8) ③2.1	回転ナブ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナブ。	A 精練。白色砂粒・微砂粒を多く含む。 B 不良 C 外灰灰黒2.534/2、内灰 7.335/1	有	口縁部1/4
第63図	48	墓道上層	杯蓋	①(6.8) ②受部径(12.05) ③3.15	回転ナブ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナブ。	A 精練。わずかに砂粒を含む。 B 不良 C 外灰黒1.377/2～白.51.黄 2.536/3、内灰黒2.537/3	有	1/3
第64図	49	墓道上層	杯身	①(12.6) ②受部径(15.2) ③2.2	回転ナブ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナブ。	A 砂粒を含まず精練。 B 良好 C 外灰1016/、内灰黒/	有	1/4
第65図	50	墓道上層	杯身	①(11.0) ②受部径(12.8) ③3.9	回転ナブ後、底面外面は回転ヘラケズリ、内面はナブ。	A 砂粒を多く含む。 B 良好 C 外灰白337/1～灰黒3/、内灰黒3/	有	口縁部3/4
第66図	51	墓道上層	杯身	①(11.0) ②受部径(13.0) ③4.65	回転ナブ後、底面外面は回転ヘラケズリ、内面はナブ。	A 砂粒・微砂粒を含む。 B 良好 C 外灰黒10163/1～青灰376/1、内灰黒10163/1	有	2/3
第67図	52	墓道上層	土師製 甕	④(7.0)	摩滅により調整不明。	A 砂粒を含まず精練。 B 不良 C 外灰黒376/6、内灰 5.377/6	有	底面、 肩部1/2
第68図	53	墓道中層	杯蓋	①(11.6) ②3.8	回転ナブ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナブ。	A 白色砂粒を多く含む。 B やや不良 C 内外灰オリーブ335/2	有	口縁部1/2 ～体部2/3
第69図	54	墓道中層	杯蓋	①(10.0) ②受部径(12.2) ③(4.5)	回転ナブ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面はナブ。	A 砂粒をあまり含まず精練。 B 不良 C 内外灰白2.538/2	有	口縁部1/9～ 天井部2/3
第70図	55	墓道中層	短脚盆	①(5.1) ②(5.8) ③胴部最大径 10.5	口縁部が直行し、胴部上半に2条の沈線あり。胴部中央のやや下に最大径がある。調整痕は回転ナブで、底面外面は回転ヘラケズリ、胴部外面はタタキ目を施す。	A 砂粒等は含まれず精練。 B 良好 C 外灰黒X3/～灰黒6/、内灰黒6/	有	口縁部3/4 胴部完全

様式番号	建物番号	名称(出土地点)	種類	部材	法量 (㎡) ①口縁立脚高 ②底径 ③高さ ④最大径 ⑤()は既元	形態・技法	A: 胎土 B: 焼成 C: 色調	ヘラ記号	残存
第5200	56	基壇中層	須恵器	大塚	①33.6 ②33.3 ③脚高最大径47.9	口縁部は直線的に内径する大壺。口縁下の外面に2条の二角形の交差と口縁部の中央に2条の沈線あり。口縁部外面は縦筋毛施。工具による刻痕ナシ。沈線より上段には斜線文を施す。頸部は平土に最大径部があり、外面は平直タタキ目。内面は同心円タタキ目である。頸部上平外面は、平行タタキ目後、横方向のタタキ目を施している。	A 胎色は少なく精製。 B 中々不良 C 内外灰白577/1～灰555/1		底面以外ほぼ完存
第5200	57	基壇中層	須恵器	杯蓋	①11.4 ②3.6	回転ナシ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。内面はナシ。	A 精製。白色砂粒等を多く含む。 B 中々不良 C 内外灰1031/1。内灰334/1		2/3
第5200	58	基壇中層	須恵器	杯蓋	①11.0 ②3.6	回転ナシ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。内面はナシ。	A 精製。白色砂粒等を多く含む。 B 中々不良 C 外灰1031/1。内灰1035/1		3/4
第5200	59	基壇中層	須恵器	杯蓋	①11.4 ②3.65	回転ナシ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。内面はナシ。	A 精製。灰色・黒色砂粒等を多く含む。 B 中々不良 C 外灰1031/1。内灰1035/1		ほぼ完形
第5200	60	基壇中層	須恵器	杯蓋	①11.4 ②3.5	回転ナシ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。内面はナシ。	A 砂粒をわずかに含むが精製。 B 不良 C 外に555/2、556/3。内灰2. 557/2	有	1/2
第5200	61	基壇下層	須恵器	坪蓋	①(11.5) ②3.6	回転ナシ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。内面はナシ。	A 黒色砂粒を含む。 B 不良 C 内外黄灰2. 557/4		口縁部1/4～天井部ほぼ完存
第5200	62	基壇	須恵器	高杯	①12.4 受部径5.0 ③5.7 ④脚高14.4	杯蓋は回転ナシ後、底部外面は回転ヘラケズリ。内面はナシ。脚部は三方の2段溝を以て、透かしの際には2条の沈線がある。	A 精製。白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 内外灰55/1～56/1		杯蓋1/4～脚部2/3
第5200	63	基壇	土師器	高杯	杯・脚高合計13.2	脚部上手のみ残存する。外面は縦方向のミゴキナシ。	A 白色砂粒をごくわずかに含むが精製。 B 不良 C 内外灰537/8		脚部片
第5200	64	基壇	須恵器	皮袋形土師器	①6.3～6.7 ②11.4 脚部径3.2～3.7 底部径15.0±a	3.5cmの長さの口縁部を有し、体部は皮袋形である。口縁部は回転ナシ後、中に2条の沈線を描いている。体部の脚部には断面に1条、中に2条の沈線を描し、断面付近には貫通した径3mm程度の円形の孔が3ヶ所あり。本底は4ヶ所であったと考えられるが、4個目の箇所は破損している。脚部と1条の沈線の間は回転ヘラケズリ後になすで、1条・2条の沈線の間と2条の沈線の下部は1回転ナシで、その後で工具による縦線を描き2～3mm程度の円形の彫刻文を施している。	A 白色砂粒等をわずかに含むが精製。 B 良好 C 内外黄灰532/1～灰黒505/2～灰黄2. 537/2		ほぼ完形
第5300	65	1区墳丘(東上下)	須恵器	杯蓋	①16.8 受部径13.4 ②3.8	回転ナシ後、底部外面は回転ヘラケズリ。内面はナシ。	A 胎色をわずかに含むが精製。 B 良好 C 内外灰36/1	有	ほぼ完形
第5300	66	1区墳丘(東上下)	須恵器	杯蓋	①(12.0) 受部径(14.0) ②2.85	回転ナシ後、底部外面は回転ヘラケズリ。内面はナシ。	A 精製。白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外青灰396/1～灰2. 536/1。内青灰395/1		1/4
第5300	67	1区墳丘(東上下)	須恵器	杯蓋	①11.9 受部径14.25 ②3.3	回転ナシ後、底部外面は回転ヘラケズリ。内面はナシ。	A 胎色をわずかに含むが精製。 B 良好 C 外青灰396/1～青黒522/1。内青灰395/1		1/2
第5300	68	1区墳丘(臨阪坑)	須恵器	杯蓋	①(13.2) ②3.65	回転ナシ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精製。砂粒・黒砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外黒52/1～黄灰2. 536/1。内灰36/1		口縁部1/4その他完存
第5300	69	1区墳丘(臨阪坑)	須恵器	杯蓋	①(13.65) ②3.65	回転ナシ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精製。砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外黒52/1～灰535/1。内灰36/1		口縁部1/4～底面完形
第5300	70	1区墳丘(臨阪坑)	須恵器	杯蓋	①13.6 ②3.5	回転ナシ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 胎色なく精製。 B 良好 C 外灰53/1～灰56/1。内灰55/1		2/3
第5300	71	1区墳丘(臨阪坑)	須恵器	杯蓋	①(14.5) ②3.45	回転ナシ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。内面はナシ。	A 黒色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外灰53/1～青灰395/1。内青灰396/1	有	1/4
第5300	72	1区墳丘(臨阪坑)	須恵器	杯蓋	①(13.9) ②3.45	回転ナシ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精製。わずかに砂粒を含む。 B 良好 C 外青灰396/1。内灰36/1		1/2
第5300	73	1区墳丘(臨阪坑)	須恵器	杯蓋	①(13.2) ②3.3	回転ナシ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。内面はナシ。	A 精製。白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 外灰53/1～灰56/1。内灰39/1		口縁部1/8～体部1/3
第5300	74	1区墳丘(臨阪坑)	須恵器	杯蓋	—	回転ナシ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精製。黒砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰53/1～灰56/1。内灰55/1		体部1/3
第5300	75	1区墳丘(臨阪坑)	須恵器	杯蓋	①(12.0) ②3.3	回転ナシ後、天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 精製。黒砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰54/1～灰56/1。内灰1037/2	有	口縁部1/8
第5300	76	1区墳丘(臨阪坑)	須恵器	杯蓋	①(11.0) 受部径(14.3) ②3.2	回転ナシ後、底部外面は回転ヘラケズリ。内面はナシ。	A 胎色等を含まず精製。 B 良好 C 内外黒1032/1～555(黄)1037/2。内灰395/1		1/3

種別 番号	遺物 番号	遺構 (出土状況)	種類	詳細	位置 (G-1) ①の柱 ②部高 ③礎径 ④溝幅 ⑤最大径 ⑥埋入深	形状・技法	A: 胎土 B: 焼成 C: 色調	へら 番号	残存
第530R	77	1区墳丘 (盛土)	築造跡	杯形	①(11.3) ②部高13.3 ③礎径3.0	同軸ナゲ版。底部外面は砂肌ヘラケズリ、内面はナゲ。	A 焼成。土すから白色砂粒等を含む。 B やや不貞 C 外灰5%、内灰2.5% ②	有	2/3
第530R	78	2区墳丘 (盛土)	土師器	椀	①(11.6)	口縁へ外側にかけては内外面とも同軸ナゲ。底部外面はケズリ、内面はナゲ。	A 焼成。黒色炭粒・藍丹片をわずかに含む。 B 良好 C 内外径306/6		口縁部一部 →底面片
第530R	79	2区墳丘 (盛土)	土師器	平盤土師	①(9.2) ②部高3.0 ③礎径3.0	口縁部はわずかに指押さえた痕あり。胴部下平外縁はケズリ、底部外面はナゲ。	A 焼成。白色炭粒を含む。 B 良好 C 内外径316/4〜横350/6	底面1/2	口縁部1/6
第530R	80	2区墳丘	築造跡	礎	③部高3.0 ④脚部最大径9.6	口縁部を欠損する。口縁部下の基部部に1条と口縁部に2条の沈線あり。胴部上半に2条の沈線があり、その下を穿孔する。	A 焼成。砂粒を含む。 B やや不貞 C 外灰5%〜青灰3%、内青灰3% ①		口縁部以外 欠存
第530R	81	2区墳丘	土師器	椀	①(11.6)	口縁部はコナナゲ。胴部上半外面はハケ目、内面は横方向のナゲあり。	A 焼成。白色・黒色炭粒を含む。 B 良好 C 外径7.536/6〜内径7.536/6、内径7.536/6		口縁部片
第540R	82	2区墳丘	築造跡	杯形	①(11.6) ②部高3.0	同軸ナゲ版。天井部外面は同軸ヘラケズリ。	A 焼成。砂粒等を多く含む。 B やや不貞 C 外灰5%〜青灰2%〜灰3%、内灰5%〜青灰2%		口縁部1/2〜 天井部1/3〜 底部1/3
第540R	83	2区墳丘	築造跡	小臺	①(14.3) ②部高14.8 ③脚部最大径18.6	口縁部をやや外反し直立する。胴部中央に最大径がある。胴部は内外面とも同軸ナゲである。	A 焼成。面砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰5%〜灰7.5%、内灰3% ①		2/3
第540R	84	墳丘	築造跡	杯形	①(14.4)	内外面とも同軸ナゲである。	A 焼成。白色炭粒等を含む。 B 良好 C 外径432/、内径432/		口縁部1/3
第540R	85	墳丘	築造跡	杯形	①(13.0)	同軸ナゲ版。天井部外面は同軸ヘラケズリである。	A 焼成。砂粒等を多く含むが焼成。 B 良好 C 外径青灰3%〜灰6%、内径青灰3% ①		口縁部1/4
第540R	86	墳丘	築造跡	椀形	③脚部最大径19.2	口縁部を欠損する。同軸ナゲ版胴部外面は同軸ヘラケズリ。胴部成形時上位に円板を張り付け、同軸ナゲ調整を施す。胴部成形後、胴部の中央に穴を開けて口縁部を接合している。胴部には粘土塊を2年所に張り付けている。	A 砂粒を含む半焼成。 B やや不貞 C 内外径316/2	有	下部2/3
第540R	87	墳丘	築造跡	杯形	①(14.3) ②部高2.95 ③礎径1.4	同軸ナゲ版。底部外面は砂肌ヘラケズリ、内面はナゲ。	A 焼成。砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外径295/3	有	口縁部1/2
第550R	88	盛土	土師器	杯	①(15.6) ②部高2.95 ③礎径1.4	口縁部は内外面とも同軸ナゲ。底部外面は赤褐色で乾状沈みあり。	A 白土・灰質砂粒を含む。 B 良好 C 内外径306/2		口縁部1/4 底面1/3
第550R	89	盛土	築造跡	短脚盤	①(7.1) ②部高2.2 ③脚部最大径13.1	口縁部をやや内傾し立ち上がる。胴部中央のやや上には2条の沈線あり。胴部中央に最大径がある。同軸ナゲ版胴部下半から底部は同軸ヘラケズリ。	A 砂粒をわずかに含むが焼成。 B 良好 C 内外径334/〜青灰3% ①		ほぼ欠落
第550R	90	盛土	築造跡	椀形	③脚部最大径13.4	口縁部を欠損する。同軸ナゲ版胴部外面は同軸ヘラケズリ。胴部成形時上位に円板を張り付け、上半にケ目を開け、胴部成形後、胴部の中央に穴を開けて口縁部を接合している。胴部には粘土塊を2年所に張り付けている。	A 焼成。砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰3%〜灰2.5%〜灰5%、内径青灰3% ①	有	底部1/6
第550R	91	東側斜面	土師器	椀	①(11.6)	黒色土師。口縁部は内外面ともコナナゲ。	A 焼成。黒色炭粒をわずかに含む。 B 良好 C 外径7.537/6、内径7.537/3		1/4
第550R	92	東側斜面	築造跡	礎	①(22.8) ②部高17.4	口縁部をやや外反し直立し、口縁部下の外面に三角形の突縁あり。同軸ナゲ調整で、胴部外面は平行タタキ目。内面は同心円タタキ目あり。	A 胎土には砂粒が目立たないが、割れ目等には大きな砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 内外径512.536/2〜黒焼2.536/1・自然焼ナゲ2.536/2		口縁部1/2〜 底部上半径 1/2
第550R	93	東側斜面	土師器	高台付 椀	④(7.6)	黒色土師。底部内面はナゲで、一部でケ目痕あり。底部外面は同軸ヘラケズリ。	A 焼成。黒色炭粒・藍丹片をわずかに含む。 B 良好 C 外径461/37/6、内径461/37/3		高台部を 含む底面1/4
第550R	94	東側斜面	土師器	椀	①(11.2)	口縁部は内外面ともコナナゲ。	A 焼成。黒色炭粒を含む。 B 良好 C 内外径336/6〜横336/6		1/3
第550R	95	東側斜面	築造跡	高坪	③脚部径15.3 ④脚部径14.7	胴部のみ残存する。長脚で中央に2条の沈線がある。中央から上半はケ目を開け、下半は同軸ナゲである。	A 焼成。灰白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 外灰7.532/1〜灰2.536/2、内径灰3%〜灰2.536/2		脚部1/2 →下部底面 一部
第550R	96	東側斜面	築造跡	大礎	①(23.4) ②脚部最大径34.8	口縁部をやや外反し、口縁部下の外面に三角形の突縁がある。胴部上半は同心円タタキ目、外面は平行タタキ目である。	A 砂粒をわずかに含むが焼成。 B 良好 C 外径7.536/1〜灰7.536/1、内径白土7/1〜横432/		口縁部→ 肩部→ 胴部の一部
第550R	97	東側斜面	築造跡	大礎	③脚部最大径45.8	胴部下半〜底部内面は同心円タタキ目、外面は平行タタキ目である。	A 炭粒を若干含む。 B 良 C 外灰3%〜灰6%、内灰5%		底部→底面

詳細番号	遺構 (出土地点)	種類	跡形	法量 (cm) ①白土 ②赤土 ③底径 ④高台径 ⑤最大径 ※ () は元尺	形態・技法	A: 粘土 B: 焼成 C: 土調	ヘラ記号	残存
1・2号型穴建物跡								
第5901	1号 型穴建物跡 P 1	土器器	陶	①(11.0)	口唇部がわずかに内湾する。底部上辺はナゲ後よりナゲ調整。底部外面はヘラケズリ。	A 黒色黒砂粒を含む。 B 良好 C 赤黒 536/3、内径 536/6 ~ 黄緑 T. 037/8		口縁部1/3
第5902	1号 型穴建物跡 P 2	瓦器器	杯身	①(18.7) ②3.7	回転ナゲで、底部外面は回転ヘラケズリ。	A 白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 赤灰 535/1、内径 536/		口縁部1/4 ~ 天井部1/3
第5903	1号 型穴建物跡 P 2	瓦器器	高杯	①(12.2)	高杯の杯身片で、杯部係部は回転ナゲ成形跡、外面にナゲ目と調整痕3本の沈線を描いている。	A 白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 赤灰 535/1、内径 536/1		口縁部1/4
第5904	1号 型穴建物跡	瓦器器	杯蓋	①19.7 ②交差径12.6 ③2.4	回転ナゲ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ココナゲ後ナゲ。	A 白色砂粒を多く含む。 B やや不良 C 赤灰 535/1・2、内径 531.2		完整
第5905	1号 型穴建物跡 P 3	瓦器器	杯身	①12.2 ②4.1	回転ナゲ後底部外面は回転ヘラケズリ。	A 白色砂粒をわずかに含む。 B やや不良 C 赤灰 537/2、内径 531.2、内径 537/1 ~ 539/1		底部宮内へ 口縁部3/4
第5906	1号 型穴建物跡 P 2	瓦器器	鉢	①16.5 ②18.1 ③最大径18.2	口縁部、胴部上縁は回転ナゲ、胴部上縁は回転ナゲで、下平面は回転ヘラケズリ。胴部最大径部の上縁に孔を有し、孔の上縁・下縁に1本の沈線があり、その沈線間に刺突文を施している。	A 白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 赤黒 536/1 ~ 535/、赤灰 536/ ~ 535/		体部宮内へ 底部宮内へ
第5907	1号 型穴建物跡 P 4	土器器	甕	①16.5 ②18.1 ③最大径22.4	口縁部はココナゲ、内面は浅いココ方向ハケ目と調整。胴部外面も浅いハケ調整。内面はヘラケズリ。口縁部は赤土。底部は中や平底である。	A 白色砂粒を含む。 B 良好 C 赤黒 536/1 ~ 535/、赤灰 537/1 ~ 536/		ほぼ完整
第5908	1号 型穴建物跡 埋土上層	瓦器器	杯蓋	①(18.1) ②2.9 ③交差径2.6	回転ナゲ後、天井部外面は回転ヘラケズリ、内天井部は回転ナゲ後了部ナゲ。天井部内面に径約0.5cmの垂り痕がよによる色線跡がある。	A 白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 赤外灰 536/ ~ 535/		01月03日
第5909	1号 型穴建物跡 埋土上層	瓦器器	甕	①(18.3)	口縁部の内面は回転ココナゲ調整、胴部外面は粘り状タキ、平行タキである。胴部内面・断面部で接合痕跡をみる。	A 砂粒をわずかに含む。 B やや不良 C 赤外灰 535/ 537/2		口縁部片
第5910	2号型穴建物跡	瓦器器	杯身	①11.1 ②交差径13.4 ③4.1	回転ナゲで、底部外面は回転ヘラケズリ。内面はココナゲ後ナゲ。	A 灰色砂粒・黒色黒砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 赤灰 532. 535/2 ~ 535/、内径 537/1		1/2
第5911	2号 型穴建物跡	瓦器器	杯蓋	①(13.2) ②2.7 ③交差径3.4	回転ナゲで、天井部外面は回転ヘラケズリ後、ナゲ目を施す。体部と口縁部の間に沈線を描く。口縁部は内側にわずかに段あり。天井部内面には当て具痕あり。	A 白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 赤外灰 536/1 ~ 537/、535/1		1/2
第5912	2号 型穴建物跡	瓦器器	杯身	①(11.8) ②交差径(14.0) ③3.6	回転ナゲで、底部外面は回転ヘラケズリ。	A 白色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 赤外灰 533/1 ~ 533/1、内径 534/1	有	1/3
第5913	2号 型穴建物跡	瓦器器	杯蓋	①(12.0) ②4.5	回転ナゲで、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面は一部ナゲ。口縁部と体部の間に沈線あり。口縁部内面に段あり。	A 灰色砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 赤灰 536/1、内径 536/1		口縁部一部 ~ 天井部1/3
第5914	2号 型穴建物跡	瓦器器	杯蓋	①(11.8) ②交差径(14.0) ③3.6	回転ナゲで、天井部外面は回転ヘラケズリ、内面は一部ナゲ。口縁部と体部の間に沈線あり。	A 灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 赤外灰 533/1、内径 536/		口縁部小片
第5915	2号 型穴建物跡	瓦器器	杯蓋	①(13.2)	回転ココナゲで成形し、回転ヘラケズリで調整している。内天井部は回転ココナゲ後ナゲで、口縁部は沈線とあわせて、外側に沈線状の調整をみる。	A 白色・灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 赤外灰 536/1 ~ 536/1 調整状に 535/		口縁部1/3 ~ 天井部1/3
第5916	2号 型穴建物跡	瓦器器	杯身	①(11.8) ②交差径(13.6)	回転ナゲ。	A 黒色黒砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 赤灰 535/1 ~ 536/1、内径 536/1		口縁部1/2
第5917	2号 型穴建物跡	瓦器器	杯蓋	①(13.4)	回転ナゲで、天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面は回転ナゲ後ナゲ。	A 灰色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 赤外灰 533/1		口縁部1/6
第5918	2号 型穴建物跡	瓦器器	杯蓋	①(11.0)	回転ナゲで、天井部外面は回転ヘラケズリ。	A 灰色砂粒等を多く含む。 B 良好 C 赤外灰 532. 535/、内径 535/2		口縁部1/4
第5919	2号 型穴建物跡	瓦器器	杯蓋	①(13.2) ②3.5	回転ナゲで、天井部外面は回転ヘラケズリ、天井部内面は回転ナゲ後ナゲ。	A 白色・灰色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 赤外灰 536/1 ~ 536/1 で整状にみられる		口縁部1/3 ~ 天井部1/3
第5920	2号 型穴建物跡 埋土上層	瓦器器	高杯		胴部は回転ナゲで、杯部縁部の下位にカギ目と調整し、胴部の中心に2本の沈線あり。	A 白色黒砂粒をわずかに含む。 B 良好 C 赤灰 534/1、内径 535/1		胴部片
第5921	2号 型穴建物跡 埋土上層	瓦器器	甕		回転ナゲ。口縁部外面の下に突刺あり。	A 白色砂粒等をわずかに含む。 B 良好 C 赤黒 532/ ~ 535/、灰白 537/1 ~ 535/1		口縁部片

種別 番号	遺物 番号	遺構 (出土位置)	種類	図種	位置 (m) ①の柱 ②部高 ③底径 ④溝幅 ⑤最大径 ⑥()は概算	形態・技法	A:胎土 B:焼成 C:色調	へろ 番号	残存
第99図	22	2号 壱六律部跡 埋土層	土器器	柄		磨滅のため形態不明。	A 黒色煎砂粒をわずかに含むが焼成 されていない。 B 貝 C 外径7.536/6、内径7.537/6		口縁部片
第99図	23	2号 壱六律部跡 埋土層	土器器	高杯小	①(12.8)	磨滅のため形態不明であるが、丁寧なつくり である。	A 砂粒をほとんど含まない。 B 貝 C 外径5.336/6～にぶい黄緑1036/4、 内径3.936/6		坏部
第99図	24	2号 壱六律部跡 埋土層	土器器	高杯	②総径8.6	図形で、底部は大きく外開している。外面は へろ状の目によるすだめ状の凹凸調整で、 内面ではナツ調整である。	A 砂粒を含まず、焼成されている。 B 貝 C 径3.936/6～にぶい黄緑1036/4、 内径黄緑1036/6～黄緑7.537/6		脚部ほぼ完全

土製品

種別 番号	遺物 番号	出土位置	種類	図種	位置 (m, g) ①長さ ②幅 ③高さ ④重さ	A:胎土 B:焼成 C:色調	残存
第99図	3	2区墳丘	土製品	模造鏡	①3.2 ②1.8 ③1.3 ④重.1	A 砂粒を含む B 中や貝 C 明黄緑1037/6	完形
第99図	4	2区墳丘 (盗掘孔)	土製品	模造鏡	①3.7 ④5.1	A 砂粒はほとんど含まず B 中や貝 C 明黄緑1037/6	1/2
第99図	5	2区墳丘	土製品	模造鏡	①3.7 ④5.6	A 砂粒はほとんど含まず B 貝 C 明黄緑1037/6	2/3
第99図	6	2区墳丘	土製品	模造鏡	①3.8 ②1.25 ④5.9	A 白色砂粒・粘土をわずかに含む B 貝 C 明黄緑1037/6	5/6
第99図	7	2区墳丘	土製品	模造鏡	①2.6 ②2.7 ③1.55 ④5.9	A 5mm以下の石屑を含む B 貝 C 径7.536/6	完形
第99図	8	2区墳丘	土製品	模造鏡	②2.4 ③1.1 ④7.4	A 砂粒をほとんど含まず B 貝 C 明黄緑1037/6	4/5
第99図	9	2区墳丘	土製品	模造鏡	①3.2 ②1.8 ③1.5 ④5.4	A 白色砂粒・粘土をわずかに含む B 中や貝 C 明黄緑1037/6	鏡上部を 欠損する
第99図	10	2区墳丘	土製品	平形土器	①12.7 ②1.65 ③最大径3.3 ④14.9	A 白色煎砂粒・黄緑を多く含む B 貝 C 径7.536/6	完形
第99図	11	2区墳丘	土製品	平形土器	①(1.45) ②16.9	A 白色煎砂粒をわずかに含む B 貝 C にぶい黄緑1037/4	1/3程度
第99図	12	2区墳丘 (盗掘孔)	土製品	平形土器	①2.8 ②1.9 ④14.2	A 砂粒をほとんど含まない B 貝 C 径7.537/6	3/4
第99図	13	2区墳丘 (盗掘孔)	土製品	平形土器	①(1.9) 最大径3.6 ④9.5	A 白色砂粒を含む B 貝 C 径7.536/6	1/4
第99図	14	3区墳丘	土製品	平形土器	①2. ②1.7 最大径2.9 ④16.4	A 白色煎砂粒を含むが、焼成 B 貝 C 径7.536/6	ほぼ完形
第99図	15	3区墳丘	土製品	平形土器	①2.95 ②(1.56) ④5.4	A 砂粒をほとんど含まない B 中や貝 C 径7.537/6	口縁部1/4強
第99図	16	2区墳丘	土製品	平形土器	①(12.4) ②1.3 ④4.8	A 砂粒はほとんど含まないが粘土をわずかに含む B 中や貝 C にぶい黄緑1037/4	口縁部を 1/2欠損するが ほぼ完形
第99図	17	2区墳丘	土製品	平形土器	①(1.0) ②1.80 ④4.8	A 白色砂粒・黄緑・粘土を含む B 貝 C にぶい黄緑1037/4	1/4
第99図	18	2区墳丘	土製品	平形土器	①(1.25) ④5.1	A 白色砂粒をわずかに含む B 貝 C にぶい黄緑1037/4	1/2程度

装身具（耳環）部位計測表土製品

標記番号	遺物番号	遺物名	部種	法量 (mm)				重量の測定値 (g)
				a	b	c	d	
第2900	4	2号墳 墓環	耳環	26.4	25.2	5.8	5.2	7.4
第2900	5	2号墳 3区墳丘	耳環	23.7	21.9	6.2	4.8	8.3
第2900	6	2号墳 3区墳丘	耳環	22.3	20.7	2.5	2.9	2.6
第2900	7	2号墳 墓環坑	耳環	26.2+a	26.3	6.2	6.7	14.5
第5700	1	5号墳 墓環坑	耳環	28.8	25.5	5.8	5.8	13.4
第5700	2	5号墳 土室	耳環	21.1	21.9	3.5	3.2	2.3

装身具（玉類）計測表

標記番号	遺物番号	遺物名	部種	材質	色調	法量 (mm)				重量の測定値 (g)
						長さ	径	孔径	d	
第1900	1	1号墳 墓環坑 (土室)	小玉	ガラス	スカイブルー	4.4~4.5	4.7×4.9	1.2	5.2	0.1
第1900	2	1号墳 墓環坑 (土室)	切子玉	瑪瑙小	赤紫～濃赤紫色	17.0	11.4×13.7	4.3~4.1	4.8	4.1
第4100	1	3号墳 墓環坑	小玉	ガラス	スカイブルー	4.6~5.8	5.0×6.8	1.6	2.9	0.2
第4100	2	3号墳 墓石置き坑	丸玉	ガラス	紺色	7.4~7.8	2.0×2.1	2.0~2.1	6.7	0.1

石器類

標記番号	遺物番号	遺物名	部種	法量 (mm)			残存	備考
				①長さ	②幅	③重量		
第1900	3	1号墳 墓環坑	砥石	①36.25 ②1.55 ③49.4	②1.75 ③0.5			石長長石塊前
第2900	8	2号墳 墓環土層	石鏡	①1.65 ②6.4	②3.1 ③0.5		約1/2残存	磨曜石
第2900	9	2号墳 4区墳丘	石鏡	①2.5 ②6.35	②3.9 ③1.0		ほぼ完整	磨曜石
第2900	10	2号墳 墓環土層	結核率	①上面径3.80~3.90 下面径4.02~4.23 ②1.42 ③3.0			ほぼ完整	滑石
第4100	3	3号墳 1区墳丘	石鏡	①5.7 ②1.9	②4.7 ③26.4		ほぼ完整	安山岩
第4100	4	3号墳 3区墳丘	石鏡	①1.4 ②6.3	②3.4 ③3.3		完整	頁岩
第4100	5	3号墳 1区墳丘	石鏡	①6.25 ②2.25	②5.4 ③26.9		完整	安山岩
第5700	19	5号墳 2区墳前東側	銅片	①3.1 ②6.5	②1.7 ③2.7		基部の一部を残存する	
第5700	20	5号墳 2区墳立墓環坑	石鏡	①2.5 ②6.35	②3.9 ③3.2			安山岩
第5700	21	5号墳 3区墳丘	石鏡	①2.95 ②6.4	②2.6 ③3.3		基部部？基部以外残存	安山岩
第5700	22	5号墳 4区	石鏡	①6.9 ②3.9	②5.55 ③26.5		完整	砂岩

图 版



(1) 調査区全景 (北東から)



(2) 調査区全景 (上が南)



(1) 1号墳全景 (上が北東)



(2) 1号墳石室掘方全景 (上が北東)



(1) 1号墳周溝土器出土状況(南西から)



(2) 1号墳周溝土器出土状況(南東から)



(3) 1号墳周溝出土土器A群(南西から)



(4) 1号墳周溝出土土器B群(南西から)



(1) 2号墳全景 (上が東)



(2) 2号墳石室掘方全景 (上が東)



(1) 3号墳全景 (上が南東)



(2) 3号墳石室掘方全景 (上が南東)



(1) 3号墳周溝土器出土状況
(南西から)



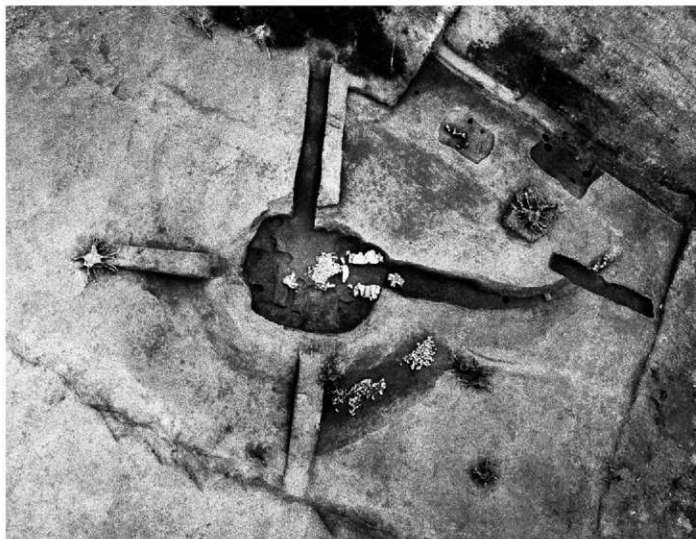
(2) 3号墳周溝土器出土状況
(南東から)



(3) 3号墳周溝土器出土状況
(南西から)



(1) 4号墳全景(上が西)



(2) 5号墳全景(上が東)



(1) 5号墳石室全景 (上が東)



(2) 5号墳玄室遺物出土状況 (東から)



(1) 5号墳周溝検出状況 (南から)



(2) 5号墳墓道土層断面 (南から)



(3) 1号竪穴建物跡
(北東から)



(4) 2号竪穴建物跡
(南東から)



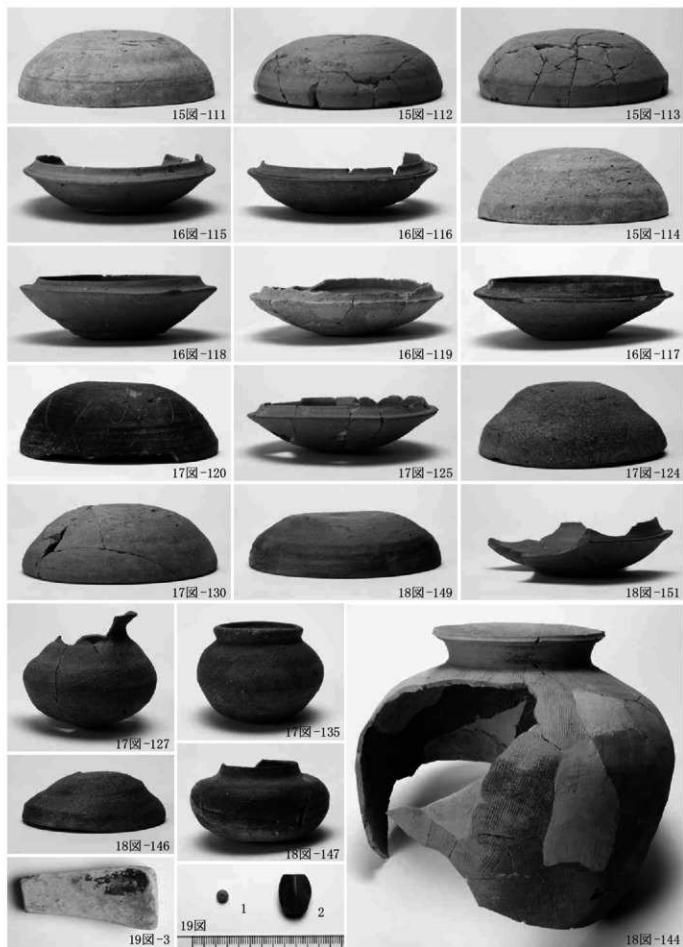
1号墳出土土器①



1号填出土土器②





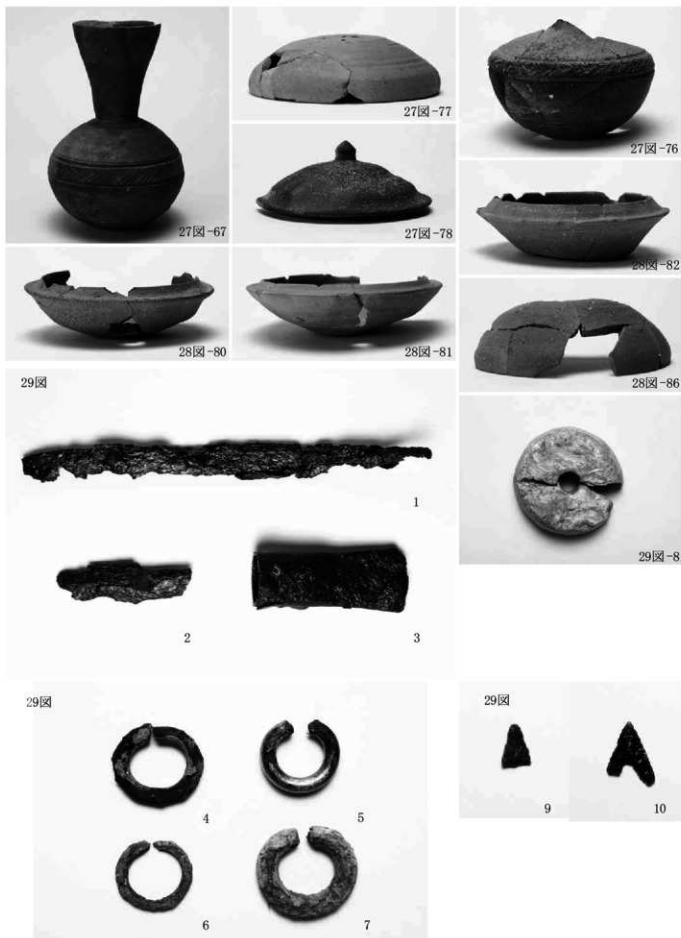


1号墳出土土器⑤、石器、玉類

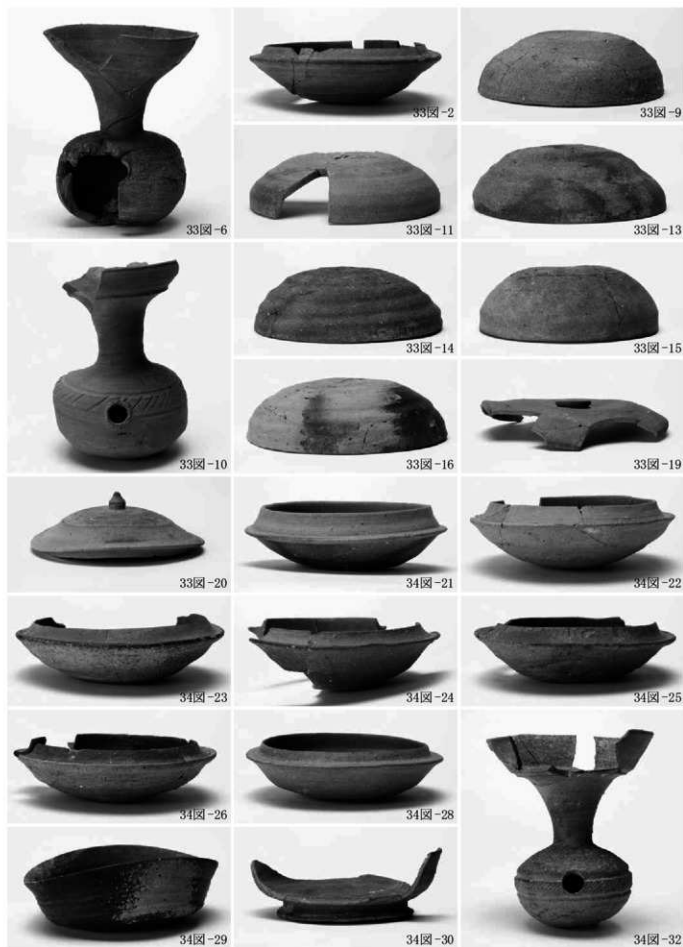


2号填出土土器①





2号填出土土器③、铁器、石制品、耳環、石器



3号填出土土器①



3号填出土土器②



3号墳出土土器③

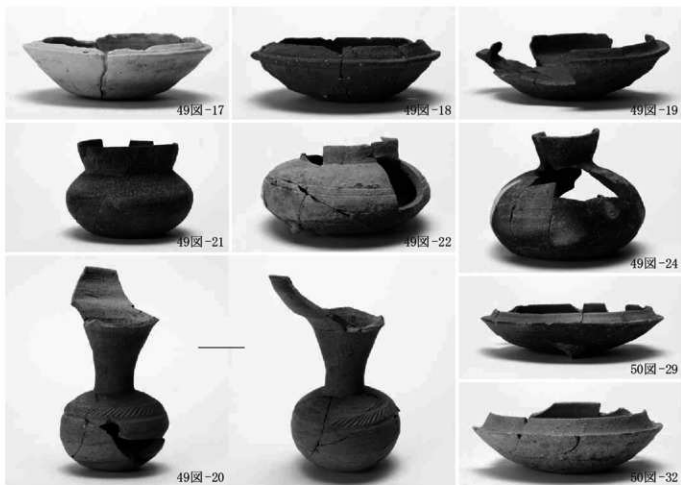


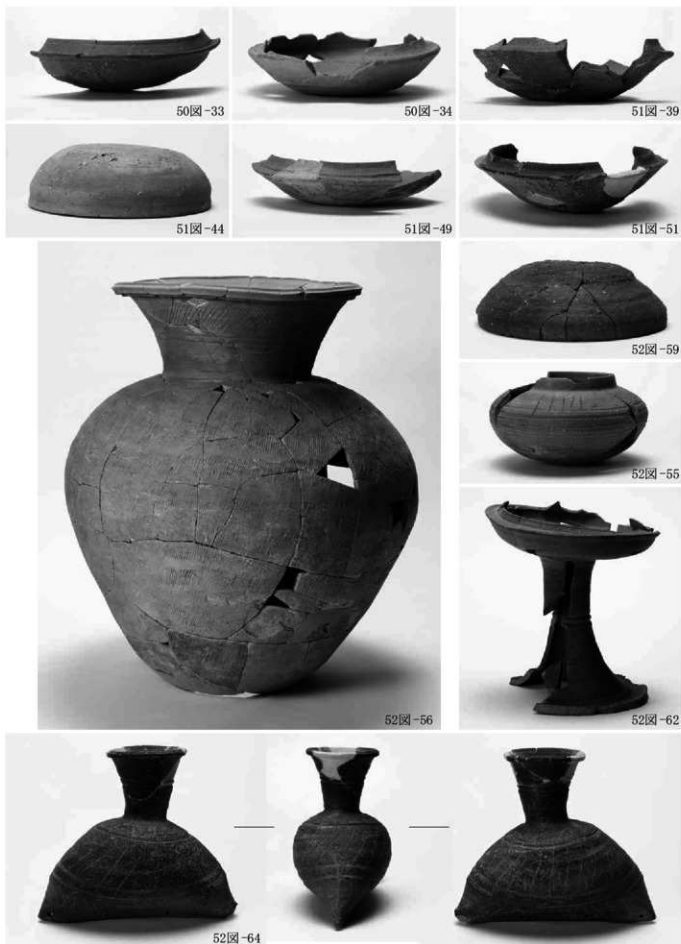
3号填出土土器④





3号填出土土器⑥、石器、5号填出土土器①

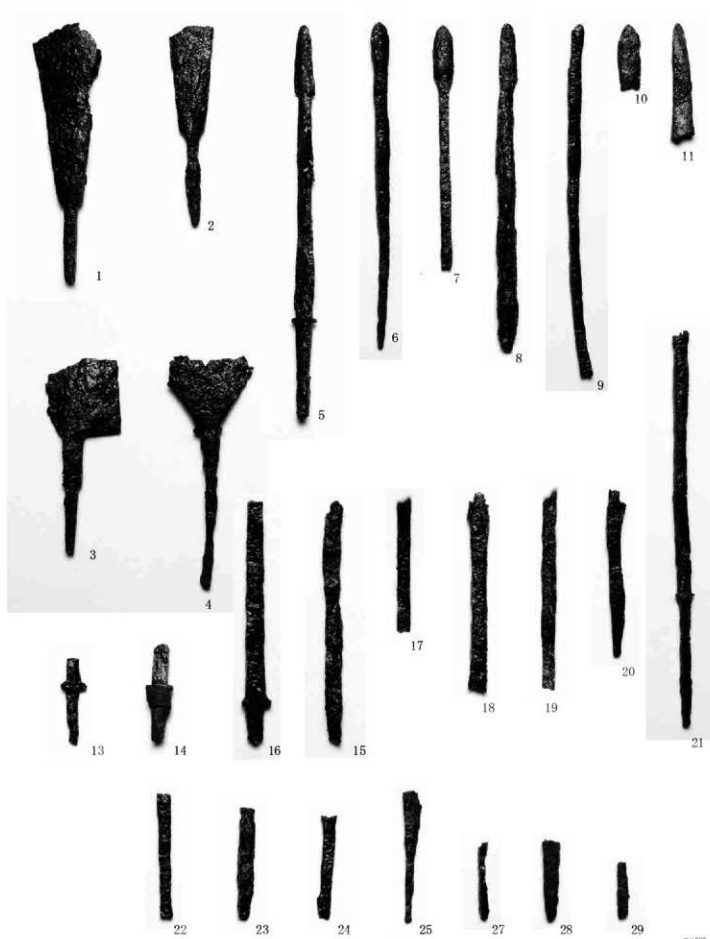




5号填出土土器③

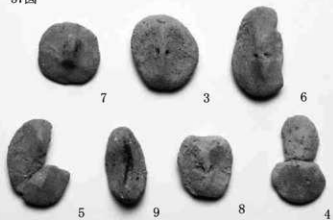


5号填出土土器④



5号墳出土鉄器

57图



57图



57图



57图-22

57图



59图-4



59图-6



59图-7



59图-5



59图-8

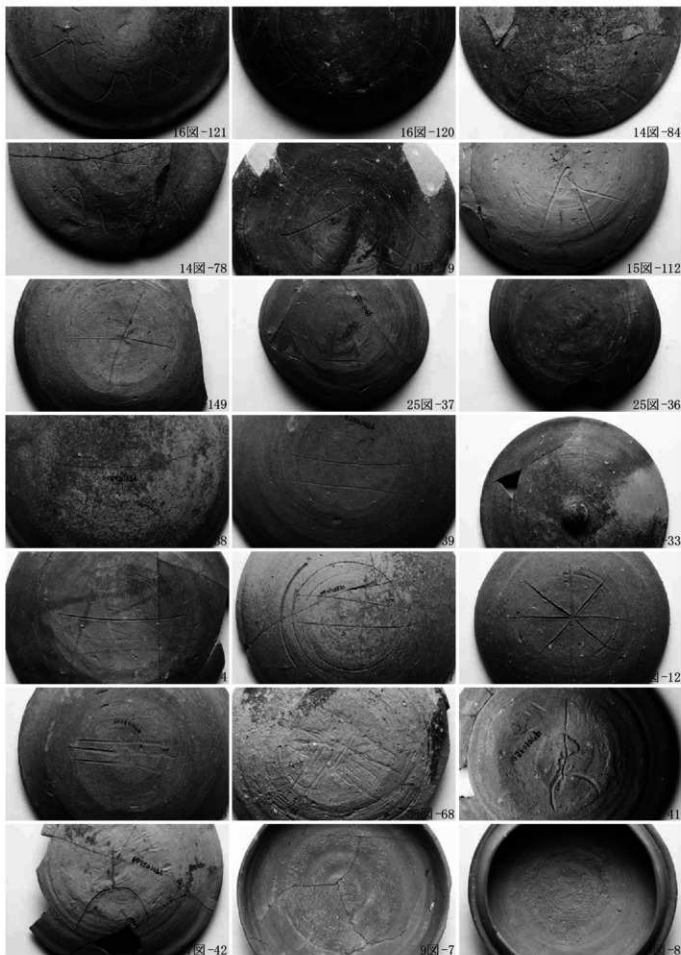


59图-11



59图-10

5号填出土土製品、耳環、石器、1・2号竪穴建物跡出土土器



出土須恵器のへら記号、当具痕

報告書抄録

ふりがな	つかはらこふんぐん							
書名	塚原古墳群 2次調査							
副書名	福岡県春日市塚原台所在遺跡の調査							
巻次								
シリーズ名	春日市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第80集							
編著者名	森井千賀子							
編集機関	春日市教育委員会							
所在地	〒816-0804 福岡県春日市原町3丁目1番地5 TEL 092-584-1111							
発行年月日	2019年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村番号	遺跡番号					
塚原古墳群	福岡県春日市 塚原台3丁目	40218		33° 30' 43"	130° 27' 55"	1997.4.10 } 1997.8.18	3,966 m ²	開発に伴う緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
塚原古墳群	古墳	古墳	円墳	須恵器				
要約	<p>当遺跡は牛頭山より派生する春日丘陵の南部に位置し、標高57m前後を測る。丘陵の尾根上に円墳4基と、南東側斜面に円墳1基、堅穴建物跡を検出した。</p> <p>古墳はほぼ盗掘され、石室の石材はほとんど抜かれていた。墓道は南から南西方向に掘られており、堆積状況から追葬が行われていたことが伺える。6世紀後半から7世紀前半の須恵器が多数出土した。</p>							

塚原古墳群

— 2次調査 —

春日市文化財調査報告書 第80集

2019年3月31日

発行 春日市教育委員会
福岡県春日市原町3丁目1番地5

印刷 大道印刷株式会社
福岡県春日市日の出町6丁目23
